

アジサイ (久米寺)

五月五日春日大社「万葉植物園」
 神苑に愛らしく舞い遊ぶ胡蝶
 延喜六年(906) 宇多上皇は
 童相撲をご覧になられた
 山城守藤原忠房が曲を作り
 式部卿敦実親王が舞振りをつけた
 身につけた袍には胡蝶の刺繍
 美しい蝶の羽根を背に負い
 山吹の花をさした天冠をかぶり
 手に山吹の花枝を持って舞う
 四人の舞人 高麗笛 箏
 何とも言えない古雅な響き
 優雅に可愛らしく花に戯れる蝶
 飛びながら右回りし後向きになり
 咲きこぼれたる花の陰に舞い入る

カキツバタ (器之媛命陵)



Photo essay

胡蝶菜

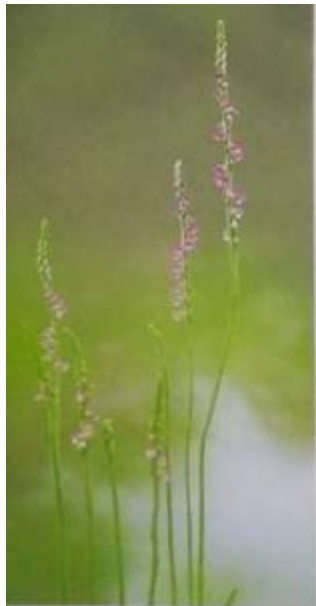


題字 中田 葉 石
 撮影 山井 収
 文 松 永 恵 一

舞楽 (万葉植物園)



季節の



ネジバナ



古道と古木

滝坂の流れ

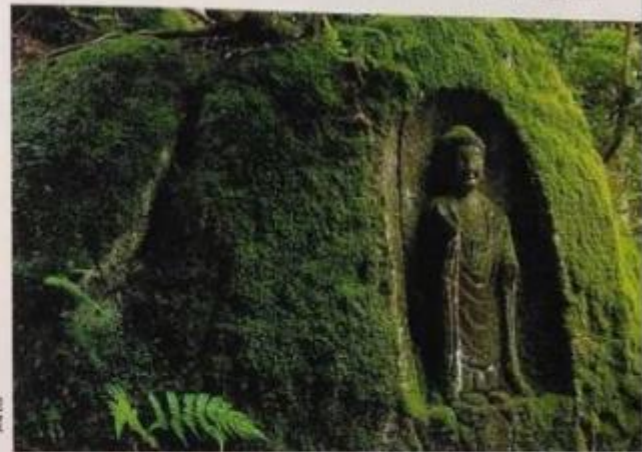


実景

初夏

柳生・滝坂の道

撮影 武市通治



地獄

地獄谷新池





ブナの道 (白山駅近岳) 一芝 義雄

ミヤマキリシマツツジとお鉢 (高千穂峰) 三浦 弘幸



シャクナゲ (比良) 中川 光郎

クリンソウ (京都北山・愛宕山) 中川 光郎





北海道登山と熊の話し

金谷 昭

北海道の登山から帰って来ると必ず熊(熊)に遭遇しなかつたかと尋ねられる。昨夏、日高山脈山岳センターにて展示資料を見て、管理人や北海道の岳人から熊についての話を聞いた。

熊の棲息数は北海道全域で毎年の捕獲数・出沒数と自然死からの推定で3000頭とも4000頭ともいわれている。棲息環境の変化のためであろうか、昨夏は羊蹄山の山頂付近に出没しているのが、全道の森林地帯には棲息していると考えられるべきである。

熊は基本的に人間を恐れている。たいていは人間と出会うのを避けて逃げ出すようである。

子連れ熊は例外で、母熊は人と出会っても小熊を置いて逃げようとするとはしない。

熊は聴力・臭覚共に優れ、また視力も300m程離れていても双眼鏡で見ると視線が合い、遠く離れていても人の行動が彼らに察知されている。

本来熊は分類学上は肉食性に入っているが、今では完全な雑食性となっている。馬牛等の大型草食獣に比べて胃腸が短く固い植物繊維はほとんど未消化で排泄されるため、多食する植物性の食物はフキ等の多汁質の草か栄養分の高い草、そして草や木の果実である。動物性の食物もいろいろ食べるが、鳥類や獣の毛は消化できず原型のまま排泄する。人が食べるものなら何でも食べ、食性は人よりはるかに広い。

日高地方では、冬眠前の秋季に川を遡上する鮭を求めて谷筋に降りて来る。そして春を経て

「夏、熊は山に登る」と言われている。

夏季登山者の絶好のキャンプサイトとなる山上のカール地帯に、熊は清涼な気候と餌となる山菜や果実を求めて登る。かつて登山者の食材が狙われる悲劇の原因となった場合もある。

熊の被害、逆に熊から見て人間に危害を加える原因として次の三つが考えられる。

(食害) 熊が空腹で食物に渴望している。特に動物性食物を渴望している場合である。

(排他) 人が所持している食物・家畜・作物を手に入れるため、あるいは手に入れた物を保持し続けるため。人の存在が邪魔となるような場合。獲者に對して身を守る場合、特に子連れの熊が小熊を保護する場合がそれに当たる。

(戯れ苛立ち) 人を戯れの対象とする場合や苛立っている場合

には狂氣的に襲う。

では熊に襲われないため、万一襲われた場合の対処方法としては次の各点が掲げられる。

(1) 重要なものは熊との遭遇を避けることである。登山領域はほとんど熊の棲息地といつてよく、音を立てて積極的に人の存在を熊に知らせる。鈴・笛・爆竹・大声を出すことによって回避できるといわれている。

(2) 食料や生ゴミを不用意に捨てたり、テントの外に置いたりせず、食物の存在を極力知らせない。残飯や果物の皮を土に埋めても臭覚の優れた熊には同じで、一度人間の食物の味をしめた熊は再度狙ってくるといわれ、まして一度熊の手にした食料は絶対に諦めることである。

(3) 保身道具について、北海道の漁師・養蜂家・林業関係者は鉈(鉈)を必ず持ち、握っても手が震れない程度の大きさが必須とさ

れているが、われわれ登山者が有効に使えるかは疑問だ。最近出版されている熊除けスプレーは有効噴射距離が3〜4mしかなく、有効性はほとんどなく、気休めにしかならない。忌避剤(唐辛子成分)と思ひ込み、登山路に散布すると逆に熊に自然にない臭いだと言われ、逆効果といわれている。

(4) 不幸にして遭遇した時は、静かに熊から離れること。背中を見せずに逃げるのは絶対駄目、それでも遠くまで来るなら大声を出し、そこらの小石や木の枝でも拾って投げつけ熊の気をそらして後退する。それでも熊が襲って来たら怯まず鉈で、どの部分でもよいから叩きつけるのがよいといわれているが、正直言って一般登山者にはそこまでできるのは無理と思える。

昔から「熊に出会ったら死んだふりをする」と危言を加えず立

ち去る」というのは根拠のない間違った対処法で、人に寄ってくる熊にとって「死んだふり」は全く好都合で危害を大きくするだけ。爪や歯で咬まれ引掻かれたりして、なかには耳を削られたり、死んだふりで襲ってこない熊なら冷静に話かけでもすれば決して襲ってこないともいわれている。

同センターには日高山脈の熊や登山(徒歩地の水鳥等)の最新情報が掲示されているので問い合わせをされるとよい。

私が今まで熊に遭遇しなかったのは、登山者の多い盛夏にバリエーション・コースを避け、一般コースを鳴り物入りで登山をしていたのがよかつたのかと思っている。

・日高山脈山岳センター

中札内村東一条南2-18

TEL 0155 (69) 4378

随想 (山のエッセイ)



三ツ峠山と御坂山から黒岳

甲州

田中 明

三ツ峠山は富士山の見えるベストワンの山として、また岩登りのゲレンデとして関東方面で多くの登山者に親しまれている。が、それよりも植物の種類が多いことで余りにも有名だとインターネットで見ると、喜び勇んで新ハイの賢見リーダーの自然観察山行に参加した。

前夜発でいつもの岐阜駅に夜の23時集合。眠れぬ長時間の夜行バスでは忍耐力の戦いだいが、あんな花こんな花に会えるのだと思いつきながら、現地へ早朝に到着した。

今回もリーダーの手配により、今晚泊まる河口湖畔のペンションで朝食をとり、夜行の疲れもおさまった頃に、三ツ峠山

のピークを横した岩山の公衆トイレ・あずまや・広い駐車場などがある、きれいに整備された登山口の緑の森公園に到着した。ここまですっと口を動かして賑やかだったドライバーのバスともいったんお別れである。

さあ、これから花・花・花の連続の表口登山コースである。歩き出すとすぐに花の色をホタルの光にたとえるホタルカズラの群生が出迎えてくれた。いきなりあたりがさも紫色の絨毯のようで、その感動にみんな一瞬声も出ないくらいである。ホソバテンナンショウもきれいな小葉を広げていて、「ようこそいらっしやいませ」と歓迎してくれているようだ。

ワチガイソウ



次はシソ科キランソウ属のジュウニヒトエが一株だけ見事に咲いており、園芸種以外では初見であったため、思わず興奮した。写真を撮ることすらも忘れて、周りの人たちとあだこうだと話はずんだ。

その後まだ興奮冷めやらぬうちに、ササバギンランの登場である。上の方ではギンランも見られた。

これらラン科の花たちは希少種の野草で人気があり、ややもすれば花盗掘に遭



うはめとなのだが、これだけ名高いコースのあちこちで見られることには驚いた。関東方面の登山者の花を羨しむマナーが守られているということだろう。私たちも見習う必要がある。

ひと登りで汗を感じるようになってゲルマ石から大曲がりあたりを登ると、山野草ばかりか樹木花も出てきた。バラ科キミズミ、スイカズラ科ツクバネウツギ、カエデ科ハウチワカエデたちがそれぞれ特色ある花で着飾っている。

ふと足元を見れば、黄の花のミツバツチグサ・ヘビイチゴ・ツルキンバイなどのバラ科の上品な花たちが随所で地面に這いつくばっている。

これらキジムシロ属と違い、同じバラ科の木本であるキイチゴ属類は比較的同定も容易であろう。特にモミジ・ニガ・バライチゴは個体数が多いだけに簡単に見分けられる。

チゴユリは可愛く白い花弁をつけていたが、その他のユリ科のユキザサ・アマドコロ・ミヤマナルコユリは蕾で開花ま

ではもう少し日数がかかるだろう。また、三ツ峠山のガイドブックで案内されているマイソウソウはさすがにあち

こちで群落を形成していたが、咲き初めで鶴が羽を広げて飛びたんとするように見えるのはもう少し先になりそうだが、みんなはどこでも見飽きるほど見ているためか、花名の声を出す者もいない。

このコースは富士山の一般の展望台だとのことでもあったが、きょうばかりかあすもきめて見晴らしの全くきかない空模様で、富士のふの字も見えなかった。花の連続でメンバーはだれひとりとして富士山が見えないことに不足は言わない。いや不足どころかいろいろ花の名前で頭がいっぱいなが本音だろう。

股のぞきからも、いつもなら富士山が満喫できるようだが、きょうは黙って素通りである。

きつい登りを何度か繰り返して、巨岩をぬうと、あたりはトウゴクミツバツチグサが多く見られるというが、時期が合わず残念であった。

その後すぐに八十一体の仏像の顔が全て異なると言われている八十八大師に着き一本立てる。ザックを下ろしてもすぐにこれは何、あれは何とあちこちで花の同定が始まる。みんなはどれだけ花を見れば納得するの

だろつかと思いがち、やっぱり自分も同じ行動に出ているのである。

ここには小さな花弁をつけた黄花のバラ科の仲間が多かった。なかでも咲き出すと紫紅色の花があたりを華やかにするキンポウゲ科シキンカラマツが、薄紅色の萼片をちらっと見せるだけの開花準備中で、大勢が群がった。

花の妖精たちが延々と続いたが、ガレ場を過ぎ、急な登りからようやくゆるやかにになったのに気がついて真上を見上げると、1000以上の高さはあるという岩登りゲレンデの屏風岩がある。

その直下が登山道であり、岩登りの数人が攀じ登る仲間を見上げていた。岩場幅は2000円で落石などの危険のため、われわれは足早にその場を通過する。

急登の階段を駆け上ると、山荘なら三軒が建つほどの広場に出て、一気に開運山の名を持つ、1785坪の三ツ峠山の頂上到着である。ここでも富士山は見えない。よそう富士山の話は、今回は花巡りのだから、とどこからか聞かえたような気がした。

カメラタイムが済むと隣のピークへ廻ろうと言うリーダーの声にびっくり。そ

も立ち止まらざるを得ない。

スミレ類もタチツボ・エイザン・ツボスミレやキバナノコマノツメなど多く見られたうえに、リーダーが見つけたアカネスミレには一斉にカメラが殺到した。

ゆるやかで足にやさしい下り道は、午前中の表口登山道の急登がうそのようである。展望はないが、緑が鮮やかで小鳥たちの歌う声は何にもましてうれしい。

ゆっくりすぎたため、リーダーの足が相当早くなり、なんとか天上山ロープウェイの富士見台駅に営業時間最終に間に合った。西日を受けてキラキラ光るさざ波の河口湖の景色も、忘れることのできない思い出となった。

河口湖畔の一夜は花酔いでぐっすり眠れなかった。翌日は太宰治が『富嶽白雲』で書いた「富士には月見草がよく似合ふ」の文字碑が立つ天下茶屋登山口から、初夏から初秋にかけて咲くマツヨイグサの黄花を思い浮かべながら、自然林の新緑のシャワーの快適な急登を元氣よくスタートできた。

途中ホソバシタナゲを観察し、ほどなく稜線に突き上げ、少しばかりで御坂山(1596m)である。尾根にはきのう

の山名は以前飛行機が墜落した名と全く同じではないのかとの問いに、リーダーはすかさず、たしかに御坂山と名は同じだが、その山ではないとの説明に安心して歩を進めた。

そうは言っても何か気味が悪いような気がしていたが、歩けばシロバナエンレイソウや私の大好きなルイヨウボタンがこれぞ群生といえるほど林床に並んでおり、感激の瞬間に気分も変わり、頭の中はまた花でいっぱいとなってしまった。

ヒロハユキザサ・タチカメバソウ・サンリンソウ・フデリンドウが咲き、極めつきは出かける前にネットで予約をしていたナデシコ科のワダソウとワチガイソウの内のワチガイソウにも出会えたことだ。興奮が最高潮となってなかなか進めないで、みんなにどんどんおいていかれる始末。こんな高所で通年営業している四季楽園前の広場での昼食の輪に最後の数人で駆け込んだのもである。

しかし、ワチガイソウの風のもう一つのワダソウには今回は出会えず、唯一心残りとなった。いつか八ヶ岳でも出会いたいと心に決めた。

昼食広場で腹を下ろして顔を上げると

とは同じ花たちが待っていてくれた。

他にはクリンユキフデ・ハンショウヅル。ユリ科のホンツバアマンナが可愛い茎で五個の花弁を広げていた。もちろんみんなはきのうのナデシコ科ワチガイソウを見ても名前を間違わない。

また太平洋側で多く見られるシソ科キランソウ属のツクバキンモンソウが葉脈を赤紫色に染めていた。本家のニシキゴロモの花冠上唇より極端に短いのも特徴の一つである。

小ピークの登り下りを繰り返すと旧御坂峠である。一本立てた後、また登りが続き黒岳へ向かう。

その後、山野草の道であるMさんが数少ないキク科センボンヤリを見つけると、リーダーからすぐに、秋の閉鎖花を檢に見立てたもので二度楽しめるめずらしい花だと説明が続いた。

しばらく進むと、大きな飛手な葉で先端が浅く三裂し欠刻状の鐘筒が目立つものが話題となったが、帰宅後調べるとバラ科コキンバイの花後であることが判明した。

エンコウ・ヒトツバ・カジなどのカエデ科の葉を観察しながら歩き、ツリバナ・

目の前にユキザサやマユミがあり、天国の花園にいるような気分が食事も最高にグーである。

今回参加の22名がほとんど顔見知りのため、花の話で和気あいあいと賑やかな楽しいひとときとなり、花を見た満足感で満面の笑みが並んでいる。リーダーもこのようなメンバーの姿を見てうれしそうである。よいコースを案内してもらったことへの感謝の念で、交わす言葉も思わずうわずわしてしまう。

「あつけない、後は長い下りが待っている」とのリーダーの声で立ち上がる。最後のピークの木無山を經由シラダケと長い下り道の府尾尾根コースを歩くこととなった。

最初の分岐である母ノ白滝へくだる道を右に分ける付近では、赤い花弁をつけるマメザクラやクサボケが目立っていたが、中盤あたりで見たマルバウツギ・ミツバウツギ・オオカメノキ・ガマズミなどは白色花弁だけに印象に残るほどのものではなかった。

だが、タニウツギの仲間であるフジサンシキウツギ・ヤブウツギなどの濃紅色は通常見馴れていない種だけにどうして

ハナイカゲ・アケビの樹木花たちもきれいでうれし。

林床の一面に赤暗くなった端のヤグルマソウを従えているブナ・ミズナラの自然林が見え出すと黒岳(1793m)山頂である。小広い山頂は樹林に囲まれ展望はなく、すぐに旧御坂峠へ引き返すこととなったが、ユリ科タルマバクツバネソウの見事な群生には歓声が上がった。

旧御坂峠からは下り一方、ラシヨウモンカズラ・グンナイフウロ・ズミを今回のフラワートレッキングのエンディングとして満足満足の花旅を終えた。

(平成15年5月24日、25日歩く)

Aコースタイム

- 〔1日目〕くもり時々晴れ
 - 熊の森公園登山口(3時間) 三ツ峠山(2時間50分) 天上山ロープウェイ富士見台駅
 - 〔2日目〕くもりのち晴れ
 - 天下茶屋登山口(1時間20分) 御坂山(1時間) 旧御坂峠(45分) 黒岳(1時間45分) 新御坂トンネル下山口
- △地形図▽
2万5千：河口湖東部・西部・富士西田

登山道のないブッシュを漕いで

カナ山に夜叉姫の妹君を訪ねる

湖北

山本久雄

カナ山は私の知っている限り当誌のコース案内では二回、他のガイドブックにも登場している有名な「山」である。有名なのは山上に三周ヶ岳近くの夜叉池の主、夜叉姫の妹君といわれる夜叉の妹池が鎮まっているからにちがいない。気にはなっていたのだが機会がなく、単独で出かけるにはあまりにも山深い。今回誘いがあったのを幸いにいそいそと出かけることとなった。

当誌での二回の登頂コースはいずれも別ルートである。また他のガイドで紹介されたルートは、すでに年月が経過し、伐採地の通過が困難になっていると思われる。全く登山道のない山であるが、今

回私たちがたどったルートは何がしかの有志が上下しているとみえ、かすかな痕跡があった。夜叉の妹池を見に行こうと思われる人の参考になればと思う。

カナ山の名前から察すると、近くの有名な金養岳とともに鉱物に何らかの関係があったと思われるが、歴史のことはまたの機会に……。

近江高山のバス停で岐阜のY氏と落ち合い、どこから登ろうか相談することしばし。わかつているルートではおもしろくないので、カヤ谷の北側を西南西にのびる比較的顕著な尾根から登ろうということとなり、鳥越林道からカヤ谷出合まで向かうが、キャンプ場から先は車輛通行

しかし、山ゆく中高年はこんなことぐらいにはめげないのである。「そうだが人生はもっと厳しいのだ」と言い聞かせ、キャンプ場入口に駐車して林道へ足を向ける。

こんな所から歩くとは考えもいかなかったし、2万5千地形図「虎御前山」が手元になるので、目指すカヤ谷までの距離がよくわからない。せいぜい2〜3キロだろうとタカをくくって歩き始める。途中の林道の大部分は片付けが終わっていて車は何とか通れそうであった。内心では「しまった!」と思ったが「登山は車に

乗りこくるのではない」などと負け惜しみを言いつつ、スチームサウナのように蒸し暑いなか、大汗をかいてカヤ谷の橋まで1時間もかかってたどり着いた。が、しかし尾根のへりは林道の高いガケとなっていて取付の場所が見つからない。仕方なく地図を見直し、目的の尾根の北側に支尾根があるのでこれにしよう、気を取り直して再び林道をたどる。

カヤ谷そのものは入る気もしないほどにブッシュが厳しく生え込んでいて、予想した通りカヤ谷からの登山は今の季節にはおすすめでできない。カヤ谷の北側の



尾根を辿り込んで行くと、地図上で白谷へ道が分岐するあたりでやっとガケの上縁が道に近づいてきた。意を決してここからエイヤットとブッシュに飛び込む。ウッヘッ、まさしくモジャモジャ、バリバリ。濡れたブッシュが顔や手にべったりとへばりつきうっとうしいことこのうえない。先を考えるとワンザリだ。しばらく

夜叉の妹池



止めとなっていた。近くにいた地元の人に聞くと、「先日米の大雨であちこちのガケから大きな石が転がってきて片付けている途中だ」と言う。「通れないことはないが……」とあまりいろよい返事はない。さらに「このあたりはクマが多いぞ」と脅かされ、おまけに金養岳の角に黒い雲がわき、ゴロゴロと雷鳴まで聞こえる。お先真っ暗とはこのことだ。

オリジナルザック
登山用品専門店
山と山道具のアドバイザー

中型ザック紹介
◆ワイルドミユウ◆

●カラー レッド×モノクロ
ネイビー×モノクロ
マゼンダ×モノクロ
ミント×モノクロ

●容量 40L
●重量 3800g
●素材 高密度ナイロン
●価格 ¥16,000

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kebezac

IMOCK
KOBÉ

イモック山道行くらぶ

5月9日 遊兵衛第2の高嶺 金養岳(1317m)
5月13日 中国山道 一等三角点 崩山(1208m)
詳細はお問い合わせください。
〒653-0839 神戸市東灘区日島町1丁目1番30号
カノビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3928
■営業時間/10:00-20:00 ■定休日/日曜日

イモック
山道行くらぶ



おかげさまで **大好評**

スイスアルプス ハイキング

全コース日本人
山岳ガイドがご案内

説明会随時

実施中!

現地に詳しい専任スタッフが
現地の様子がよくわかるビデオの
上映、ハイキング時の注意点を
具体的にご案内いたします

お席に限りがございますので、
お電話等でお問い合わせ下さい

ここが
ツアーの
ポイント

大阪：弊社西日本支店内会議室
(最寄駅：御堂筋線本町駅)

5月8日(土) 14:00~16:00
6月5日(土) 14:00~16:00

神戸：弊社神戸営業所1階カウンター
(最寄駅：三宮駅)

5月22日(土) 14:00~16:00
6月19日(土) 14:00~16:00

京都：ば・る・るプラザ京都
(最寄駅：JR京都駅)

5月11日(火) 14:00~16:00

のんびり、ゆったりと

日本人山岳ガイドがご案内

全コースが初心者でもハイキング

「のんびり、ゆったり」をモットーにしたハイキングから、本格派ハイキングまで
多彩なコースを揃えております。

ご希望の方には、パンフレットを送付(無料)いたします。

お気軽にお問い合わせください。



郵船トラベル株式会社 フリーダイヤル: 0120-819-215

■大阪 〒541-0053 大阪市中央区本町3-2-6 7~8F 本町ビル7階
TEL: 06-6251-9143 FAX: 06-6251-9190 e-mail: kog@ytk.co.jp
■神戸 〒651-0085 神戸市中央区八幡通4-2-18 郵船航空福本ビル
TEL: 078-251-7511 FAX: 078-230-6488 e-mail: kkc@ytk.co.jp
ホームページ: http://www.ytk.co.jp



して尾根をたどり着くとかすかな踏み跡があり、天の助けとばかりにこれをたどることにした。木の根をつかむような急登をしばらく続けると、支尾根から目指す稜線へのれた。驚いたことに切り開きがあり、上に向かってずっと続いていく。しかし切った木々がそのまま放し置いて歩きにくいこと甚だしい。何のための切り開きか理解に苦しむ。仕方なく切り開きの端を登るが、相変わらずブッシュをかき分けての苦しい急登が続く。いい加減ウンザリする頃急になだらかになり、鬱蒼とした樹林帯に飛び込んだ。望望の主稜線へ出たのである。そこは1000mのピークの肩にあたる所で、稜線上には枝が縦横にのびていて通過しにくくなっているが、かつては立派な山道であったと思わせるに十分な道跡が続いていた。

長い間山を歩いていると三角点のある場所がおいでわかるようになり、意外にあっけなく三角点を発見。周りが少し刈り払われていてここだけやけに明るい。ここから尾根は急な下りになり、少しくだった所で前方に銀色に光る水面を見つけて早速でそちらに向かう。たどり着いた池には何の標識もないが、鈴鹿の静ヶ岳南の池に似た感じで、頗長い池の中央には枯木があり、中央部は少し陸地化している。マメシジミが生息している年中溜れることはなさそう。池の大きさ、特徴からしてこれがかの「夜叉の妹池」にちがいない。池の畔にたえずむと、時折聞こえる雷鳴のほかに何の音もしない。静ヶ岳南の池のような明るさはない。まさしくここは秘境である。はるばると訪ねてきたが曇り空のためか、池とその周辺は何となく陰気な感じで、さよらの訪問はあまり歓迎されていないようだ。

目印を付けるのは嫌いだ、この下降点は目印を付けておいたほうがよい。鬱蒼とした樹林のなかであり、霧でも出ればたちまち方向がわからなくなる。下降を始めてしばらくすると雷鳴はいずこかへ去り、空も次第に明るくなって青空ものぞくようになった。くだり着いた林道で小休止し、帰路は白谷沿いの旧道をくだり始めるが、旧道がUターンする所で道形は消え、ヤブの斜面を白谷目指してくだる。水流にたどり着いた所は金堂岳登山口の堰堤の少し下流だった。登りに使うときはどかが登り口かわかりにくいかもしれない。晩秋の再訪を心に決め、あとは暑い林道を高山キャンプ場目指してテクテク歩

2万5千=虎御前山・近江川合

△参考タイムV
高山キャンプ場8・26 | 尾根取付9・38
主稜線11・12 | 三角点11・26 | 夜叉の妹池11・38 | 45 | 三角点11・50 | 12・06
下降点12・16 | 林道13・25 | 高山キャンプ場14・10



黒斑山頂（後ろに浅間山）



黒斑山付近略図

くのったりとしている。ハッ岳連峰の赤岳で出会ったカモシカのように、登山者見字なのかもしれない。
カモシカとの語らい(?)の後、再出発。亜高山帯の野鳥であるルリヒタキ・メボソムシクイ、高山鳥のホンガラズ・イワヒバリ・カヤタグリの声が聞こえてくる。
道が狭くなって赤ゾレの頭に出ると、

初めて浅間山が姿を見せた。ここから赤茶けたガレの急斜面をトラバース気味に登り、トミノ頭に出て浅間山がぐんと近くなった。いかにも火山らしい曲線美の裾野を流し、独特の優雅な縞模様山肌が実に美しい。いったんくただって登り返し、黒斑山頂に到着。浅間山とその他の輪山である駒岳・仙人岳・蛇骨岳とがっくる風景がすばらしい。
あまりのすばらしさに滞在時間を延長。やがて次々と登って来るハイカーで山頂が混雑してきたため、絵心の豊かなA・Yさんの絵が仕上がったのを機に下山を

始めた。

復路は比較的ならかな中コースを歩き、11時半過ぎ、車坂峠に戻った。

(2003年6月20日、22日歩く)

A参考タイムV

- 〔20日 曇り〕JR岐阜駅23・00(バス)
- 〔21日 晴れ〕(バス)北軽井沢ペンション6・50(朝食)7・35(バス)あずまや高原ホテル8・40→50(里宮)10・15→七合目10・45→八合目11・15→九合目11・45→四阿山12・10→根子岳との分岐12・30(朝食)13・10→根子岳14・15→根子岳八合目14・50→菅平牧場15・45→16・10(バス)橋本村つつじの湯16・50(入浴)17・50(バス)北軽井沢ペンション18・30(泊)
- 〔22日 晴れ〕ペンション6・40(バス)車坂峠8・00→15(表コース)トミノ頭→黒斑山10・00→25(トミノ頭)10・35→中コース→車坂峠11・35(バス)東部町湯葉里館12・15(入浴・朝食)14・30(バス)岐阜駅18・45(解散)

△地図▽昭文社『志賀高原・草津』

「軽井沢・浅間」

のだろうか。
わが国は世界有数の豪雪地帯であり、山岳の風雪の厳しさは世界一ともいわれている。そんな気象条件が多様な地形的環境をつくりだしているのかもしれない。

高山植物として馴染みのコケモモ・クロマメノキなどのツツジ科低木に混じって、ミヤマハンショウヅル(キンポウゲ科)が咲いていた。「ミヤマハンショウヅル!」と思わず興奮して声を上げてしまったが、他のメンバーは「何事ぞ!」と驚いたかもしれない。実は、私はこれまでミヤマハンショウヅルを見たことがないのだ。低山でトリガタハンショウヅルや(たの)ハンショウヅルに出会っているくらいである。

やがて、鳥居峠からの道を合わせ、正午過ぎ、四阿山頂に到着した。人気のある山だし、それに深田百名山に選定されているからハイカーが多い。山頂の混雑を避け、登って来た道を戻って根子岳との分岐点の広場で昼食とした。

昼食休憩はいつもより短く40分で切り上げ再出発。十ヶ原を通り1時間ほどで根子岳に立った。

根子岳の下りは、初夏の華やかな風景に圧倒されっぱなしであった。山はレンゲツツジの季節、朱色の豪華な花をつけた株があちこちに群落をつくっていた。とりわけ、根子岳から菅平牧場への下りのコースは、青空の下、白っぽい幹のダケカンバの純林、林床にはササの緑、そしてレンゲツツジの朱色と、絢爛たる絵のような景観で、わがパーティの歓声は途絶えることがなかった。

レンゲツツジの色は、ひとまとめにして言ってしまうと朱色だが、ピンクの強いもの、黄色味の強いものと、少なくとも三種類はあり、そうした色合いの違いが、いっそうあざやかさを引き立てている。
ワイワイガヤガヤと花を愛でながら、15時45分、菅平牧場に降り立った。

牧場で各々牛乳やらソフトクリームを味わった。いずれもさすがに濃厚な味で、コクがあって美味しい。店番は、近在のペンションが交代で行っているようで、本日当番のおじさんは、すぐ近くのペンションのオーナーとのこと。一見、林間の印象だが、客に合わせての「ノリ」は達者で、わがメンバー女性軍の「悪ノリ」

も軽妙にかわっていた。
おじさんは花にも詳しく、自ら撮影した写真を使い、コンパクトできれいな図鑑もつくっている。

黒斑山

2日目も晴れ。バスで車坂峠まで走った。車窓から高峰山などの斜面にレンゲツツジの群落が見える。

8時ちょうど、峠から表コースを歩き出した。こちらも高山植物が多く、目を楽ませてくれる。強風で変形したカラマツを見る。盆栽のように曲がりくねった姿のものもある。「テンカラ(天然カラマツ)だ。まとまった規模の天然カラマツは、鳳凰三山以来だろうか。

いわゆるカラマツ林はすべて植林といっている。天然のカラマツはあのように大量にまとまって、まっすぐ整然とはびかないのだ。上高地など清々しい空気のカラマツ林も、実は人工物なのだとなると、驚く人は案外多い。

溶岩の点在する開けた広場のような所では、一頭のカモシカに出会った。われわれ人間をほとんど恐れない様子で、動作も「カモシカ時間」と形容されること

標高による山の紹介シリーズ 16 松田敏男

新ハイ関西76号
標高△△76mの山

滝谷山	(876m)	京都北山
涅槃山	(1376m)	大峰山脈
三國峠	(776m)	京都北山
錫杖ヶ岳	(676m)	三重

滝谷山

京都から行けば花背の入口だが、地形的には別所川の最奥の花背別所町にあることから別所山とも呼ばれている。別所川支流の滝谷の奥にある山だ。
その日は前日に夜遅くまで兼用があった、やっと8時頃に起きた。よく晴れた朝だった。北大路駅のバス停を10時13分発のバスに乗れるように、すぐに出発した。
半日程の北山歩きのコースはいくらでもあるが、遅くに出発しても手軽に自然の深い所に入れる山が滝谷山だ。



証誠無漏岳より天狗山を望む



錫杖ヶ岳

11月に再訪した日は、翌年出版した最初の画集「彩高山影」(ふたば書房)のあとがきの私の写真を撮ってもらったので、特別懐かしい思い出のある山だ。
(平成4年11月29日歩く)
Aコースタイム
若走路谷出合の先1、岩洞地点登山口(30分)三國峠(1時間)クチクボ峠経由 若走路谷出合
△地図▽昭文社「京都北山」

涅槃山

山の会の岩井さんが大峰山奥駈道南部の山行計画を立て、2人で出かけた。夜遅くに池原の池の平公園でチント泊し、車で長い林道を持経の宿前まで登った。持経の宿は見事なまでに美しく整備されていて感動した。泊まりの荷物を置いて8時に天狗山を目指して出発した。阿須加利橋・証誠無漏岳という賑わしい名前の山を二つ越え、涅槃岳に着いた。そこまでの稜線は、晩秋のすっかり葉の落ちた広葉樹林や枯木が林立する涼しくて滋味あふれる美しい所だった。西後方には立派な姿の中八人山が望まれ、行く先には三角形の天狗山が美しかった。
(平成6年11月12日歩く)
Aコースタイム
持経の宿(2時間)涅槃岳(1時間30分)持経の宿

三國峠

鋭く尖った独立峰で標高の割には登高満足度の高い山なので人気がある。人出が多いことを予想して、人に会わない登山経路を考えた。北側の麓の越川から奥のびる林道を標高1600mまで進み、錫杖ヶ岳の北尾根に取り付く。下山は一般登山道を使えば同じ林道の少し上部に下山できるので、日の長い季節だから手間どっても安心、もうまくいかなかっても撤退してもかまわないという気持ちで目指したが、意外に歩きやすい尾根だった。
山頂は予想通り登山者が多く、展望は良いものの、親しみのない山城なのと植林が大平を占める山並みだったためか、概して平凡な印象だった。
時間がたつぷりだったので、下山は西側の野地の尾根をくだった。途中で入山の林道に向かって小さな尾根を乗り越えた。自分たちで登山経路を決めて首尾よく達成できた山行に満足した。
(平成6年6月5日歩く)
Aコースタイム
越川林道標高1600m付近(3時間)錫杖ヶ岳(2時間30分)車止
△地形図▽2万5千「平松」

『万葉集』歌枕紀行

有馬三山から逢ヶ山

六甲

木村 太郎

昨年、例会を計画した六甲逢ヶ山の下見で有馬山城に入ったときは、神鉄有馬口駅近くの、ヒヨコ登山会唐櫃支部の記帳所が置かれている山王神社に駐車して歩いたが、この日は婦りに、修理に出していたアイゼンを受け取りに梅田駅に立ち寄るので、電車で有馬の山へ向かうことにした。

阪急で新開地へ出て、信州の高原鉄道小梅線の雰囲気似ているとだれかが書いていた神鉄に乗り換える。六甲山系や北神戸の山へのいくつかの山観戦を通り過ぎ、有馬口駅に着く。南方にそびえる黒い巨艦のような姿の逢ヶ山をホームで見ていると、胸がわくわくしてくる。電

車を乗り継ぎ、一駅遅れて終点の有馬温泉駅で下車し、善福寺登山口へ廻る。

裏六甲緩走路にあたる有馬三山（高尾山・灰形山・湯槽谷山）への取付へは、沿道に三十三ヶ寺の観世音菩薩を見て登っていく。落葉山は妙見寺の裏手で4等三角点埋められている。有馬温泉中央の祖仁西上人は、温泉寺の本尊を守護する十二神将にちなみ十二の坊舎を建てた。神が投じた木の葉の落ちた地に、上人が泉源を掘り当てた伝承があり山名になったという。

太閤の湯殿の有馬に逗留した秀吉の茶会で、千利休は風雅を取り入れようと、有馬の山容に似せて風かの灰を盛った。

あるが、『日本書紀』には「舒明天皇が摂津国有馬に幸す」とあり、古き文獻にも有馬の地名が記されている。歴史を有する有馬の地であるだけに、『万葉集』などに有馬山や有馬宮などが詠み込まれているのは当然だろう。

しなが鳥猪名野を来れば有間山
夕霧立ちぬ密りはなくて

（巻七十一一四〇）

しなが鳥は猪名野にかかる枕詞であるが、ニホドリともいわれ、湖沼に棲む湖水に巧みなカイツブリの古名である。猪名野は六甲の東麓を流れる猪名川流域の

原野であらうか。有馬山の夕霧に包まれて淋しい野原を歩く旅人の心細い気持ち伝わる歌である。

有馬山みななを世原風吹けば

いでそよ人を忘れやはする

（小倉百人一首一五八）

『源氏物語』の作者紫式部を母にもつ大式三位賢子の歌である。昔の知り合いから様子を尋ねられた賢子が、有馬山の麓で風に吹かれる世原のようですと返した歌である。そよと音がして雀が鳴る。そのように何であなを忘れなましうかと、旧知の間柄に親しみを見せてい

る。技巧にすぐれた上質の応答歌といえるであろう。

有馬三山を踏破したハイカーは湯槽谷峠へ進み、番匠屋煙尾根を越え茶屋跡へ出て、表六甲への下山路をとるようである。私は、古歌に詠まれた夕霧と世原にイメージされる有



有馬三山・逢ヶ山付近略図

湯槽谷山山頂



その時に手本にしたのが灰形山だといわれている。猪名野の尾崎寺から有馬への道で、栗師仏の奇跡に出会った高僧行基により本尊が彫られ温泉寺が建立された。その時代に旅人や病人を温泉で癒された。湯槽をつくる材木を山から切り出した。この山が湯槽谷山と名付けられたという。あちこちに歴史の接点を残す有馬山で

馬山の情緒にこだわり、きょうは湯槽谷峠に至る手前の分岐から高尾山を目指すことにした。

有馬三山を登っているときに見え隠れする、有馬三山と並行する山並の高尾山・水無山・鬼ヶ島の里山をめぐって、有馬登山歩きと洒落てみたいと思っただからである。自然林の細い山道をたどり、高尾山の狭い山頂に着く。ここから水無山にかけての急傾斜の尾根には、初夏になると白花ウンゼンツジの花が多く見られる。

高尾山から水無山への下り口に、「冬の凍結・雪・雨」に注意をうながす看板がある。はっきりとした道が付いている水無山への道を見送り、落ち葉に埋もれた踏み跡の薄い尾根道を西へとる。厳冬期を象徴する季節風はまだ雲上で眠っていて、新春の山歩きを祝福するかの好天に恵まれ、心地好い。

標木の間に逢ヶ山の姿を見て木漏れ日を拾いつつ歩いていくと景色は暗転し、谷間に突き落ちる急斜面となり、ササやぶにおおわれた仏谷峠におりる。去年の晩秋に逢ヶ山を目指したときに、逢山峠のチント場から黄葉の仏谷を登って来た

峠で、再会のなつかしさがこみあげてくる。

戦前のガイド書『六甲北嶺ハイカーの怪』では、裏六甲主要登山道から外れた高尾山や逢ヶ山の山域を西裏六甲別山として紹介している。いうなれば私のこの日の山行は、有馬三山と裏六甲別山を結んでの縦走ということになるのだろうか。ガイド書の著者木藤精一郎氏は、仏谷は草花の美しい優しい谷、峠は草深い小径で趣い場に遇すると書いている。

有馬口駅から眺めた巨艦のような逢ヶ山に、真裏側に下ろされたタラップをよじ登る形で山に向かう。濡れていればズルズルと滑り落ちそうに崩れやすい土質の急坂道である。山頂に着けば明るい春の光景に逢えるはずという、ささやかなその希望もはずれ、樹木の林立する逢ヶ山(722m)の暗い頂に展望はない。わずかに3等三角点の標石の存在が慰められる。

この山へのハイキングを計画する神鉄は、沿線でも有数の秘境という文句で逢ヶ山を紹介している。郷土史家の故福原会下山人によれば、有馬町から西店原にかけての裏六甲の南林地には、かつて大

蛇や白狐や神狐(カニ)も棲息していたという。『六甲北嶺ハイカーの怪』には、夏季赤マムシを多く見ると書かれており、原生の名残を今にとどめる暗さなのである。

頂から仏谷峠に戻り、草深い深戸谷への道をとる。山の切れ込みが深い谷へいざなう峠道で、周りは暗緑色に沈んでいる。谷道をそのまま進んで深戸谷を歩いてみたい気持ちもあったが、水無山を踏もうと直登で水無峠への道にのる。せっかくの機会なので峠からさらに東へ道を寄り、水無流を見に行く。

有馬四十八滝はよく知られているが、同じ裏六甲の水無流を見るのは初めてである。水無谷にくぐり、割谷の石を跳び谷をつめ、滝を落とす屏風状の大岩に出合う。滝は文字どおりの水無流で、水流どころか水滴のような柔らかな流れていない。徒労の滝見物にがっかりしながらも、再び水無峠へ引き返した。

東西は水無谷・深戸谷、南北は高尾山・水無山、道標の十字路に位置する水無峠から水無山へはひと息で登り着く。岩石が積み重なった頂に立ち、谷の暗さが信じられないほどに明るい陽光に染まる

湯槽谷山の有馬三山が指呼の間に眺められる。妙見寺の御堂が見える落葉山の山裾に旅館の灯りが点る頃、有馬温泉は旅情をかきたてる湯の町に変わりゆくのだろう。小さな頂から見上げた大空はいまだに青く、遠い昔を思い出させる明るい色合いを帯びていた。

あまたの万葉人の喜びと悲しみが歌につづられた『万葉集』に、ただ一首だけ有馬温泉の名がある。万葉集を代表する女流歌人大伴(即女)から、有馬の湯に敬愛していた石川命婦へ届けられた挽歌がそれである。大伴家に寄住していた新羅からの帰化人尼僧理窟が急死したため、葬儀を終えたのち、有馬の母親に事情を知らせて長歌を贈ったものである。

(詞) 嘆きつつ我が泣く涙有馬山
雲隠たなびき雨に降りきや

(巻三十四六〇)

嘆きつづけて私が流した涙は、有馬山に雲をかけて雨となって降ったであろうか。彼女は自身の悲しみだけでなく、理窟をよき話友達にしていた命婦の気持ちをも汲んで歌にしている。有馬温泉にいる命婦に贈られた歌と詞書されている、女流歌人ではめずらしい長歌の一節であ



積い逢ヶ山山頂

突然衝動的な看板が目に入った。「この先は絶壁あり、走るな、死に急ぐな」と書いてある。注意しつつ崩壊地を通過し、鬼ヶ島の小さな頂まで来てザックを下ろした。この日の目的、七福神めぐりならぬ有馬七峠を踏み終えた満足感に浸っていた。

鬼ヶ島は小さな頂にすぎないが展望は思いのほか大きい。落葉山・灰形山・

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発株へ!!



・小型 (20人・24人)
・中型 (28人乗り)
・中2階 (45人乗り)
・大型 (55人・60人)
いずれもサロンカー
からデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

ことができた。背後の高尾山は樹木にさえぎられて見えないが、やせ尾根の両側には湯槽谷山と逢ヶ山が、まるでエールを送っているかに輝いていた。

自然界の神々がめぐりゆく季節へ落とし文をしたように、山道にものいたげに落ち葉が重なる。山靴で落ち葉を踏みしめ雑木林を行けば、季節の便りが由に舞い上がっていく。春の手紙が花になり、夏の手紙が海の色になり、秋の手紙が樹木の紅葉になる、匠の技をもつ季節の使いを雷が呼んでいるのだ。
夢想にひたたり山道を歩いている私に、

我が泣く涙の有馬山と詠まれ、夕霧が立つとか世原が鳴るなど、有馬山の歌はエレジーがつきまといっている。その悲しき歌のイメージは、どちらかといえば明るい表六甲のものではなく、静寂に支配された裏六甲のイメージと共通するものかも知れない。

(平成16年1月3日歩く)

▲コースタイム▼

神鉄有馬温泉駅(10分) 善福寺前登山口(20分) 落葉山(25分) 灰形山(35分) 湯槽谷山(20分) 高尾山(15分) 仏谷峠(35分) 逢ヶ山を踏み仏谷峠(10分) 水無峠(15分) 水無流(30分) 水無山(15分) 鬼ヶ島(20分) 水無川林道(20分) 神鉄有馬口駅

▲地形図▼2万5千1:宝塚・有馬

小休止

継続会費の払い込みには、必ず会員番号を記入してください。本誌編込みの「払込取扱票」の通信欄にSHC関西局を記入するようになっていきます。会員番号は会員証のほか、毎号の雑誌の宛名の下にも印刷されています。

鹿児島県の山々(九州百名山)

開聞岳・高千穂峰ほか

南九州

生駒 聳 峰

今の私は年金暮らし、金は無いが時間はたっぷりある。山行はいつも車でのんびりと過ごしている。しかし、冬の車泊は寒くて快適でない。冬山も中年の単独行には適さない。冬の間はもっぱら観光旅行に出かけたりして過ごしている。やがて、春も近づくと山へ動き出す。

お彼岸も近づき桜便りも聞かれる頃になると、さてどこに行こうかと地図を広げる。一番先に暖かくなるのは九州の、それも南の鹿児島だろうと、鹿児島県を目標すことにした。

鹿児島県の山も、日本百名山や1等三角点の山は訪れているが、何しろその当時は、秋を遊ぶのに忙しく全く余裕のな

い山登りをしていたので、今回はゆっくりと山を楽しみたいものである。

最近はずも同行してくれるので、観光を主体にしてはいるが、やはり山は切り離せない。そのうえで山を選ぶとなると九州百名山がてっとり早い。何も百名山にこだわっているわけではないが、比較的名山が多く登山路も明確である。いつも地形図片手に道を探す三角点とは違い、全く気楽に登れるのが最近の私にとってはいよいよ娯楽になる。

山と溪谷社の九州百名山を調べてみると、鹿児島県には12山。熊本・宮崎の県境に2山となっている。その内日本百名山の神隠岳・開聞岳・宮之御前岳、1等三

大隅半島最先端に到着する。

大隅半島には九州百名山に選ばれた稲尾岳がある。地図を広げてみると、三方から登山道があり、西口にはキャンプ場が設置されている。キャンプ場に泊まって登ろうと車を走らせると、途中に木場岳という山が目に入った。「鹿児島県の山」(山と溪谷社)にガイドがあり、簡単に登れてみる。照葉樹の山は楽しかったが、登山口までの林道は大変な悪路であった。

稲尾岳登山口の「照葉の森」は開

高千穂峰、天の逆針



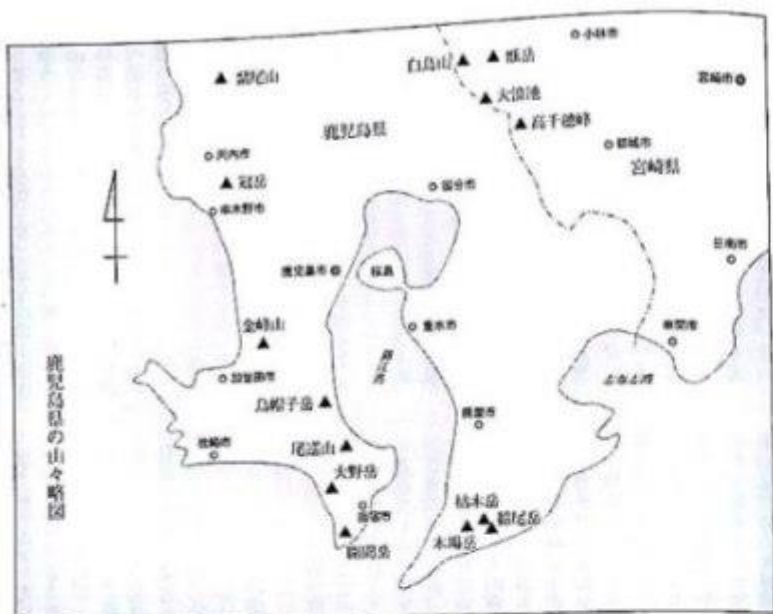
角点の矢野岳・野間岳・雨止岳、さらに大窪柄岳・黒味岳・高千穂峰はいちおう登頂済みである。

また、私の尊敬する故今西錦司博士の登られた山も、視野に入れておこう。

関西汽船の割引券が手に入ったので、別府経由にした。白杵、佐伯、青島と観光しながら日南海岸を南下。さらに鶴戸神宮、都井岬、佐多岬と泊まりを重ねて

設されたばかりの立派なオートキャンプ場で、届けるだけで無料で使用できた。登路は沢伝いで、沢を渡る所には置き石もあり、靴を濡らすことはない。平坦で遊歩道並みだ。源流近くから登りとなるが、名の通り照葉樹の山で、折から格の花が満開。落ちた花弁が登山道を埋めていた。まずこの稜線の最高点、2等三角点のある枯木岳に到着する。稜線行く手に稲尾岳が望まれた。少しくだつて峠に出ると、北口からの道が合流する。木場岳でも見かけた道しるべの番号は、峠で百番になり、峠からさらに30番で稲尾岳神社であった。小さい石の祠は林のなかで、三角点もなく展望も得られず、山頂とは思えない所だ。三角点のない山は何かたよらない。しかし、関西の植林の山に比べ、照葉樹の山は心が温まる。下山して根占温泉で汗を流し、道の駅で泊まる。錦江湾越しに開聞岳が浮かんでいたが、葦土山に負けない美しさであった。

錦江湾を北上して桜島を見学。鹿児島市に渡り市内観光をする。その後、屋久島に渡り、周遊してまた鹿児島市に戻った。



次の目的の鳥帽子岳は、登山口が指宿スカイラインの上であり、鳥帽子神社登山口の標示があり、林道が分岐している。林道はゲートは閉められ、教台の駐車が可能である。15分程で神社に到着する。麓の平川動物園からも参道が通じ、歩いて登ることもできる。山頂は森のなかで、展望はなく三角点も見つからなかった。スカイラインを知覚に降り、町を見学する。石垣に囲まれた武家屋敷は落ち着いた趣を醸していた。先の大戦で特攻隊基地だった知覧は、その遺品を展示する平和会館に大勢の観光客が集まっている。戦時中、私は八尾の飛行場に動員され、特攻隊員を見送ったこともあり、その展示物に感動をおさえることができなかった。

スカイラインを指宿に走ると、千貫平のパーキングが山上公園になっている。南薩摩の大展望台で、ちょうどいまツツジが満開。錦江湾から大隅半島がのび、南には池田湖から開闢岳がそびえている。ここは鹿児島県の山では、尾返山として紹介され、2等三角点が設置されている。さきさき開闢岳に向かって走る。次の大野岳は山頂まで林道が通じていた。それ

ほど高い山ではないが、茶と花の畑の中の独立峰で、ここも山頂からの展望がすばらしい。池田湖・開闢岳がひととき大きく、山麓には甚目目に区切られた茶畑が広がる。その先には、尾返山の大きな発電の風車が望まれた。明日は開闢岳に登るので、登山口のピクニックセンターに行く、車泊禁止になっていたので、池田湖畔に走った。

翌日は曇一つない青空。朝日を受けた開闢岳は、一幅の絵のように輝いている。日本百名山の山は、年中登山者の絶えることがない。きょうも平日だが、5組の姿が見える。富士山型の山は勾配が強くて登りづらいが、開闢岳は山を一周する道が付けられている。傾斜は比較的ゆるやかだが、火山礫の道は滑りやすい。登山道は木々におおわれて涼しく、各合目ごとに距離表示がある。五合目で少し山川方面が望まれた。七合と八合の間は岩の積み重なりで少し歩きづらいが、今度は反対側の枕崎方面が見えた。

岩場の山頂は2等が設置され、遮るもののない大展望。鹿児島に来て以来、各所から眺めていた開闢岳山頂にいま立っている。いくたび登ってもすばらしい山

である。下山時、まだ4月というのに蝉が盛んに鳴いている。日差しは真夏並みの暑さ、やはり鹿児島は南国である。その後開闢岳を一周し、地熱発電所や砂風呂、焼酎の工場を訪ね、暖温泉に入浴する。素朴な湯で、本当に田舎にきたのを感じる。

枕崎から加世田と大隅半島を北上し、金峰町に到る。金峰山は三峰からなり、神が降臨した山として山が御神体である。金峰神社がまつられ、山頂近くの神社まで車で入れる。狭い山頂には2等三角点と、仏像や碑が立っていた。展望はよさそうだが、雨雲に煙って何も見えなかった。

冠岳も山頂まで林道が入っている。カーナビに導かれて林道をつめると、西萩神社の鳥居があり、その先の広場に駐車する。冠岳も東岳・中岳・西岳の三峰からなり、最高峰の西岳のみが登られている。山頂には西萩神社と2等三角点がある。中腹の公園に大きな中国人の石像が立つ。中国の秦の始皇帝の命で、不老不死の仙薬を求めて来た徐福が山の美しさに感動し、冠を捧げたことから冠岳の

名が付いたとのことである。

国道504号を紫尾山に走る。国道といっても堀切峠は大型車は通行できない。百名山に取り上げられる山だから、この紫尾山もなかなかよい姿をしている。しかし、山頂には幾つもアンテナが立ち、車道が通じているはもう登山の対象外だろう。最高点まで車で入る。頂上には方位盤が設置されていたが、三角点の姿はなかった。雲の間からはるかに阿久根市街と東シナ海が霞んでいた。

霧島高原に走る。高原の町霧島では、先ず神宮に参拝。温泉で洗濯と入浴をする。きょうは霧島の道の駅で泊まろう。明日登る高千穂峠が、夕陽に美しく輝いていた。

高千穂川原に車を置く。きょうはよい天気だ。道標に従って周遊路を抜けると、全く樹木のない火山礫の道となる。火山の山はどこでもだが、火山礫の道は歩きづらい。

お鉢の一端に登り着くと、新燃岳・隼国岳が浮かび上がる。前方には高千穂峠も姿を現す。お鉢を半廻りして少しくだると、いよいよ最後の急坂である。登り着いた山頂には、圓いの中に天の

逆鈴が立ち、天孫降臨の碑が立つ。ここが日本国発祥の地だと神話の話をしても、戦後派の妻はそんな話は知らないと言う。戦中派の私とは教育も違っていたようだ。裏に廻ると、欠けた三角点があった。これも展望はすばらしいの一語に尽きる。石室の小屋は鍵が掛かっていた。

火山礫の山は下山のほうが難しい。見下ろす斜面には続々と登る人が列をなしている。何でも宮崎の高校生500人のグループで、登山が毎年の行事になっているとのことだった。

新燃荘の露天風呂に入る。乳白色の硫黄泉で男女混浴。次々と登山者やマイカー族がやってくる。下山後の入浴の楽しみは、登山者の特権だ。今夜も霧島の道の駅泊。

えびの高原に走る。以前開闢岳から眺めた大池池がすばらしかったので、立ち寄ってみる。登り口にはトイレと20台くらいの駐車場があり、遊歩道が池まで登っている。休憩舎の建つ池畔から左右に一周する道があり、隼国岳の登山路でもある。東廻りで池を一周したが、概して西廻りのほうが道も景色もよい。西門形の池の背後には、手に取れそうに隼国岳が

そびえていた。キリシマツツジにはまだ早くて、咲いていないのは残念だった。えびの高原は鹿児島ではないが、高原に境はない。ここでも不動池廻りと白鳥山・冠岳に登る。隼国岳はどこからでも目の前に迫っていた。

今回は下記の山々に登った。

(1) 木場岳	891m	3等
(2) 枝木岳	959m	2等
(3) 福尾岳	955m	独峯 九百
(4) 鳥帽子岳	522m	不明 九百
(5) 尾返山	577m	2等 今
(6) 大野岳	465m	3等 今
(7) 開闢岳	924m	2等 九百 百今
(8) 金峰山	636m	2等 九百 今
(9) 冠岳	516m	2等 九百
(10) 紫尾山	1067m	不明 九百
(11) 高千穂峠	1574m	2等 九百 三今
(12) 大波池	1441m	不明
(13) 白鳥山	1369m	3等 今
(14) 飯岳	1301m	不明 今

注 九百九州百名山
百日本百名山
三日本百名山
今一今西郷博士の登った山
(平成15年春歩く)

高野参詣道を歩く (第五回)

① 大峰口

長坂 文男

『紀伊国名所図会第三編』に、「大峰口(また東口といひ、野川口ともいふ。蓮花谷に通ず。大峰よりおよそ十五里。この道当山東方の入口にして、大峰山上より泥川(濁川)に下り、天川を経て天狗木より入る。俗この道筋を七度半道といふ。一度この道より登踏すれば、功徳七度半にあたる」とあり、高野山の東からの入口である。

高野山の蓮華谷に東から入る道は、本街道の大峰口のほか、富貴・筒香から城山を越える富貴・筒香道、富貴から七雲山を越える徳草越道、橋本から前、杖ヶ敷を経て清川(摩尼谷)沿いに登る摩尼道、立里荒神社から陣ヶ峰を越える荒神道などがあり、多い。

大峰口は大峰山と高野山の霊場を結ぶ信仰の道である。昭和初期まで修験者・巡礼者の往来が多かったというが、戦後車道の整備とバスの開通にともない、往來は途絶えた。現在大峰山麓の洞川から小代下(奈良県大塔村)まで全て車道となり、ハイキングの場合は小代下が出発点となる。小代下から高野山麓の院までの約17kmのうち、約3分の1が山道で残っている。

今回この地域の最も古い5万地形図「高野山 明治41年測図」をもとに、江戸後期の『吉野郡名山図志』『野迫川村史 1974年』などを参考にしながら大峰口を紹介する。なお、高野山付近までは道路標識を除いて道標・テープは全くない。

今井集落の旧高野街道



くないので、地形図・コンパスは必須である。

コースガイド

JR和歌山線五条駅前から、8時5分発(平成15年11月現在)の十津川温泉行きの奈良交通バスに乘車する。天辻峠を経て約1時間で小代下に着く。猿谷貯水池に架かる中腹橋を渡り、地



大峰口付近略図

方道高野天川線を西へ10分程歩くと、「大塔村中原開拓(第二次大戦後開かれた開拓地)」の道路標識がある。左に分かれる舗装林道を登り、一軒家のある三叉路は右へ進む。杉の植林のなかをゆるやかに登る林道は、やがて左に大きく曲がるが、直進する細い山道が古道である。山腹を捲いてゆるやかに登ると、右に民家跡の空地を見る。少し先で林道と再び出会い、右に進み中原の集落に入る。

中原川(野山)右岸、標高620〜70m付近の緩斜面に、十数軒の民家が点在する静かな山村で、昔は旅人を泊める宿屋もあったという。集落のはずれにブロッコリー畑に囲まれた安楽寺(高野山真言宗)があり、宝蔵に鎌倉・安土桃山時代の大般若経や唐櫃が収められているという。

右にくだる舗装林道を見送り、民家の庭先を抜けてまっすぐ地道の林道を進む。5分程歩いた伐採地跡が林道終点で、山道に変わる。北から東方向の視界が開け、中原集落のかなたに唐笠山や行者山が見える。

ここから先の古道は、途中まで植林の作業道となっているが、その先は廃道で

ある。一応参考までに紹介するが、枝道が多くルートファインディングが必要で、先ほどの舗装林道分岐まで戻り、左へくって車道に出たほうが無難である。山道を進み、左に取除けネットを見る。やがて鉄板の橋と、それに続く棧道があり、両側にネット戸が設けられている(出入りの際は必ずネット戸を閉めておくこと)。左に山の神?を祀ったコンクリートの小祠があり、すぐ先で左に植林の作業道が分岐するが、灌木が道を塞ぐ山道を直進する。

ゆるやかに登る巻き道は、小尾根を廻り込んだ所で下りに変わり、すぐ先の三叉路は右をとる。背丈を超す灌木やササが行く手を遮るが、踏み跡は残っている。やがて地形図に549m標高のある谷に出るが、谷に道はなく苔むした多数の倒木が行く手を遮る。谷の手前の小尾根をくだり、車道に出ひき手前で谷にくたったほうがよい。

この車道は中原川右岸の山腹を切り開いて、昭和40年代後半に完成したものである。大塔村と野迫川村の村境を越え、車道を1.5kmほど歩くと、右に今井の集落が見えてくる。集落中ほどに幅約1.5

5 丁の古道(地形図の破線道)があり、古道を進むと再び車道と合流する。右に今井峠を経て上筒香へくだる山道を見るが昔は馬で生活物資を運ぶ重要な道であったという。しばらく広い車道を歩くと、右に奥野川津高野嶽が分かれる。1000 丁先に野川弁財天と神宮寺の妙音院・「道のオアシス弁天」がある。

野川弁財天は「吉野郡名山図志」に、「野川弁財天の島居有り。下に弁財天の社有り。別当坊(妙音院)あり。庭、つげの作り木にて景よし。」と記されている。本尊は弘法大師作と伝えられる木造弁財天女坐像で、隣接する「道のオアシス弁天」には、休憩所や公園が整備されている。

野川弁財天の北側から、炸原の集落を通る細い舗装路が古道で、途中右に昭和20年代まで旅館(藤観館)を営んでいた合橋家がある。「野迫川村史」に、「現在の家は旅館の建物を、ほとんどそのまま残し、収容人員は300名であった。バスが乗り入れる頃まで営業していたといわれる。」とあり、入母屋造の母屋の隣に木造二階建ての宿泊棟が残っている。

再び車道に出て明神橋を渡ると、中野川(野川)流域の中心地、野川中で、野川小学校や奥高野自然の里(元の野川中学校)・野迫川村公民館・郵便局がある。郵便局から5分ほど歩いた三叉路は、橋を渡り左へ進む。中原川最奥、野川上の集落を抜けると、ほどなくして車道は左に大きく曲がるが、右に天狗木峠入口の地道の林道がある。

谷に沿って林道を150 丁ほど進むと左下に大きな砂防堰堤を見る。右側に天狗木峠へ続く山道(古道)があり、見逃さないよう注意。大きな谷左岸の道は、枝谷を渡る所が崩壊しており行く手を阻まれるが、対岸に道の続きがある。植林の山腹をつづれ折りに登り、谷の上流部に出た所で再び崩壊地があり道が途切れるが、こも対岸に道の続きがある。

自然林の尾根の左側から右側を横く道に変わると、対岸に垂直に100 丁以上落ち込む大きな崩壊地を見る。古道も谷側の路肩が一部崩れており、十分注意してほしい。さらに尾根沿いに登り、やがて舗装林道を通る天狗木(伝供木)峠に出る。奈良と和歌山の県境に位置するこの峠

に、昭和初期まで天狗木茶屋があったが、火事で焼失した。峠の北東、林道脇に残る役行者坐像の道標石仏が、古い参詣道を示す唯一のものである。舟形光背に「左山上天々きみち、右山上天野川道」と刻まれている。また峠の南西で地方道高野天川線と舗装林道が合流、その横に大きな案内板と休憩所がある。

天狗木峠から1等三角点のある陣ヶ峰(1105・8 丁)の北側を通る車道を西へ進む。時折右側の視界が開け、奥山谷(溜川の上流部)の深い峡谷のかなたに、渡摩ノ壇や金剛山が望まれる。やがて左にNTTD コモの無縁中継塔への進入道路があり、少し先が桜峠である。



役行者の道標石仏(奥の院畔手前)

奈良からの町道が右から合流、50 丁先は昔は茶屋であったと思われる一軒家(地形図)の北側を通る車道を西へ進む。時折右側の視界が開け、奥山谷(溜川の上流部)の深い峡谷のかなたに、渡摩ノ壇や金剛山が望まれる。やがて左にNTTD コモの無縁中継塔への進入道路があり、少し先が桜峠である。奈良からの町道が右から合流、50 丁先は昔は茶屋であったと思われる一軒家(地形図)の北側を通る車道を西へ進む。時折右側の視界が開け、奥山谷(溜川の上流部)の深い峡谷のかなたに、渡摩ノ壇や金剛山が望まれる。やがて左にNTTD コモの無縁中継塔への進入道路があり、少し先が桜峠である。

再び車道に出て明神橋を渡ると、中野川(野川)流域の中心地、野川中で、野川小学校や奥高野自然の里(元の野川中学校)・野迫川村公民館・郵便局がある。郵便局から5分ほど歩いた三叉路は、橋を渡り左へ進む。中原川最奥、野川上の集落を抜けると、ほどなくして車道は左に大きく曲がるが、右に天狗木峠入口の地道の林道がある。谷に沿って林道を150 丁ほど進むと左下に大きな砂防堰堤を見る。右側に天狗木峠へ続く山道(古道)があり、見逃さないよう注意。大きな谷左岸の道は、枝谷を渡る所が崩壊しており行く手を阻まれるが、対岸に道の続きがある。植林の山腹をつづれ折りに登り、谷の上流部に出た所で再び崩壊地があり道が途切れるが、こも対岸に道の続きがある。自然林の尾根の左側から右側を横く道に変わると、対岸に垂直に100 丁以上落ち込む大きな崩壊地を見る。古道も谷側の路肩が一部崩れており、十分注意してほしい。さらに尾根沿いに登り、やがて舗装林道を通る天狗木(伝供木)峠に出る。奈良と和歌山の県境に位置するこの峠

文社のエアリアマップ「奥高野 1998 年版」や「奥西山越の古道(中) 1995 年」(ナカニヤ出版)も、「奥の(院畔)」としている。

峠から杉の巨木を見ながら、西へ山道を進むと奥の院林道と出合う。右へ進み左に分岐する支林道を進むと、弘法大師御廟近くの参道に出る。玉川橋を渡り、「高野山公園墓地」の参道を南へ10分程の所に奥の院前バス停がある。

(平成14年5月3日・平成15年11月8日歩く)

▲コースタイム▼
小代下(45分) 中原(55分) 奥道(30分) 今井(30分) 野川弁財天(50分) 天狗木峠入口(50分) 天狗木峠(50分) 桜峠(30分) 奥の院畔(40分) 奥の院前バス停

▲地形図▼
2万5千1:5000 猿谷貯水池・高野山
△問い合わせ先▼
奈良交通バス ☎0742(20)3100

私達におまかせ下さい。待っています!

●詳しくはホームページを見て下さいネ。
<http://www.yoshimisports.co.jp/>

登山用品専門店
とスキーのヨシメ
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231

JR天王寺駅北出口
より東へ徒歩5分

高野参詣道を歩く

⑫ 富貴・筒香道

富貴・筒香道は高野山の北東、奈良県との県境に近い富貴(和歌山県高野町)から筒香を経て、天狗木峠で大峰口に合流する高野参詣道である。

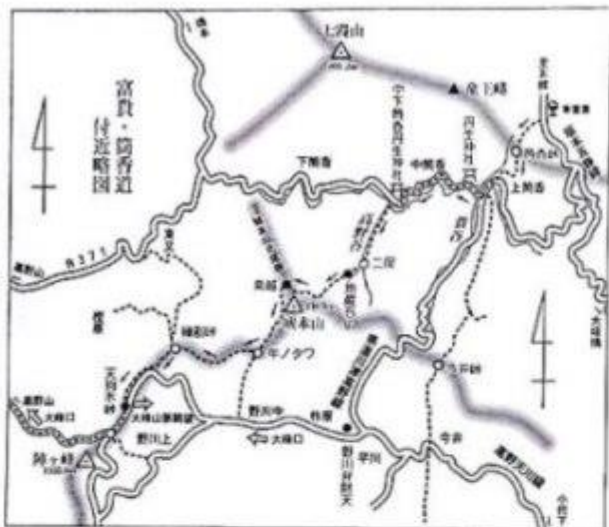
富貴は七霞山(891m)と防城峯(768m)に挟まれた盆地状の平坦地(標高約600m)に立地する集落で、古くは(郷)と表記された。丹生川と東ノ川の分水界を境にして西富貴と東富貴に分かれ、古くから高野山領で現在も高野町に属する。

江戸後期、西富貴村・東富貴村合わせて戸数約110戸、人口約640人であったが、昭和59年の統計では西富貴・東富貴地区合わせて戸数約340戸、人口約1080人となっている。県道沿いに民

家が密集し、小学校や中学校もあり、山間部ではまれな大きな集落である。

昔から紀ノ川流域と奈良県の夷地を結ぶ物資の中継地で、和歌山県よりも奈良県の集落との結びつきが強い。現在も本数は少ないが(一日四便)、奈良県の五条市との間に定期バスが運行されている。

また各地から富貴に至る古道は、北の五条市から、峯大深(現五条市大深町)を越え富貴に至る道、北東の大和下市から大日川(奈良県西吉野村)を経て富貴に至る道、南東の阪本(奈良県大塔村)から、天辻峠・水呑峠を越え富貴に至る道などがある。この参詣道も大峰口同様、道標は皆無である。



て谷沿いを進むが、すぐ左へ折り返し尾根道となる。植林の作業道として利用されている古道は、よく踏まれ歩きやすい。杉の植林のなかを登り、周囲に松の木が目につくようになると、しばらくして筒香峠に着く。

峠は樹木に囲まれていて眺望もなく、早々に南側へくだる。峠の南側はあまり歩かれていないようで、途中灌木が道を塞ぐようになる。やがて峠の植林のなかを右(西)へ進み、砂防堰堤のあるイタヤ谷に出る。谷沿いにくだと上筒香の集落である。

筒香(和歌山県高野町)は丹生川の上流部に位置する山村で、上・中・下の三区に分かれている。高野山周辺の他の集落同様、高齢化が進み人口の減少が著しい。

上筒香から丹生川に架かる橋を渡り、中間香に向かう。丁字路を右に進み宮前橋を渡ると、赤い鳥居が目立つ丹生神社があり小休止する。この神社は上筒香の氏神で、江戸時代は丹生四社明神社と呼ばれ、祭神は丹生都比売神ほか三神である。

丹生川に沿って町道を西へ進むと中間香で、筒香小

上筒香の丹生神社



コースガイド
JR和歌山線五條駅から、8時15分発(平成15年10月現在)の東富貴行き奈良交通バスに乗り、約1時間で終点の東富貴に着く。

バス停から県道を南へ1500m歩き、県道が左へ曲がる所で右折し、谷道を進む。車道終点で、左の小さな木橋を渡っ

学校や中下筒香丹生神社がある。神社からさらに200mほど歩くと、左(南)から入る大きな谷があり、この谷が高野山の入口、高野谷である。

江戸後期の『紀伊続風土記』に「中下両村の境に制札場があり、夫より南の谷に入るを斎(るの)谷といふ。高野への往還筋なり。」と記述されているが、『関西山越の古道(中)1995年』(ナカニシヤ出版)には『紀伊続風土記』では齋谷としているが、土地の人の話では高野谷の間違いで...とある。私も確認のため地元の高野谷で、上筒香の南、県道川津高野線の通る谷が齋谷だと教えられた。

橋を渡り、南へ地道の林道を進むと一軒家があり、その先で山道に変わる。杉・檜の植林のなかを進み、右に小滝を見ると少し先が高野谷の二俣である。手前の吾むした丸木橋を右へ渡るが、間違っても山道に入らないよう注意。右の谷沿いを15分程度登ると、『紀伊続風土記』にも記されている地蔵石仏があり、小さな木の祠に祀られている。さらに細い山道を急登し、和歌山と奈

この夏 いちおし! 高山植物咲き乱れる 大姑娘山(5025m)登頂 10日間



期間 7月23日(金)~8月1日(日)
代金(大阪) 345,000円

夢の5000m峰に挑戦!

大姑娘山(ターナーニャン/長女5025m)は成都から約300km離れたアバチベット族自治州、西結娘連山の嶺に位置します。特殊な技術は必要なく、アイゼン、ピッケル等の装備も不要。また、専用コックが同行し、また馬が荷物を運びますので、海外の山旅が初めての方にも安心です。山麓にはブルーポピー、エーデルワイスなどの高山植物が咲き乱れます。

高所登山研究者・登山家

山本正嘉先生

講演会 開催

「中高年の登山のための 日頃のトレーニング方法」

■日時 **5/27(木) 13:30~15:00**

■場所 **大阪市中央公会堂 地階 大会議室**
地下鉄御堂筋線・京阪淀屋橋より徒歩5分

お問い合わせは... 山旅専門旅行会社

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ポンド保証会員

〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amuse@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

高山病対策&高所登山に! 低酸素室設置

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。初めて国内・海外の高峰を自前している方、山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!

●利用料(税込/1時間)
2人~3名 ¥1,000 5名 ¥3,000



2004年4月~2005年3月 **山歩き&ウォーキング 総合カタログ**
お電話・FAX お手紙にて **ご請求ください!**

良の根境尾根から北にのびる大きな尾根に出る。明治の五万地形図では、古道はここから南西に急登し、3等三角点のある城本山(938.3m)の東の鞍部に至る。不明瞭な踏み跡も認められるが、今は現在の二万五千地形図に描かれている舊道(健道)を歩く。この道も昭和33年要路修正の五万地形図にあり、近開かれた道ではない。



中原川流域、後方は大峰山脈(天狗木峠手前にて)

眼下に大峰口の通る中原川(野川)流域の集落が見え、後方には南北に連なる大峰山脈が一望できる。右に見える1034m峰は的場山で、「紀伊国名所図会」に「高野明神陰夜に、増上より此山へ弓を射たまふとぞ。」と記されている。伐採地から少し進むと野川上からの舗装林道(上・高野驛)と出合う。さらに林

城本山の北側山腹を歩いて西へ向かうが、道はよく踏まれている。城本山の北尾根を乗り越え南へ進み、やがて根境尾根に出る。南西へ進むと牛ノタワで、未舗装の林道が横切る。林道は牛ノタワの南東、908m峰の南へ伸びている。檜や松の針葉樹と広葉樹の混生林のなか、尾根に沿って林道を西へ歩く。途中右側(北)が開ける所があり、正面に七霞山と竜王峰(雨乞峰)が見え、七霞山の左後方に金剛山が眺望できる。やがて明るい小平地の踏割峠に着く。二又に枝分かれた檜の大木があり、北に東又や檜原集落への山道が、南に野川上集落への山道が分かれる。二、三のコブを過ぎながら林道を南西に歩くと伐採地があり、東方向にすばらしい眺望が広がる。

△コースタイム△
東富貴(30分) 間香峠(30分) 上筒香(45分) 高野谷登り口(25分) 高野谷二俣(55分) 城本山北尾根(25分) 牛ノタワ(30分) 踏割峠(40分) 天狗木峠(1時間20分) 奥の院前バス停
△地形図△
2万5千1富貴・猿谷貯水池・高野山

道を5分程歩くと天狗木(伝供木)峠で、大峰口と合流する。この峠の名称と由来について「紀伊国名所図会」と、「紀伊統願土記」にはほぼ同じ内容の記述がある。要約すると「この峠は伝供木(峠)といい、美福門院(平安後期の鳥羽天皇の皇子、藤原得子)が、高野山奥の院を遷すに供養した所である。(伝供)は供物を手から手へ伝え渡して、仏前に供えること、(木)は供物を置く台の意味である。借字(当て字)で天狗木(峠)と書く」と記されている。天狗木峠からは大峰口をたどり、檜峠から奥の院前バス停にくだる。(平成15年10月30日歩く)

旗振り通信の基礎知識Ⅱ

柴田昭彦

【旗振り師（旗振り人）】

中島伸男氏や吉井正彦氏らの聞き取り調査で、父や祖父、曾祖父が旗振りをしてきたという方々の証言が得られている。郷土資料等に散見する旗振りに関する証言については、前回までに紹介してきた通りで、かなり多く残されている。地元に住定して、依頼を受けて、旗振りをするようになったケースが多いと思われる。経済的に苦しくて、収入を得るため、ひとの勤めもあって旗振りの仕事を始めたという話も残されている（中島、藤生野第22号、土山町・串山市の相場旗山での旗振り）。相場通信の仕事のおかげで、相場になったので、盛眼鏡をまつついで

たという話（室生村の相場旗山、本誌61号）もある。一方で、旗振りさんは、地元の人ではなかったというケースも伝えられている（奥登西山、57号）。旗から旗へ遊び人の風態で波り歩いていたらしい「眼がね屋（旗振り人）」の話も残るが実際は定住していたようだ（三木市、66号）。雇用体系、所属組織によって、いろいろなケースがあったのではないだろうか。明石市の黒田実三郎さんの祖父は旗振りを継続しながら宿屋を始め、「めがね屋旅館」と呼ばれるようになったという（75号）。三木、社、明石では旗振りさんを「めがね屋」と呼んでおり、これらの地域で共通した呼称が使われたように思

われる。天狗山の旗振りさんは「相場旗さん」とも呼ばれていたという（69号）が、「相場旗」というのは、相場の情報をもとに投機的な取引をした業者で、旗振り通信の情報を利用した側であろう。【通信企業の運営】天狗山で旗振りをしてきた人は、毎月、岡山へ給料をもらいに行っていたという。通信社が旗振り人を雇って、通信業を経営していたわけである。「朝から、毎日五時間くらいは旗振りをしていたのと違うかな」という古老の証言（藤生野第20号、75頁、小輪山）もあり、立派な職業として位置づけられていたことがうかがえる。ただし、松田良一『近代日本職業事典』（柏書房、1993年）には「相場旗」はあるが、「旗振り師」は載せられていない。やはり、特殊な技術職であり、地域的にも限定されていたからであろう。各地で、山中の旗振り場には雨露の防げるぐらいの小屋が設けられていたという証言が多数あり、かなりの時間滞在して旗振りの仕事に専念していたようだ。米相場の情報や旗振り人の給金については文献には記録がないので、想像する

はかないが、生活が苦しい家庭の家計を支えるために、この仕事を引き受けたケース（前掲）があり、当時としても、かなりの高給を得ることができたことが容易に想像できる。西宮市の吉井正彦氏（旗振り通信保存会）は当時の給料の金額についての情報を持っていると聞いているが、今まで公表されていない。「歴史と神戸」での公開を待ちたいと思う。

【雨と霧の日の通信】

電信電話の発達していない江戸時代から明治前期にかけては、雨天や濃霧・霧によって旗振り通信ができない場合は、通信可能になるまで待つか、米飛脚に頼るしかなかった。明治後期になると、雨霧の場合は、値段は高くなるが電報を用いた（社刊、本誌69号）。水谷與三郎「旗振り通信」（『土』百五号、昭和14年9月）には次のようにある。

「昔は二厘五毛や七厘五毛もありました。二銭も変わると神戸へ電報打つても儲かった。」「モヤの日は見通しがきかなくなつた。少々の雨降りでもふりました。かすんで見えぬ時は電報でやるか、晴れるのを待つてかためて一時に旗をふつた。雲霧の花

が咲いて見えぬというのも霞むからです。」

【通信の廃止された時期と理由】

山陽新聞（昭和6年12月7日付）には、次のようにあり、旗振り通信が岡山で明治三十年代まで重宝された理由を桑島一男氏が説明している。

「旗振り役は、明治政府公認のもとで相場師と呼ばれ、れっきとした職業だった。明治六年、岡山にも電信局ができたが、当時の電報は電文一文字が米一升といわれるほどだったため、安くて早い旗振り通信が主役として続いたという。」

桑島一男「有数の電信電話」（日本電信電話公社新編電信局内事業史編纂委員会発行、昭和55年）には次のようにある。

「電報料金は（中略）距離によって差があり、米一石が三円内外（したがって一升は三銭）の明治五年当時に和文一音信二十字で、岡山・東京間が二十七銭（一書には二十五銭）となり、カタカナ二十文字で米一升代金となり、そうそう簡単に庶民が利用できる制度ではなかつたらしい。明治六年に岡山で取扱開始したものの、電報を打ちに来函するものは県庁の

役人以外にはなく（中略）局員は仕事がなく（中略）魚釣りばかりしていたという。」

週刊朝日編「徳政年表 明治・大正・昭和」（朝日新聞社、昭和63年）によれば、明治五年の電報料金は、和文・二十字以内で、「五銭（東京府内）、七銭（關東まで）」とある。明治五年当時、東京・大阪での米一石（百升）の正米相場は三〇四円であり、米一升が三・四銭であった（中沢孝次郎「日本米価変動史」、明文堂、昭和8年、柏書房、昭和40年、柏書房、2001年、復刻版）。

大阪では、明治26年3月に電話が開通し、近畿各地にも次第に普及していったが、開通後10年間は旗振り通信が用いられ、市内での電話が相場通信に利用されるのは明治36年のことである。次第に電話が用いられるようになったのは、高層建築が市内での旗振り通信を妨げるようになったためである。明治42年の北区の大火までは、旗振りの権が堂島その他にも見られたが、大火以後は、市内から旗振り通信は姿を消した。一方、市外においては、旗振り通信が利用されていた。当時、市外電話の予約が許されず、大阪・

和歌山間で電話の接続に一時間以上もかかったが、旗振り通信では、わずか三分間で伝えられたので、その差は歴然としていた。市外電話の接続の遅さは昭和40年頃まで続き、彦根から大阪まで4時間半かかったというから、電車のほうが早いくらいであった(『日本人の暮らし』講談社、2000年、397頁)。

大正3年9月、予約取引所電話規則が發布され、12月から取引所相場の通信のための電話の予約が許されるようになり、市外においても、電話を利用する方が便利となり、旗振り通信は自然消滅することとなり(『近藤論文』)。吉井正彦氏らの調査結果によると、兵庫県内においては、大正6、7年ごろまで旗振り通信が行われていたという(『明石市魚住町の黒田安三郎さんの証言によるものと思われる』)。姫路市の大平山では大正6年まで継続されていた(『姫路の山々』135頁参照)というからほぼ一致する。それは旗振り通信員の職業維持のためであったようである。大正6年というのが終焉期といえよう。

【相場通信の対象】

米相場のみならず、油、金銀相場、株

道跡相愛知(『保育社、平成6年)には東塚古墳の呼称で紹介されている(『穂高』)。「高旗山」は旗振り山と思われるが、江戸時代利用されたようで、現在では詳しいことは伝わらない。信楽町・上野市境の高旗山(710・11)は旗振り山である。

「高旗山」でも、旗振りが行われた可能性があるが、土山町・甲賀町・関町境の高旗山(773・3)での伝承は不明である。ただ、「日本山嶽志」(明治39年)に「鈴鹿山」の別称として「高旗山、高旗山」と並べてあるのは、気になることである。これは『帝國地名大辞典』(明治35年)に「高旗山(土山町)の東南にある高旗山の別名が高旗山になっているのに従ったものである。志賀重昂『日本山嶽志』(岩波文庫版、1995年)には、近江・伊賀の境上の「高旗山(海拔七〇六米)」(236頁)と近江・伊勢の境上の「高旗山(海拔八五・一米)」(237頁)が載っていて、前者は明らかに「高旗山」である。日本の各地に「タカハタ山」があるが、焼き畑が行なわれた、あるいは山腹に畑があることだけでは説明できない「高旗山」も混じっているのではないだ

式相場に用いられたという。「守山市史(中巻)」(本誌7号)によると、明治12年から株式取引に用いられている。三井家は、旗振り通信を用いて、文化文政期、主に金銀相場でもうけている(樋口清之「こめと日本人」)。

【相場通信と山の呼称】

相場通信を行った山は、地元で、旗振り山、相場旗山、相場取山、相場山(相庭山)、旗山(畑山)、高旗山と呼ばれることが多い。ハタフリ山とソバフリ山が圧倒的に多いが、ソバトリ山、ハタ山と呼ばれる場合もある。相場ヶ裏山、相場の峠(むね)と呼んでいるケースもある。「相場」と冠した山はまず確実に相場通信の行われた山であるが、「旗」の漢字を含んだ名称の山は、戦乱に関するものもあり、相場旗りと関係のない場合がかなり見られる(本誌62号参照)。

現在、「畑山」と表記している山は、ハタケに由来することも多いが、なぜか、兵庫県内には、「旗山」(旗振り山)であるケースが目につく。耳で聞いて、いつの間にか由来が忘れられていったからであらう。

ろうか。もちろん、米相場とは限らず、戦乱において物見が合図の旗を振った場合もあるだろう。高旗山(773・3)の場合、江戸時代に一時期、実際に旗振りが行われた名残か、高旗山(710・11)と混同されたものか、判断が難しい。古文獻の調査が必要であらう。

江戸時代には、旗振り通信を「気色見」といい、相場が知られることを「相場移し」といった(中島伸男、産生野郎)。「彦根市史(下)」によれば、「米相場早移」「遠見」とも称したとのことである。色見山(日生町)および彦根塚(上野市)は旗振り場であることがわかっている。岡山県旗山・茨城県加波山には「旗立て石」があり、広島県小原山・山口県白旗山には「旗差し穴」が見られる(中島伸男『広島県百名山』・山口県百名山)。「石上原」(日本民俗学大辞典)〔桜楓社、昭和5年)の「はた」の項目に、「物見が合図の旗を立てたり、目じるしに旗をたてたという回みのある石を、「旗立石」と広くいっている」とある。これらは、戦乱にかかわるものだが、本誌52・58号で紹介した野洲町の相場旗山の山頂の台石の場合は、旗振りさんの用いた「旗差

川合論文には「見当山」という名の付いた山は旗振りに関係のある山と考えよいのではないでしょうか。鈴鹿市岸岡山字見当山、岐阜県高鷲村鷲見の東にある見当山、一宮市今伊勢町目久井見当山古墳(全長七〇)など」とあるが、見当山は周辺からよく目立つ目印になった山をいい、入港する船の目標になったりした(本誌58号)、見当らしの良い山が選ばれ、外国船の監視をする見当場が設けられた(本誌63号)。従って、岸岡山は旗振り山であるが、郡上郡高鷲村の東、大野郡荏刈村に位置する見当山(1352・11)は標高も高く、旗振り山とはとも考えられない。今伊勢町本神戸字目久井472の見当山古墳(軍塚古墳、目久井古墳ともいう)は、5世紀前半の築造と思われる前方後円墳であり、「一宮市今伊勢町史」(1971年)と「新編一宮市史本文編上」(1977年)にあるように、見当山(方角山ともいう)の名称は倭姫命がこの古墳の上から伊勢の方角の見当をつけたことに由来するという伝承があり、「米相場の旗振り」といった伝承は聞いておりません(一宮市博物館の土本典生氏による)とのことであった。「日本の古代

し穴」のある「旗立て石」といえるだろう。武将などが窪みに旗を立てたという旗立石(旗旗石)については「日本伝奇伝説大辞典」(角川書店、昭和61年)と「日本説話伝説大辞典」(鶴城出版、平成12年)に解説がある。

【相場通信の山の知名度】

- ①相場通信の行われた山であることが、一般によく知られているもの。
 - 旗旗山(須磨邑)、旗旗山(安野市)、旗山(旗旗台古墳)、阿武山(古墳)、石堂ヶ岡、多度山、高旗山、高安山、金鳥山
- ②登山ガイド、郷土資料、論文、地名辞典などに記載があって、インターネットで紹介されるなど、ある程度、知られているもの。
 - 千里山三本松、天王山、天保山、畑山(高宮市)、さんしょう山、感応寺山、明石旗山、金ヶ崎山、北山旗山、太平山、桶屋山、志方旗山、小旗山(相旗山)、相場旗山(野洲町)、荒神山、佐和山、相旗山(土山町・串山市)、長谷山、豊坂山、岸岡山、お経塚、旗山(伊賀町)、天狗山(日生町)、西大平山
- ③郷土資料などのなかに埋もれていて、

インターネットで紹介されることが少なく、あまり知られていない旗振り場は次の通りである。

そばふり山(千原丘中)、神於山、雲山峰、十三峠、天照山、柳谷西山(向谷山、大沢山)、二石山、高峰山、ソバフリ山(久安寺・南郷)、明神山、諏訪山、高取山(長田区)、梶尾山、神出聖塚山、畑山(東野市)、安養寺山、小島山十三仏、雨山、菩提寺山、行者山、上野西山、高岡山、本城山、見当山(身田)、千歳山、遠見塚、八ッ面山、岡崎市の旗振り場(ネムル沢・ネムリ沢)、相場取山(家生村)、国見山(奈良市・天理市)、千鉢山、ボンデ山、鳴尾山、霧山(水上市)、南山、麻生山、相場取山(新潟市西蒲)、金輪山(福野市片山)、相場ヶ裏山、色見山、熊山、竹林寺山、通照山、雨乞山(小郡町)、火の山(下関市)、福岡県内の旗振り場

【貨幣と米価について】

江戸時代には、関東においては金種相場、関西においては銀種相場であった。一種の為替相場の発生をみた。その中にあって、米穀は現物貨幣としての役割を果たし、相場を形成していた。当時の貨幣の相場は、金一両一匁六〇匁四〇〇文であったが、固定でなく商賈関係により変動し、金一両がおよそ米一石といわれていた。大人ひとりが一年間で消費する米の量が一石であった。一石一〇斗一〇〇升一八〇リットルなので一升瓶一〇〇本分が一石というわけである。幕末期の金一両は四斗から九斗ぐらいの間を変動していた。

江戸時代の米価は、西日本における銀貨による場合、米一石に付き、代銀いくらかというように表された。たとえば、米一石代銀六七匁八分九厘などとする。明治以降も、米価は一石を基準にして表し、米一石五匁六七銭などとす。

旗振り通信の行われた時代のうち、主要な年次での一石あたりの米価を一覧にしておこう。江戸時代については、須々木庄平「筑島米市場史」(日本評論社、昭和15年)の附録の米価表から年平均米価(現貨換算米価)を引用し、明治以降の米

価については、中沢弁次郎「日本米価変動史」(明文堂、昭和8年)から引用した。

- 1750年 五七匁七分(一四四四銭)
- 1800年 七二匁五分(一四四三〇銭)
- 1850年 一八匁四分(一七四七六銭)
- 1867年 九匁五分(一三九四八三銭)
- 1868年 四匁五九銭
- 1900年 一〇匁七九銭
- 1914年 一五匁〇二銭

旗振り通信ではこれら相場の数値を送信したのであるが、情報を歪められないために様々な工夫が行われたのであった。

【米取引のしくみ】

旗振り通信で相場の情報をいち早く知ろうとした理由には若干の説明が必要であろう。筑島の米相場では実際に米の受け渡しを行う「正米取引」の他に「假合米取引」があった(「新訳産米」筑島のDNAを取り戻せ、財経研究所、平成15年)。

「假合」というのは今日でいう先物取引のことで、延べ売買(信用取引)、空米取引(空売り、空買い)とも呼ばれる投機的な商売で、実際の米の受け渡しをしないで、相場の上下によって損益を計算し、

二百零四米価(分)表

1750	57.7	1444	1800	72.5	14430	1850	18.4	17476	1867	9.5	139483	1868	4.59		1900	10.79		1914	15.02	
------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	------	-----	--------	------	------	--	------	-------	--	------	-------	--

1750	57.7	1444	1800	72.5	14430	1850	18.4	17476	1867	9.5	139483	1868	4.59		1900	10.79		1914	15.02	
------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	------	-----	--------	------	------	--	------	-------	--	------	-------	--

お金のやり取りを行ったものである。この変動する日々の相場を知って売り買いをするための情報を得て運用するために旗振り通信が利用されたのであった。

客は米会所に証拠金を預けて担保としておいて米の売買を行い、当日または数日のうちに帳簿上で差金決済を行う。未決済時に帳簿上で証拠金が不足すると追加の証拠金が必要になる。決済時、客は手数料を支払い、米会所はこれによって利益を得るのである。客が儲けるためには、相場の上下幅による利益が手数料を上回る必要がある。

江戸期の取引では米百石(取引単位、一五トン)について一両の差金(証拠金)を出し、その日の相場が六%下落すると差金流れといって一両を失う。朝売買をして、その日の夕方には損得がわかったという(宮田川守貞「近世風俗志」(守貞園)「岩波文庫、1996年、164頁)(高橋幹夫「江戸あきない物語」(青林院、平成5年、ちくま文庫、2002年、60、61頁)。

アメリカのシカゴ商品取引所で先物取引が始まったのは1848年だが、筑島に米会所が設立されて先物取引が公認されたのは1730年であり、世界的にも

ヴィラ風花 2004年の御案内

仕事の後でも、らくらく出発

ウイークエンドコース

夜行での登山、ハイキングは楽しめるもので、山に登る前に温泉に入って充分に疲れをとって下さい。東京駅から2時間20分で山に着きますので仕事が終わってから出発、お車でおいでの場合は深夜チェックインOK!

当館前より尾瀬線のバスが出ます。(朝5:00から 帰還20分)

集合 J R 湯沢(南口) 上越新幹線 上毛高原駅 21:40分頃
(東京発 20:30分頃 谷川号オール自由車)

お帰りは 16:00発 新前橋行高速バスを御利用下さい。(¥3,700)

旅行日 週末の金・土曜日 11月1日迄 1名様から(1名は担保屋です)
5/28~6/19日 7/9日~8/21日 9/17~11/1日

宿泊料金 素泊り 4,000円 朝食付 5,000円 弁当 600円 入浴料 別
(朝食弁当可 健脚の方は花房ヶ原から尾瀬沼→大清水 口御可也)

平日 特選 谷川岳の息吹トレッキングと尾瀬ヶ原1周又は至仏山へ

雄れの山日本三大奇観を見ます。

J R で集合 (送迎無料)

初日 上毛高原駅 11:15分 → 谷川岳山荘 → 一の谷沢敷 → 炊事の滝 → 戸倉 尾花泊り

2日目 至仏山又は尾瀬ヶ原へ各自で(ガイド料 相談可)

尾瀬ヶ原から 三条の滝を見て新前方面へ戻られます。→ 尾瀬池を見て温泉地権方面へ戻られます。

旅行日 月・火・水曜日 5/31~6/16日 7/12~9/18日 9/13~10/28日 (2名様以上でお申し込み下さい)

費用 ¥11,500 (1泊2食と尾瀬峠バス代一の谷沢敷ガイド料含む)

歴史をたどる峠越の旅

旧街道に秘められた歴史のドラマをたずねる山旅です。
上州と会津を結ぶ旧街道に戊辰戦争のロマンをたどりま。

沼田 → 戸倉 → 大清水 → 尾瀬沼 → 沼山峠 → 松枝峠 → 解股

旅行日 6/7~8日 7/19~20日 8/3~4日 (集合は平日コースと同じです。)

費用 ¥13,500 (1泊2食とお弁当、ガイド料込)

群馬の日本百名山をのんびりと登りましょう

毎日温泉に入れて浴衣でくつろぐ登山です。

至仏山 日光白根山 武尊山 皇海山 谷川岳 赤城山
(20分) (35分) (30分) (60分) (60分) (60分) ()内は風花から登山口迄の時間です。

◆ 同館ですべて軽いやつで出発 ◆ 荷物は宅配便で送り、行き帰りは軽装です
◆ 朝夕食に食べた山の地産サービス ◆ この雨天候が安定している時季です

旅行日 8/17~22日 9/1~6日 費用 ¥77,000 (5泊15食 送迎費・ガイド料・ロップウエー)

集合 第1日の10:30分頃 上越新幹線高崎駅 集合ののち赤城山に登ります。

2004ゴールデンウィーク春山スキー

至仏山大滝山及び尾瀬ヶ原一帯ウオーキングスキー

日 第1日 4月29日~5月1日
第2日 5月2日~5月4日

費用 28,500円
(5泊2食1食 温泉1泊・登山バス代・ガイド料)

※ 至仏山スキーコースは山スキーの経験者または3年以上のスキー歴の方です(スキー歴中の練習の経験者も参加可とする事もありますが、経験者優先です)。スキーコースは山スキーの経験者であれば可也です。

◎ この時期、至仏山は雪が溶けても残っていますよ! 至仏山の山の方もお楽しみ。5/10~1/1000回は入山禁止です。入山料も変更の可能性があります。

山旅案内

登山杖

左尾瀬生まれ尾瀬山に入って40年
春山スキーでは至仏山を1日
3日、3週間で20日登りました。

ヴィラ風花 KAZA HANA

〒373-0411 群馬県利根郡みなし町戸倉4-45
TEL 0278-58-7051 FAX 0278-58-7077
予約専用 0278-58-7076

★施設の御案内 天然温泉で山の疲れを
取る

湯 室 6 (ストイレ付3)

和 室 3

広 間 10帖

ホ ール 30坪

【おわりに】

★本研究は、旗振り通信の行われた地点に関する集大成であるが、この領域における過去の諸研究である「近藤論文、中島伸男氏の論文2編、川合論文、木谷論文」に負うところが大きい。これらと併せることによって、旗振り通信の百科としての役割を果たせるものと思う。ぜひ、それらの論文も参考にしていただきたいと思う(57頁59、65号参照)。

★平成12年7月から平成14年2月までに、11の図書館、6団体、110市区町村宛に問い合わせをして、郷土資料館、歴史博物館、文化資料館、公民館、文化財嘱託調査員、郷土史家、文化財事業団、教

育委員会(生涯学習課、文化課、文化財課)等から返答を得た。その他、個別に37人への問い合わせも行った。問い合わせの際、返信用はがき・封筒を添付したが、5団体・21市町村・4人からは、全く首沙汰がなかったことは残念であった(返答なしが2割)。その大部分は、資料に乏しい地域であり、地元で資料がないものと判断することにした。テーマが特殊であり、担当者が処理しきれないであろう(資料がなく不明という返信ぐらひは出してほしいものだが、5件につき1件は、それさえも届かなかった)。一方で、筆者の提供した参考資料に基づいて、古老への聞き取り調査を実行されて、従来知られていなかった情報が得られたことは喜ばしいことであった。その内容は既に本連載で公表した通りである。自治体レベルでの調査はもう限界であり、今後の旗振り通信の調査では、現地の古老の情報を直接集める方法しかないだろう(その古老も次々と亡くなって、情報が刻々と失われつつある)。また、埋もれた郷土資料の中に、旗振り場の情報が隠れている可能性も残されているかもしれない。

★抽稿をまとめるにあたっては、実に多くの人々からの資料提供があった。その材料を用いて、たいへん充実した内容になったことに對して、お世話になったすべての人に感謝申し上げたい。

★本研究をご覧になられた方々が、地元における伝承を掘り起こして、筆者が明らかにできなかった旗振り地点を明確にしてくれることを期待している。新たな発見の見込みのある地域でのフィールドワークとして、総合学習や地理学生のためのテーマとしても有効ではないだろうか。京阪神・但馬・丹波・津山・広島・山口・福岡・東海道の地域では未知の旗振り場の存在が予測でき、探索地域にふさわしい。そうして得られた旗振り地点に関する情報やお気付きの点など、筆者まで連絡いただければ幸いである(連絡先は本誌57号参照)。新たな情報が得られた場合には、続報でお知らせすることにしたいと思う。

★資料には人手ににくいものがあるので、次回にその一部を掲載する。(つづく)

(平成13年3月20日成稿)
(平成14年2月16日補訂)
(平成16年1月5日修正)

ユニークな歴史を持っているのである。本誌74号で紹介したように、フランスにおける視覚通信(輸本通信)の実用化は1794年、それに対して、日本における視覚通信である旗振り通信は1743年には始まっていた(本誌61号)。世界でも類例を見ない旗振り通信という方法は、先物取引の先行とともに日本におけるユニークな歴史を形成しているといえるのではないだろうか。

連載

三角点を訪ねて ②⑧

黒河峠から乗鞍岳へ

湖北

磯部 純

乗鞍岳山頂（三角点）にて



「次は白谷嶺^{しろやに}、馬場^{ばば}から、湖北の乗鞍岳^{のりくらだけ}まで歩きましょう」と約束したのは前年の10月。山科の大兄と大谷山へ登った帰りだった。それ以降、日が合わず冬になってしまい、春になって日を決めたが、二回とも雨で中止。この日は、降水確率午前40%、午後20%だったが、三回目の正直で、やっと乗鞍岳へ登頂できた。

7時20分、JR堅田駅で、個人山行では初めて同行する花博士の長老と守山の彼の車に乗り込み、3人で待ち合わせ場所の白旗神社^{しろはたけ}へ向かう。神社へ到着すると、すぐに大兄の車がやって来た。この日はここで会うまでだれが来るのかわからない状況だったが、最終、集まったの

は男4人、女2人の6人。
早速、大兄とこの日の下山路を相談する。降水確率40%であること、国道すぐそばの国境スキー場へ駐車することに懸念があり、在原へ一台を置き車することにした。国道を野口まで走り左折。在原スキー場の墓があるという在原集落東の公園駐車場に置く。雨に遭った場合、最悪でも電電公社の道をくだればよいとの思いであった。

ここから守山の彼の車に6人が乗り、西へ向かい八王子川沿いの道を北上する。舗装路が切れ、地道をタネクネと登っていくと三國山登山口で、前の広場へ駐車する。広場には平日だというのに何人か

の登山者がたむろしていた。
準備を終え、東へ50分も歩くと、そこは黒河峠。近江の白谷から越前の山へ越える峠である。この峠の名前は越前側へ流れる谷、黒河からとられたのであろうといわれる。この峠越えの東には西近江路・国道161号線が走っているが、この黒河越はその間道として利用されてきたと考えられ、歴史は相当に古い。ただ、

車道に整備されたのは昭和30年代のことである。

ヘアピンカーブの峠から、東の斜面に切られた道を登る。この道は県境沿いに走っている送電線の巡視路である。取り付いてすぐは急な登りだが、標高点620がまで登ると道はゆるやかになる。北斜面はすばらしいブナ林。カッコウがもの悲しげに鳴いている静かな林に、時々、けたたましくヒガラの声が響き渡る。



黒河峠・乗鞍岳付近略図

道は予想していた以上に良好で、固く踏み込まれている。道脇には何本ものシライトソウが咲いていた。

小さなピークを二つ越すが、いぜん、道は尾根を通らず尾根の少し下を捲いていく。これでは三角点を素通りしてしまうと地形図で確認し、見当をつけて右手のやぶ斜面を登り尾根へと出た。現在はやぶが刈り取られ、しっかりした道が出来ているが、この時は尾根にやぶがビッシリ。手分けして探すも三角点はなかなか見つからない。しまいには「三角点はもう一つ向こうのピークだ」と言い出す人も出る。そんなはずはないと、もう一度尾根の西外れを探すと、やぶに隠れた三角点標石が見つかった。この山を白谷嶺^{しろやに}馬場と呼び、点名は「白谷」、4等三角点である。早速、皆を呼び集める。

やぶの県境尾根を西へ歩き、北に曲がると、再び巡視路へ合う。道脇にはイワナシが実を付けている。ゆるく登るとピークでは関電の人が測量中で、その人の話では一2日前にも単独行の人が乗鞍岳へ向かったが、道がわからず引き返してきた」とか。方向を誤ることはないしろ、そんなにやぶがキツイのかと、少々心配

になる。

平坦な尾根を東に曲がると、両側にはベニドウダン^{ベニドウダン}の林。下にはハナニガナ^{ハナニガナ}が咲き乱れ、ツボシミ^{ツボシミ}も咲いている。タニウツギ^{タニウツギ}の花のある急斜面を登り、もうすぐ小屋という所には可愛らしい白い花を付けたタニギキョウ^{タニギキョウ}の群生が……。登り切ると送電線鉄塔ピークで、北から西、南にかけての展望が開ける。北には、三國山から連なる尾根の端に野坂岳^{のりくら}が頭を出し、明王^{あきみ}の禿の左に赤坂山^{あかざか}が尖っている。その左に寒風山^{さむかぜ}が横たわり、その後ろには大谷山^{おほやに}がかすんでいた。南にはマキノ^{マキノ}の集落が見え、その麓に琵琶湖^{びわこ}が広がっていた。

「さて、急斜面をもうひと登りだ」と歩き出した途端、ストックが無いことに気がつく。てっきりいま休んだ鉄塔に忘れたものと思い引き返すが、ストックはどこにも無い。それならタニギキョウ^{タニギキョウ}を撮った場所か、あるいは、三角点に忘れたのかも知れない。さて、どこまでストックを突いて歩いて来たのかを思い出そうとするが、記憶は全くの白。自分のボケさ加減に腹が立つも、憶えていないものはどうしようもなく、ストックを諦め、

禁断のアフガーニスターン・パミール紀行

一ワハーン回廊の山・湖・人

新刊
A5判上製美装 四八八頁 三八〇〇円 カラー32頁 写真・地図多数
アフガン北東部に盲腸のように突きでたワハーン回廊。秘境と名のつく唯一残された
山域に、近年、三度に亘って潜入した世界的に類のない貴重な探検記録。

平位 剛著

ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

登り始めた。

登り切ると平坦な台地。ササと低い灌木のなかに巡視路がのびていた。まずはこの台地の最高点へ行こうと、北東へ道をたどる。最高点は送電線鉄塔のある場所。地形図には載っていないが、声原岳と呼ばれる標高846計のピークである。ここからの展望もまた最高で、北には野坂岳、夕暮山と岩山が……。その間に西方ヶ岳と敦賀崎が見えており、東には手の届きそうな所に、これから向かう乗鞍岳のアンテナ塔が見えている。少し巡視路を戻り、南にある鉄塔への道をくだる。鉄塔までの道はあったが、その先、南へのびる尾根への道はない。方向を定め南の杉林に突っ込むが、少し右に振ってしまったようだ。呼び声で左

へ向かうと、尾根にしっかりした踏み跡が残っていた。何のことはない、進入口がやぶで隠れてわかりにくかっただけだ。2日前に引き返した人は、ここで諦めたにちがいない。この尾根は造林公社の境界尾根で、右は杉林だが、左は趣のあるブナの疎林。尾根をくだって登り返して台地になると、道はさらにしっかりしてきた。あたりは静かな雑木林。道なりに進むと、道は尾根にのらずに、尾根の南斜面から北斜面へ移る。周りの林を羨しみながら歩いてきたが、ゆるく尾根が北へ振ったあたりで道が消えてしまった。ちょうど、右上が標高点825計のピークだ。そのまままっすぐに進めばよかったが、尾根に登ってしまったから、それからが大変。そこは人が通り抜

けるのがやっとぐらいのピツシリとした立木が……。それを掻き分けて進むだけでひと苦労。やっとの思いで尾根をくだると、そこにはしっかりとした道が通じていた。後で、守山の鞍に確認してもらったところ、少しの間だけ道が草に隠れて不明瞭なだけだったようだ。その道を東へ少し歩くと、林が切れササ原となる。ササを掻き分け進むと、乗鞍岳のアンテナ塔の建物の裏手へ飛び出した。建物やアンテナが無ければすばらしい尾根である。時間は11時50分だった。昼食を少し我慢して、乗鞍岳三角点まで足をのばすことにした。ササ原に入ると道の手前にはムラサキサゴケの群落があり、花をいっぱいに開いていた。アンテナのあるピークを越え、ゆるい斜面

を登ると建物があり、その南の石垣の上の路上に三角点を立てていた。ここから北方を眺めると、横山岳・金鷲岳が霞んでいた。

乗鞍岳三角点 標高865・2計で、点名は「野口村」。2等三角点である。標石は磁北を向いていて、頭に赤ペンキが塗られている。そのうえ、頭の角が削られ、誰かなのは北東の角だけ。何と哀れな姿か！

この場所が待望の昼食とする。ズボンの裾にうごめく小さなダニを一匹残らず払い落とし、昼食時間にはいつも最後まで粘っている彼がオーケイを出すまで、ゆっくりと至福のひとときを過ごす。気がつくとも、雲はなく、暑いほどの陽光が降り注いでいた。

13時20分、下山開始。「この山へもう一度来たいので、道を確認するためにいま登ってきた道を戻りたい」と守山の彼が言うのを了解し、2時間後に黒河峠への道分岐で会うことを約束し、破線の分岐ピークで別れる。

5人は地形図の破線の尾根をくだることにする。「戻道になっていて道はないかもしれない」と言った途端、やぶ漕ぎ

好きな女性2人が急に張り切る。破線の道をくだると、最初のピークまでは立派な道が残っていて、「これなら楽にくだれる」と思ったのも束の間、東へ振る尾根にのった途端、道は消えて無くなってしまった。目の前には厚い立木の壁が……。仕方なく尾根なりにやぶを掻き分けくたいていく。周りはシロモジの多い雑木の尾根。所どころ道跡は確認できるものの、やぶで目の前を遮られ、道と呼べるものではない。乗鞍岳までは汗をあまやかかなかったが、この下りでは、ボクボクと額からしたたり落ちてきた。

まだ着かないのかと思うほどにやぶを漕ぎ、やっと三角点へ到着。ここまで山頂から45分もかかっている。4等三角点、点名「路原」である。4等三角点にはだれも関心がないのか、標石はやぶにおおわれていた。ただ、傍らにレンゲツツジとカマツカが花を添えているだけ。

三角点ピークから少しやぶを漕いでくだると、しっかりした道が現れた。その道をくだっていくと、破線の道はどこかへ消え、ゆるい尾根へ自然に導かれた。尾根は伐採されていて仕事道が残っていた。その尾根を先頭までくだるとその先

は崖で、フェンスで遮断されている。崖に沿って西へ廻り込むと道へ出た。時間は14時45分。

在原まで車道を歩き、車を置いた広場へ。そこから待ち合わせ場所の黒河峠への道分岐まで走る。腰を下ろして喉を潤しているとき、間もなく守山の彼が戻ってきた。別れてから2時間足らずで、黒河峠の駐車場までくたったとのことだった。もちろん、忘れたスツックは無事回収していただき、感謝の一言。タニギキョウの咲いていた場所か三角点へ忘れたと思いついていたスツックは、何と白谷嶺ヶ馬場のやぶ斜面に取り付く道に突き刺さっていたと言う。何でそんな所に置き忘れたのか、今もって記憶がない。ボケが確実に忍び寄っていることを思い知らされた山行でもあった。

(平成14年5月29日歩く)

AコースタイムV
黒河峠(30分) 白谷嶺ヶ馬場(1時間15分) 声原岳(1時間15分) 乗鞍岳(45分) 点名路原(40分) 府道(20分) 在原駐車場
△地形図V2万5千1:10000

墨染から伏見稻荷山

深草の寺々と伏見稻荷山めぐり

コースとコースタイム 京都墨染駅(7分)→伏見大仏(3分)→墨染寺(10分)→藤森神社(15分)→深草北陵(5分)→高野寺(10分)→眞宗院(15分)→宝篋山(10分)→高野寺(15分)→伏見稲荷神社(10分)→稲荷山三輪道(3分)→伏見稲荷大社(10分)→伏見稲荷山(10分)→稲荷山(10分)→稲荷山(10分)→稲荷山(10分)

中村 敏文

① 伏見大仏(伏見区西舞臺町)
京阪墨染駅で下車。西へ向かい綾水を渡り、びわこ銀行前で左折する。南へ行く道元禪師開基の曹洞宗欣浄寺である。電話で予約すれば志願で伏見大仏を拝観できる。端正厳肅な姿の本尊木像大仏は、高さ一丈六尺(5・3尺)、江戸後期の作で伏見大仏として信仰されてきた。

墨染の地域は桓武天皇より深草少将が戴いた八町歩の土地で、現在の宇治興聖寺の旧寺地ともいわれ、境内には深草少将・小野小町・僧正基嗣の墓がある。

② 墨染寺(伏見区墨染町)



深草の高祥寺



びわこ銀行前へ戻り、西へ少し行くと簡素な本堂、日蓮宗の墨染寺がある。本堂の北側に立派な日蓮上人像、西側に墨染桜が大切に三代にわたって守られている。

『古今集』に上野考雄作の「深草の野辺の桜し心あらば今年ばかりは墨染に咲け」の歌がある。深草少将の逝去を悲しんだ歌といわれ、後日この地の地名となった。

後年、仁明天皇崩御を悲しむ僧正遍昭が墨染の地に念仏堂を建立している。墨染寺の門前は、元禄から明治まで墨染遊廓として繁盛した地域である。

一般には仁明天皇の深草陵に対して深草北陵と呼ばれ、最近では端正に整備されている。

十二帝は八九代後深草・九二代伏見・九三代後伏見・北朝四代後光厳・北朝五代後醍醐・一〇〇代後小松・一〇一代称光・一〇二代後醍醐・一〇四代後光厳・一〇五代後奈良・一〇六代正親町・一〇七代後醍醐成天皇である。鎌倉・室町の武家政権下で制約を受けた皇室の御陵で何か悲しい。

⑤ 高祥寺「深草聖天」(深草坊町)
仁明天皇が崩御し、文徳天皇が嘉祥三年(850)に父君の御霊を弔うため、御所からここに清涼殿を移築し、菩提寺

③ 藤森神社(深草島岡町)

墨染寺から東へ墨染駅前へ戻り、最初の信号で左折して右側を行くと、藤森神社への案内があり、東方向に鳥居がある。明治に京都府社となる藤森神社の由緒は詳だが、現祭神は東神七柱、神功皇后・応神天皇・仁徳天皇・武内宿禰・別雷神・日本武尊・素戔嗚命で、五神を祀祀する。

中御門天皇より下賜された宮中内侍所が本殿で、国の重文、摂社の八幡宮本殿、大將軍社社殿・木像狛犬も重文である。

5月6日の藤森祭は、甲冑鎧姿の武士が表参道で馬術妙技と騎馬を行う。表参道から東へ進み、京都教育大を経て西福寺前から北へ進む。人道橋を越えて天理教山域分教会前を通り、名神高速の下をくぐって深草五町へ入る。神社から半時間旧奈良街道で、西へ入ると深草北陵へ到着する。

④ 深草十二帝陵(深草坊町)

深草の地は皇室の御領で被葬地として利用され、多くの寺院も建立された。明治27年に安業行院が廃寺となり、跡地は深草十二帝陵として宮内庁管轄となる。

としたという高祥寺は、深草瓦町の善福寺が寺跡と推定されている。

現在の高祥寺は寛文二年(1662)に空心僧都が旧寺名を借しんで安業行院跡に再興したもの。釘を使用しない総構造の本堂には歡喜天・毘沙門天・弁財天の三尊福神を秘仏として安置する。6月16日には歡喜天に供えた唐菓子の「歡喜団」をいただく風習がある。

⑥ 眞宗院・山脇東洋墓(眞宗院山町)

高祥寺から東へ行くと、後深草天皇の帰依を受けて円空が開いた眞宗寺がある。後醍醐上皇が仏殿・山門・経堂を建てたが、応仁の乱で焼失。虚空上人が寛政五年(1795)に現在地に再興した。

現在の本院は大正年間の再建で、もと歡喜院の阿弥陀如来を安置し、境内に開祖円空上人御廟という五輪石塔がある。展望がよいので寺の後山の墓地へ上がると、深草一帯が見渡せる。山脇家墓地には、江戸中期の外科医山脇東洋の墓がある。

⑦ 元政庵(深草大門町)

眞宗院から北西へ10数分行くと、元政

上人が庵を結んだことに始まる瑞光寺がある。

極楽寺の薬師堂跡に業朴な日蓮宗の本堂と、縁切り寺に由来する遺言により、塚に竹を三本立てた元政の墓がある。彦根藩土右井吉兵衛元政は江戸吉原の高尾大夫と婚約するが、藩主に横恋慕されて大夫が自殺したので出家し、妙顯寺の日像上人に入門して宗派の高僧となる。

当寺の西10分の地に信者が建てた元政上人墓があり、女性の参拝が多い。

⑧ 宝塔寺 (深草宝塔寺山町)

平安後期、藤原基経が七面山南西麓に広い境内を確保して真言宗極楽寺を建立したが、鎌倉時代に良桂が日蓮宗に改宗し、室町末期に日銀が宝塔寺と改名する。

本堂前の多宝塔は京都最古の永享一年(1439)建立の重文。切妻造四脚門の総門も室町期に建立の重文である。広い方丈など寺観を整えた寺院で、境内も七面山頂までと広く、一部は公園となっている。

⑨ 百丈山石峰寺 (深草石峰山寺町)

七面山中の巡回道を左廻りして公園横からくだると石峰寺へ着く。江戸後期に宇治の曾根山万福寺六世の千宗が創立した単立寺院である。現在は大正四年に火災に遭い本堂と庫裏のみだが、本尊薬師如来は多田満仲の念持仏で、真山には伊藤若冲の下絵を彫った羅漢石仏群がある。

300円を納め釈迦の一代記といわれる石仏を拝観する。風化しても喜怒哀楽を表す五百羅漢像の印象は深い。

石峰寺をくぐり、北方の墓地を抜ける道を行くと、崩落が治る「ぬりこべ地蔵」が小堂に収まり、六地藏前を過ぎると稲荷山へ入り、伏見稲荷大社の奥宮前へ着く。

⑩ 稲荷山巡拝 (深草稲荷山官有地)

奥宮のすぐ北側に「お山めぐり」の千本鳥居の入口がある。稲荷山三峰の諸社巡拝はどの案内にも徒歩4・2時間とある。朱塗りの千本鳥居のトンネル参道は意外と明るく、巡拝の不安を吹き飛ばす雰囲気。10分程度で三ツ辻に着く。間口の広い茶屋が並び分散して休憩する。

三ツ辻からの勾配はゆるく腹望のきく四ツ辻まで10数分。茶屋が数軒あり腹望を楽しみながら休憩する。

土地の人の「お山めぐり」とは、山麓から四ツ辻付近までに祭祀されている地主神の社を巡拝することで、参拝してきただもの、印象に残るのは稲荷大社の奥宮(命婦社)と御剣社くらいで、案内書には膝松さん・御の池・御前谷・おせき社・御産婆稲荷・大八嶋社とあるが、いずれも土地の人々に結びついた神々の社である。

四ツ辻で右から二番目の道に入るとすこし勾配があがり、滝を経て山科への分岐を過ぎて急坂を登ると、一の峰へ到着する。

233軒の山頂の石段上に稲荷社下社が鎮座する。左右と背後は立石で囲まれ、いかなる風雲にも耐えていける立派で頑丈な神域で、最高峰ゆえか神々しく感じられた。

参道沿いの間口の広い茶店でひと休みして数分で一の峰の中社へ参拝する。一の峰と同じく茶店・石段・立派な社殿と茶店がある。中社から少し行くと間の峰で、茶店前に荷田社の社殿が鎮座する。

間の峰から少しくたり少し登ると三の峰で、石段の上社社殿、参道の茶店など一の峰・二の峰と同じ雰囲気である。延喜式の「稲荷三社、並名神、月次、新嘗、大」はこの三峰の社で、先住民が神奈備山として信仰した稲荷山に、波来系の泰氏が伊瀬奈利(稲生)の稲荷を祖神・農耕神として祭祀したのに始まる。平安時代には皇室・貴族の信仰を集め、神位も従五位から正一位まで昇叙し、永享一〇年(1438)に山麓へ鎮座するまで鎌倉・室町の幕府も崇敬した。

一の峰の北西250軒の地点で発見された稲荷山塚。三の峰の祠の下に壱六式石室が残ると言われ、二の峰、一の峰にも破壊されているが大型古墳が存在し、稲荷山には多くの中小の古墳があった。山頂からは四ツ辻へくんだり、往路をとれば30分で伏見稲荷大社へ出る。

⑪ 伏見稲荷大社 (深草藪之内町)

全国四万余の稲荷社の総本社で明治には官幣大社となり、明応三年(1495年)再興の本殿は五間社流造の稲荷造である。この時に別々の稲荷三社を本殿に祭り、別に田中大神・四大神を合祀し

たので現祭神は五神である。本殿中央は下社の宇迦之御魂大神、北座は中社の佐田彦大神、南座の上社は大宮能売大神と三神である。

本殿および後水尾天皇より仙洞御所の建物を下賜された御茶屋は重文指定で、本殿前の鎌倉期の狛犬、豊臣秀吉が修復した社大なる楼門などは見応えがある。

大社から西へJR稲荷駅へは7分、京阪伏見稲荷駅へは10分で行ける。

POWER ZONEガイド登山プラン

表示の金額はガイド料(税込)です。ご参加に伴う宿泊代(ホテル代)は別。集合前後の交通費は含まれていません。各登山プランは旅行業法上の主催旅行ではありません。

毛摩三山ピストン登山 ■5月8日(土)~9日(日) ■5月10日(月)~11日(火) ○集合 JR鳥津駅 37,800円(テント)	五峰山~宮丸山殿寺と大仏山 ■5月15日(土)~16日(日) ■5月17日(月)~18日(火) ○集合 JR鳥津駅 31,500円(ロッジ)
毛摩山ピストン登山 ■5月9日(土)~9日(日) ■5月10日(月)~11日(火) ○集合 JR鳥津駅 27,300円(ホテル)	安平路山と油口島ピストン登山 ■5月17日(月)~19日(水) ■5月21日(金)~23日(日) ○集合 JR飯田駅 28,900円(避難小屋、民宿)
鎌倉の別荘登山 ■5月10日(月)~12日(水) ■5月14日(金)~16日(日) ○集合 立山堂 28,900円(山小屋)	妙善山(赤砂岩)登山 ■5月20日(木)~21日(金) ■5月22日(土)~23日(日) ○集合 JR松井田駅 27,300円(民宿)
南ア・青笹山~青笹山登山 ■5月12日(木)~14日(土) ■5月17日(月)~19日(水) ○集合 JR静岡駅 35,700円(テント)	しらびせ崎~美奈日山殿寺と鳥面山 ■5月20日(月)~21日(金) ■5月28日(土)~29日(日) ○集合 JR飯田駅 28,400円(ホテル)
興秩父・越前山ピストン登山 ■5月13日(木)~14日(金) ■5月15日(土)~16日(日) ○集合 酒沢深谷 85,25,200円(山荘)	南麓山~天狗頭山殿寺と鳥面山 ■5月24日(月)~26日(水) ■5月28日(金)~30日(日) ○集合 JR南小谷駅 38,900円(テント)
	大無間山ピストン登山と山伏岳 ■5月25日(火)~27日(木) ■5月28日(金)~30日(日) ○集合 JR静岡駅 33,600円(民宿)

お申込み・お問合せ・パンフレット請求
パワーゾーン TEL052(788)7575 FAX052(788)2423
e-mail://pcan@sa.allies.or.jp http://www.e-powerzone.com
名古屋千種区東山通り1-132-1 クラビムビル402号 営業 月~金 9時00分~18時00分 土曜 9時00分~14時00分

土佐街道から高取城・壺阪寺へ

松永恵一

高取城跡
雲かとみれば
雲でござらぬ 土佐の城

大和盆地から眺める高取城は壮大で美しい城であった。標高583・9mの高取山の山頂をならして、高さ10数mの石垣を築き、白垂三層の天守閣と小天守閣・硝煙櫓・鉦櫓を多層櫓で連結した天守曲輪を置く。四方にのびる尾根筋に二の丸、三の丸、大手郭、壺阪口郭、吉野口郭などの曲輪を幾重にもめぐらし、櫓数27、門数33、高取山中に連なつた塙の長さ約2900m、雪と隠われた威容を誇つた。山頂一帯に残された石垣群は見るものを圧倒し、往時の面影が偲ばれる。

南北朝時代、南朝側の家康盛徳氏によつ

「国見櫓からの眺望」



て築かれた城は、斜面の土をカキアゲて土塁を設けたカキアゲ城であった。大和一の覇者となつた郡山城主筒井順慶は、郡山城の詰め城として大修築を加えた。天正十三年(1585)、豊臣秀長が大和・和泉・紀伊百万石の太守となり大和郡山城に入ると、重臣の本多正俊に命じて高取城の大改修を行わせた。この地の戦略的な意味を重視した秀長は百万石の財力を傾注して高取城を築いた。山の尾根をひらき、堀を切り、石垣を積む。白漆喰の塙が高取山を取り囲む。大規模な石垣と塙を持つ近世の本格的な城郭を構え、芙蓉の花にたとえられる美しい城が高取山中に出現した。

本多氏1万5千石の居城となつた後、

大砲

司馬遼太郎「おお、大砲」は言う。

「むかし、和州高取の植村藩に、ブリキトースという威力ある大砲が居た。居た、としか言ひようのないほど、それは生きもののような扱いを、家中から受けていた。

六門あった。

三貫目玉を五丁余(六百メートル)も撃ち渡せるという巨砲で、むろん六門とも、高取植村家二万五千石の藩宝になっていた。

大砲は、白壁の蔵におさめられていた。蔵は、山上と山麓とにあり、それぞれ三門ずつ格納されていたが、……」

文久三年(1863)8月、五條代官所を襲い代官の鈴木陣内を血祭りに挙げた天誅組は、十津川郷兵一千名を募り高取城に押し寄せた。高取藩は、現在の高取町役場の地「烏ヶ峰」に、家康が大坂城攻めで使つた大砲を引き出し迎え撃つた。200年の間、ただ磨かれ蔵の中でうすくまっていた大砲は、一門を除いて肝腎な時になつても、火を噴かなかつた。かろうじて打ち出された一発の轟音に肝を潰した天誅組は、算を乱して退却した。

南法華寺(通称・壺阪寺)

「寺は壺阪、笠置、法輪」と清少納言は「枕草子」につづつた。壺阪山南法華寺。西国観音霊場第六番札所。

岩をたて 水をたたえて 壺阪の庭のいさこも 浄土なるらん
大宝三年(703)井基上人によつて開かれた。眼病に靈験あらたかな観音霊場として、またシルクロードの香り豊かに湧く寺として信仰されている。

ラベンダー畑、細かい装飾が施された大石堂、インドの様々な仏さま。石段を上ると三重塔、禮堂、室町時代の建立。八角四堂(本堂)はお里沢市ゆかりの本尊十一面千手観世音菩薩を安置する。夫婦の仲が円満になるといふ沢市の杖に触れる。お里沢市の像、眼病に効くお茶をいただく。沢市投生の崖。

山腰に釈迦の生涯を描いた全長50mに及ぶ石造浮彫の大レリーフ。本堂向かいの香高山に御丈約20mの天竺渡来大観音石像がおわします。前に釈迦の涅槃石像が横たわる。これらはすべて寺のおこなっているインド教ライ事業やハンセン病救済活動等の福祉活動に対してインド政府から贈られた。

壺阪霊験記

「三つ違いの兄さんというて暮らしているうちに……」と、浄瑠璃「壺阪霊験記」は語りはじめる。

座頭の沢市は、美しい妻のお里と細々と暮らしていた。朝一番の鐘を聞くと、そつと抜け出していくお里。「外に男」と疑いを持つ沢市。桓武天皇の眼病も平癒したという、靈験あらたかな壺阪寺の十一面千手観世音菩薩に願を掛けていたお里は驚き、「せつない願ひにご利生のないのは、いかなるむくいぞや。観音さまも聞こえぬと。今も、いまとて恨んでいた、私の心も知らずして……」と、打ち明ける。お里の本心を聞いた沢市は、手を取り合つて観音さまへお参りする。3日間籠もるからとお里を返した沢市は、來世を祈り谷に身をおどらせる。知つたお里もあとを追つて谷に身を投げる。並んで倒れ伏した夫婦の前に「善哉々々、……」とやさしいお声で観音さまが現れる。日ごろ信心する観世音の利益によつて2人は生き返り、沢市の目も開く。2人は観音さまにお礼を申し上げる。お里・沢市が身を投じた谷は、本堂右手と伝え、土佐町の信楽寺に墓が残る。

〈山のレポート〉
山の地名を歩く⑤
「辞職峠」

西尾 寿一

南紀の小口川の奥に大倉畑山という知名度は低い立派な山がある。この山の北に地形図に記載はないが「ザレ山峠」がある。この峠の役割は、小口の深淵という現在では一軒のみ残る農家（農家）から和田川沿いの畝畑へ越える山越えルートを構成し、小口川沿いの村々から本宮へ、あるいは逆ルートとして機能していた。巡礼・巡視・行商などあらゆる分野の人々がこの峠を利用して来たことは、深淵に残る一軒家の周辺に石仏があり、今も献花されていることでも理解される。

ザレ山峠とは地方的な名である。歩いてみれば地形の形状をそのままにしたことがわかるほど厳しい道である。何ヶ所かずり落ちそうな急なガレ場を通過するのである。しかし問題は、この峠の別

称として「辞職峠」が使われていたという山岳書のあることだ。それは昔、畝畑の分校へ赴任する教員が、あまりの厳しさに峠で辞職を決定して帰ってしまったというのである。

今ではザレ山峠より辞職峠のほうが通りがよいらしいが、畝畑の分校だけでなく、隣家の分校も閉鎖されている時代に伝説だけが生き延びるようである。伝説・伝承といったものの役割が理解できる。

ところで、辞職峠の有名なものは東海の足助から福武へ通る伊勢神峠にもあって、柳田国男も『東国古通記』に残している。また、小生が聞いたところでは、天竜川沿いの日本一小さな村「富山村」に入る峠のいくつかも辞職峠と呼ばれ、かつて富山村の学校へ赴任する若い教員があまりの厳しさに耐えかねて峠で断念したからという話を聞いた。四国の与作街道や九州でも聞いたことがあるから、辞職峠の名は特定の地方ではなく全国に分布している可能性があり、固有名詞ではなく厳しさを表す形容詞の趣さえある。

もしそうだとすると、山間僻地の学校へ赴任する教員が辞職した時代があったことになる。辞職という言葉は新しい時代のもの、少なくとも江戸・明治期のものではない。おそらく戦後の新制度から一般化したのではないかと推察される。

新学校制度が始まり、全国の隅隅まで学校が出来て、都会で学んだ若い教員を全国へ派遣することになった。そのころの教員は一種の使命感に燃えていたし、彼らはその仕事を名譽なことと理解したはずだ。そのうえ、僻地へ赴任することは国家の繁栄につながる国民の義務だと感じていたはずである。医者や郵便配達夫も同様であった。一通の書状を届けるのに2日も3日も費す場合でも、彼等は忠実にその役割を果たしていた。

戦後新学校制になってから全国の山間僻地にどんな学校や分校がつくられ、大量の教員を必要としたから、教員資格もゆるみ代用教員などが登場した。小生などもそんな先生に教えられたが、人間的な面で立派な人が多かった記憶がある。学校で習うことよりも先生そのものの人間性が教材となる場合があることを、

現在の教育は忘れていようである。

さて辞職峠である。おそらく特定の地方で実際に辞表を出して帰ってしまった教員がいたのであろう。それが人ぞ知る辺境であったため、新聞にも取り上げられ、全国に知られることになった。

読者側も記事を読んで賛否両論に分かれたはずで、かなり論議を呼んだものと思われる。例えば若い新任教員を一人で山の分校へ通るのが可哀相だとか、教員夫婦を別々に赴任させる場合、世論の批判や人事の不手際を、その峠の厳しさ山村の不便さを表し出して、戦を辞するほどのものであったと表現したらしい。

辞職峠の名は、その土地の状況を表現したものではなく、すでに実在する地名に重複使用されるサブネームである。従ってザレ山峠が自然環境を表し、辞職峠が社会環境を物語っていると考えられる。それがこの峠の特異な性格なのであり、その名称を使うことで峠の厳しさだけでなく、山と人間とのかわり方がよくわかってくる。

辞職峠のもう一方の効用について考え

ておくべきことがある。それは山間僻地の人がさきも自慢するかのようには誇る場合である。かつて平家落人伝説を伝えた村人や木地師の出自を誇った山村民、あるいは貴種・流弊譚にみられるように、自からが山間僻地に生活することを一般民（この場合特に農民）よりも高位におく、逆転の発想からくるものである。

しかし、落人伝承は自らが中央に対して誇りを失わずに生きる手段として機能した自己主張の形式をもつのに対して、辞職峠のほうは受身である。当地から発信されたのではなく、他者が勝手につけた徒名にすぎない。その徒名は極度の表現なのだろうか、そのところの判断がこの地名の評価の分かれ目である。

奥山の寒村を敬遠する意味合いが強いものの、軽蔑する意味までは含んでいない。むしろ峠とその周辺の自然の豊かさをより一層強調しているようにも受けとれる。それにも増して当時の教員たちが厳しい労働を強いられるかを内外に宣伝した意味もあったかも知れない。

中国映画などで最近再評価されている郵便配達夫が、日本の辞職峠など問題にならないような山岳地帯の村へ、安全の

ため銃器を携帯してまで一枚のハガキを届ける事実、彼らがあまりの厳しさに耐えかねて配達を放棄したという話は聞かない。使命の認識は教養によって減じられていくものなのか、多少の疑問が残ってしまう。

さて現在では、かつて教員が辞職したほどの辺境僻地こそ希少な存在であり、だからこそ価値の高い土地であると思える。その名を現代に再登場させて村おこしの材料に使う策士がいてもおかしくない時である。

◀新ハイキング社▶
**読み、歩き、書いた
深田久弥の研究**
本書は深田クラブの会報に飯島喜・高澤光雄・高辻謙輔の三氏が、深田久弥について研究の成果を発表されたものである。その著作・山行・交友関係・生い立ちなどを調べられた。多彩な内容で、読みものとしても面白い。
A5判・389頁/定価1680円(税込)
発行所 **新ハイキング社**
〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13
電話/Fax 共用 03-3915-8110

〈山のレポート〉

〈山・詩・夢〉

比良山

紀平 龍雄

桂米朝の落語「矢橋船」はめずらしく琵琶湖が舞台になっている。それだけなのんびりと、ヨシの香りを含んだ柔らかな風がそよいできそうな朝。昔、東海道を旅するのに、草津から大津まで陸上を行くと三里と少し、しかし草津の湖畔矢橋から船に乗ると一里あまり。だから矢橋船という乗合船があった。船賃をめぐるお決まりのやりとりがマクラにあり、やっと船が出る。要約してしまうとせっかくのものが台なしになるので、少し長いが、最初の部分のみ引用する。

「ええ景色でんなあ」
「さあ、今日はな、風でこのとおり気持ちがいい」
「あすこに高い山が見えてますが、あら、なんちゅう山でんねん」
「あら飯山」
「ハッ、ハッ」

敗れたけれど、作者はまだ絶望しておらず孤独でもないらしい。あれ以来、まだ比良に登っていない。希望をもって日々を生きていく。憧れはいよいよの時まで残しておく。

詩の軽便鉄道とは、大津から近江今津まで走っていた江若鉄道のこと。のんびりと湖畔を走る二輛連結のガソリン車は「コンニャク鉄道」の異名をもらっていたらしい。異名をもらうのはそれだけ親しまれていたということだろう。1967年、廃線になった。

ここに歌われているように比良は春がいい。春の花々の中でもシャクナゲは北比良峠から金栗峠までの、いわゆるシャクナゲ尾根もいいが、金栗峠から堂洞岳までの道のほうがもっと咲き乱れている。「シャクナゲって、こんなに美しいのか」「さすが山の女王」とだれもが思う。しかし難しいのはその満開の時期。去年の同時期の咲き具合から判断して、というのには懐いて当たらない。私は盛装の女にまだ一度しかお目にかかっていない。しかし比良は夏がいい。比良は頂上付近を除いて樹木が多いから、直射日光に

「あら飯山のお山、延暦寺で有名な比良山や」
「ヒエー」(笑)

「・・しょうむないこと言いはんな」
「その橋手の山は？」
「そら比良の連峰や」
「ヒラなんだな」(笑)

「あのな、いちいち、そんなおかしなこと言わんように」
「こっちは？」
「こっちはあんた、有名な三上山でんがな。(三上山を七巻半も巻いたというムカデを唄、藤太が退治した武勇伝を紹介する)」

「七巻半。おっそろしい大きなムカデだんな」
「さあ、ちょっと聞くと大きいようだけれども、七巻半というのは八巻よりちょっと短いのや」
先の二回はすぐに返ってきた小さな笑い、今度のは耳にした「八巻」を「鉢巻」と解するのいやや時間がかかって、そして拍手を伴った大きな笑い。湖南に見える遊覧船の代表的な山が登場し、囁はいいよいよ琵琶湖の船旅へと展開してゆく。

苦しめられることが少なく、それにあちこちらに水があるのがいい。沢は涼気とともにせせらぐ音までも涼しさを運んでくれる。水音を聞きながら弁当を開くのはいい。ビールがあれば(冷えてなくとも)、言うことない。とりわけ八瀬の滝がいい。次々と変化あり、少々のスリルが汗を吸いとってくれる。

武奈ヶ岳西側の秋がいい。ここを上りに使うか下りに使うか。人それぞれだろうが、私は文句なしに上りに使う。広々と秋空が広がり、一面に紅葉したなかにポツポツと常緑の緑が散らばっている。頂上に人が立ち、手を振ると、それに応えてくれる。疲労が一挙に消え去るようで、しかし私は急がない。時には後ろを振り返り、一步一步惜しみながら頂上への道を進む。

とはいえ、比良は冬が最高だろう。最初の冬の比良はそれほどでもなかったが、二度目は言うことなく、声を呑んだ。「あのな、紀平さん、こんな比良山はめったにないんや。夜のうちに新雪が降って、それが今は止んで快晴。風がなくてそれほど寒くない。それにこんなに見晴らしがきくなんて日は年に何回もあるもん

その比良山である。ご承知のように比良というのはい帯の山系の名であり、比良山という単独の山はない。武奈ヶ岳を中心とした北比良と、蓮葉山を主とする南比良からなるが、私にとっての比良山は北比良である。

書棚の隅っこに小さな薄い文庫本が納まっている。ずっと昔、学生時代に買ったもので、井上靖の詩集「北国」(新潮文庫、昭和35年)。数度の引越にも処分されずについてきた。いくつか気に入った詩があり、「比良のシャクナゲ」もその一つ。これも散文詩であるが、次のように始まる。

(むかし「比良のシャクナゲ」の写真を見たことがある)その写真を見たとき、私はいつか自分が、人の世の生活の疲労と悲しみをリフレッシュいっばいに詰め、まなかひに立つ比良の稜線を仰ぎながら、湖畔の小さな軽便鉄道にゆられ、この美しい山嶺の一角に辿りつく日があるであらうことを、ひそかに心に期して疑はなかった。絶望と孤独の日、必ずや自分はこの山に登るであらうと。(後略)
1946年、敗戦直後の作品。戦いに

やない。よっぽど悲まれてるんや」、同行の先輩から教えられた。白い雪のせいか、空が真っ青で、樹氷が微笑むように光っていた。ああ、山はいいなとつくづく思った。もう10数年前のことである。この記憶が忘れられず、毎年何度か冬の比良山へ行くが、あの時以上の景色に出合えない。

このように比良山には四季おりおりの良さがあるが、多様なコースがあるのも魅力である。オーストリアにJR比良駅からバスに乗り、さらにリフトやロープウェイを使えばだれでも簡単にかなりな高さまで行ける。しかし私は青ガレを登り、ダケ道を下ることが多い。人が少なく静かな細川越も好ましい。坊村や、裏から比良へ入るのはなかなかきついですけれどももろい。

書いていて気が付いたのだが、武奈ヶ岳の語源はブナだろか。道理でブナや自然林が多く、木々の四季の移ろいが楽しい。振り返った時、稜線を歩いている時、頂上に立った時、下に大きな琵琶湖が広がっている。何よりも心やすらぐ景色である。

特選コースガイド 湖西

(重山シリーズ20 南マキノ)
 田屋城跡と昔集落探索
 笹ヶ峰・稲山
 一般コース(★)
 長宗 清司

JR湖西線マキノ駅から国道161号線を西進。やがて国道と平行する側道に出て、百瀬川大橋の下をくぐる。生米川沿いに歩いて次の十字路を左折、百瀬川(大井川)トンネルの手前を右折して、百瀬川左岸の道路に出る。

このまま成行きで川の上流に向かうと箱館第二リッチランドの別荘地に入る。さらに上流へ進むと、いよいよよ谷が迫り、百瀬川が大きく湾曲するあたりで道は途絶える。

笹ヶ峰へは、清水谷と百瀬川の間(町)の尾根を標高差150m急登すると、勾配ゆるやかなり、しっかりした尾根道となる。頂上付近の地形は、地上に

幾筋も土手がある不思議な台地である。おそらく長年の間に水の流れが彫刻したのだろう。複雑な地形なので、現在地蔵塔のために重要な三角点(380.3m)を見つける努力が必要であり、最右端の小高い所を自指すとい。

三角点からは、右の谷を臨みながら狭い尾根を北上する。時々木立の間から琵琶湖と湖岸の海洋が眺望できる。細い流れに出合おうが、これをつめてなお分水の尾根を越えると古道に出る(花地)。

この鞍部には、奥に向かって「ジャキメキの水2km、原山1km」の標木が立つ。今回はこの地点から道なりに下降する。やがて、林道に出る。標識が「湯の花、稲荷滝洞」へ左右に導く。左上部へ向かう。

林道終点で道は二分。右の尾根に入る。とすぐに「駒返し」「揚手」の標識があり、田屋城跡地に入ったことを知る。田屋城跡は、ワラビが生い茂る見晴しのよい小さな台地である。現在「城山」と称する森西集落の西に現存する城跡は、田屋氏の山城だったらしい。

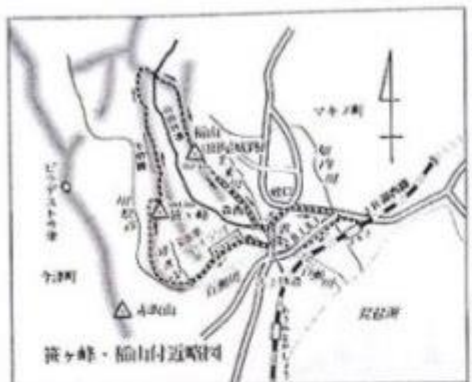
田屋氏が、湖北の武将浅井家と密接な婚姻関係にあったことはあまり知られて

いない。「浅井三代記」に出てくる田屋城主海津長門守政元が「亮政の婿」と記されているのから東山・竹生島で見ると、浅井新三郎(のち世々峰)に明政)と同一人物とみられている。

浅井三代のうち、初代の亮政には正室との間に男子がなかった(早死)ので、嫡女鶴千代に養子、のちに鶴千代に婿入りしたのが海津田屋氏の明政である。

浅井の家督は尼子氏との間に生まれた藤子の久政に譲った。久政の子が、のちに悲劇の武将といわれた浅井長政で、織田信長の妹お市の方を迎えたわけだから、田屋氏と浅井氏と織田氏は血縁で結ばれ、田屋と浅井は同盟関係にあった。

尾張の織田、湖北の浅井、湖西の田屋の各氏が結ばば、伊勢武・豊後・若狭



湖西の線で日本を軸えるという雄大な計画が見えてくる。

しかし、天正元年(1573)浅井長政が小谷落城で自刃し、盟友田屋氏も運命を共にしたらしい。だが、大塚神社(森西)の棟札には二年後、田屋一族12人の名前が出てくるのを見ると、田屋の分家は浅井家と運命を共にしたが、本家の方は生き残ったと考えられる。おそらく中立を保ったか、信長に降伏して命脈を

保ったのかどちらかであろう。

織田信長の死後、豊臣秀吉は柴田勝家との決戦(賈ヶ島の戦い)に備え、丹波長秀に命じて、森西・沢・知内共の三城を修復させたと伝えられているが、歴史上で最後に登場するのは田屋城に関するものである。柴田軍の南下は、越前今庄から木之本に抜ける北国街道が、敦賀から水之本、あるいは海津に抜ける北国海道が予想されたため、結局柴田軍の木之本方面への南下により、この三城の地は戦いの場とならずに、その後存在価値を失って放棄された。

このように歴史の表舞台へは出なかった田屋城跡だが、約10年程前、地元で歴史伝承のために「森西誌」の編集、古文書の整理、そして城跡が保存整備された結果、最近ではマキノ町を訪れる学校の野外活動のコースとして、眺めの良さや適当な高度と距離の「山城」の歴史散策に活用されていると聞いた。

この地の奥の「原山」には「蛇鬼女鬼の水」や「尾家殿の馬場」「あしげ馬の滝」など、意味あがりな地名が多く残っているし、石畳の道や田んぼ跡(30cm以上)があることをみると、百瀬川と石田

- ▲コースタイム▼
- JRマキノ駅(50分)箱館第二リッチランド(10分)清水谷(1時間)笹ヶ峰(30分)493M(30分)花地(15分)林道(10分)終点(30分)稲山山頂・田屋城跡(30分)登山口(25分)森西(45分)マキノ駅
 - ▲地形図▼2万5千1:1海津(隣り合わせ)
 - マキノ町役場産業振興課 ☎0740(27)1124
 - マキノ町観光協会 ☎0740(28)1188
 - 近江タクシー ☎0740(22)0106
 - 汽船タクシー ☎0740(22)2345

特選コースガイド④

紀北

キイシモツケの群生地
龍門山

一般コース(★)
慶佐次 盛一

龍門山は紀州富士とも呼ばれ、紀ノ川南岸にそびえる紀州の名山の一つである。この山は、和歌山県の天然記念物となっているキイシモツケの群生地としても有名な名である。

私はこの山に随分前に登ったことがあるが、キイシモツケの花をまだ見たことがなかった。花期は5月中旬から、6月中旬頃までと。6月1日頃がベターだろうと、仲間が予定を組んでくれたので、再訪することとなった。

JR和歌山線粉河駅で下車、駅前の車道を東へ進んで小川を渡り、信号のある交差点を右折して踏切を越える。粉河町役場を過ぎると国道24号線、もう正面

に龍門山の山並が見えてきた。前日、時期的には早い台風が上陸して、その余波で天候は思わしくなく、龍門山の上の方はすっぱりと白い雲のなかに隠れていた。水嵩が地した紀ノ川を渡ると、龍門山の大きな案内板があった。紀州富士と呼ばれるのは和歌山市側からの眺望で、ここから見る限り富士の形には見えない。また勝神山という別称もあるようだ。

細くなったゆるい坂道を、小さな道標に導かれながら登って行く。登るにつれ果樹園の中となり、桃の実に袋掛けにいそむ農家の人の姿も見られた。

ひと汗かくころ、車道コースと歩道コースの分岐に着き、右折して歩道コースを登る。相変わらず果樹園が続き、道端にはツルフジバカマの紫色の花が咲き、果樹の下には可憐なヒルガオの花が開いていた。

貯水槽でやっと舗装道は終わり細い山道となったが、すぐに車道コースに出てこれを横断、別荘地らしき敷地内を近道すると一本松に着く。ここは田代コースと中央コースの分岐点で、昔は雨乞いの場所だったそうで、一本の大きな松が枝

キイシモツケ満開の龍門山山頂



をのぼっていたようだが今はない。ここでとうとう小雨が降ってきた。これはどの雨ならばと、傘もささずに右の中央コースへと進む。広い地道の林道で、龍門山の北麓をぬいながら徐々に高度を上げていく。紀ノ川方面の眺望が開けている所もあったが、小雨に煙って残念だった。しかし、ウノハナやティカカズラ・スイカズラなどの白い花が目を楽しませ

てくれた。

やがて中央コースの登山口に着く。キイシモツケについての解説板があり、キイシモツケはバラ科の植物で、普通の植物が嫌う蛇紋岩帯の地質を好んで生えるらしい。

やっと山道となる。ここから山頂までの標高差約400mを一気に登るのだから、いきなりの急登である。小雨の中、樹木におおわれた薄暗い道が小刻みに折れながら続く。途中でひと息入れながら登り続けていると、明神岩への道標が現れた。

明神岩付近はキイシモツケ群生地の一つとか、神間の先導でコースから左に逸れて明神岩へ行く。明神岩はすぐで、白いキイシモツケの花が出迎えてくれる。



小さな花をいっぱいつけた枝が穂状に垂れ下がり、まるで乙女の花かんざしのようだ。かつて養蚕にも使われたという風穴がぽっかりと穴を開け、周りの山腹一帯はキイシモツケの花で埋め尽くされ、明神岩の下にはホオノキの花が霧のなかに浮かび上がっていた。

元のコースに戻り山頂へと向かう。いっしょか雨も止み、傾斜がゆるむと龍門山の主稜線に出る。勝神コースとの分岐でもあり、道標に従い左折して、草原を過ぎた先が龍門山の山頂である。

山頂もキイシモツケの花で見事なおおい尽くされていた。三角点からは紀ノ川が見下ろせ、長大な紀東山脈が見渡せた。まだ霧が濃く風も強かったので元の草原に戻り、ホトトギスの声を聞きながら食事とした。

山頂から緑の樹林のなかを田代峠へ向かっていると、磁石岩が現れる。磁石をもった岩で、磁石を近づけると針が狂ってしまう。一度試されるといいだろう。

磁石岩からも縁に包まれた道が続き、田代峠に着く。ここもキイシモツケの群生地、小憩にいい所だった。東の飯盛山へは細い道が続いていたが、道標にはやぶと表示されていた。道標に従い元の一本松へと左の田代コースをくだる。すぐに峠の地蔵さんが見送ってくれ、快適な道が続く。二番目の地蔵さんのあたりから道は荒れているが、慎重にくだり続けて一本松に着いた。

もうすっかり天気も回復し、中央構造線が大地に刻んだ、延々と続く紀東山脈や紀ノ川の壮大で美しい風景を楽しみながら粉河駅へと戻った。

- AコースタイムV
- JR粉河駅(35分) 車道コースと歩道コース分岐(30分) 一本松(15分) 中央コース登山口(35分) 明神岩(20分) 龍門山(10分) 磁石岩(20分) 田代峠(35分) 一本松(1時間) JR粉河駅
- △地形図V2万5千:粉河・龍門山(問い合わせ先)
- 粉河町観光協会

0736(73) 3311

南西風の岩場とアケボノツツジ

稲叢山と西門山

一般コース(★)

西尾 寿一

四国は山国である。名山だけでも200山はあろうか。

関西から四国の山を目指すにしても、徳島県東部や香川県なら大橋の開通で日帰りも可能だが、伊予・土佐ともなるとかなりの日数を要する。短日数では効率の面から不経済なので、ここは長期の山旅計画を立て、じっくりとそれらの山々をめぐってみたいものである。

そんな四国中央部に、比較的交通が便利で名山の条件を備えている稲叢山がある。

春のアケボノツツジは絶品。秋の紅葉もさらに充実し、登山道もしっかりしている。道標も要所にあつて迷うことはない。



満開のアケボノツツジ



い。山頂の展望は四国の中心部だけに、ほとんどの山が境界に入る。

安徳天皇伝説の残る横倉山を近くにもつこと、この山にも関連する伝承が残されている。

歴史・民俗のほかにもこの山の立派さは、登山道が整備された後もなお住古からの風格を失うことのない、大きさを感ずることだ。

アブローチは二通りある。高知からだと本山町・大川村を経て黒丸峯に至り、峡谷沿いの悪路を登りつめた所が稲村ダムである。ダムの手前の右に小さな道標があり、そこから10分でトンネル脇の登山口駐車場だ。もう一方は吉野川をつま上ると本川村に至る。道の駅「香ノ木場」は温泉もあつて都合がよい。大橋ダムを渡って「一の谷脇の山林道」に入る。入口にダム管理事務所があるので、道路状況を聞くことよい。急登につぐ急登の林道で展望が開け、石鏡連山が前に迫ってくる。登山口はトンネルを出た所で、黒丸からの道とここで出合うことになる。私は両方のルートを通つてみたが、実感としては後者が優れていると思う。特に吉野川左岸の道路沿いは、支流の滝と

稲叢山と山頂の祠



立派なトイレもあり、いかにも四国奥山の雰囲気の高さである。しかし、前者も細い一車線の道ながら峡谷美は一級品で、少し脇には高峰神社という焼畑農民がまつたとみられるめずらしい神社があつて捨て難い。

さて、登山口の駐車場から右斜めに登る道を行くと、5分で尾根の最低鞍部に着く。右(東方)は西門山、左(西方)が

てくるようだった。

登りを本川村からとすると、帰りは黒丸へくだつてみるのもよい。途中のアメガエリの滝あたりで峡谷美は最高潮となる。黒丸は他村と隔絶した寒村で、人が住んでいるのが不思議な気がする。どこへ出るのも大変で、それだけにアウトドア派にはうれしい。

黒丸から早明浦ダムを経て本山町へが順路で、途中の七尾から岩ツツジ山にも登路がある。

また、御峰峠を経て子作街道(国道439号線)へ出るには細い一車線の道をいつ果てるとも知れなくらい走ることになるが、途中の高峰神社にはぜひ立ち寄つてみたい。狛犬のかわりに鯉(鱈)があるのもめずらしい。

(平成15年5月歩く)

- ▲コースタイム▼
- 登山口(5分) 鞍部(15分) 鉄塔(40分)
- 稲叢山(30分) 登山口、登山口(往復1時間30分) 西門山
- ▲地形図▼2万5千:1日比例
- (問い合わせ先)
- 大川村役場 ☎0887(84) 2211

駅から直接登れる信州の山
葛尾山から五里ヶ峯

一般コース(★)
松尾 一郎

五里ヶ峯は長野県東信濃の坂城町と千曲市(旧更埭市・戸倉町・上山田町の二市二町が平成15年9月1日に合併発足)の境界尾根上にそびえる円頂丘の山で、奥の鏡台山とは馬の背と呼ばれるゆるやかな尾根で結ばれている。山名の由来は山麓から善光寺(長野市)までの距離がちょうど五里なので、北国街道を往く善光寺参りの旅人がこの山を眺めて、あと半日の行路と安堵したという。五里ヶ峯は信濃では鉄道の駅から直接登れる数少ない山である。

J・R京都駅新阪急ホテル前から夜行バス「アルペン」号長野行きに乗り、車中一泊した。三列独立リクライニングシ-

トは快適で、夜行バスも捨てたものではないと眠りについた。翌早朝長野駅前に降り立つも、昨夜来の雨は止み切っていなかった。J・R長野駅から軽井沢行きの第三セクターしなの鉄道の電車に乗る。篠ノ井あたりからは青空が顔を出し、駅を進むごとに雲が切れはっとする。

坂城駅で下車、改札口を出ると真北に五里ヶ峯が目に入る。駅を出て真北(左斜め方向)の市街地舗装道路を五里ヶ峯を望みながらまっすぐ進むと、坂城神社に突き当たる。前山の葛尾山へは神社の本殿を右奥に廻り、いったん舗装道路に出てすぐ右の道標に従い左の道に入る。飯綱山の岩稜を仰ぎ、しばらく進むと近道を右に分けるが、険路でマツタケの季節には入れない。道が飯綱山に突き当たるあたりで登山路は右に折れ、ジグザグの椎木の山道となり、ぐんぐん高度を稼ぐと葛尾(山)城跡と姫城跡の明るい肩状の尾根に出る。右の急坂の尾根を登り、台地に建つ東屋が見えると葛尾山頂(805m)だ。

葛尾山は戦国末期、東信の豪族村上義清が築いた山城で、史跡に指定されてお

葛尾山頂の東屋



り、東屋のほかに記念碑と数基の石灯籠が立っている。葛尾山からは円やかな五里ヶ峯が北方尾根伝いに望見でき、東南の坂城の街や千曲川の展望がよい。五里ヶ峯へは葛尾山頂北の左の小径をいったん鞍部までくだる。途中鎖やロープが張ってあるが大したことない。左からは戸倉機部地区からの登山道と合い、少し行くと鞍部で右から和乎キャンプ場

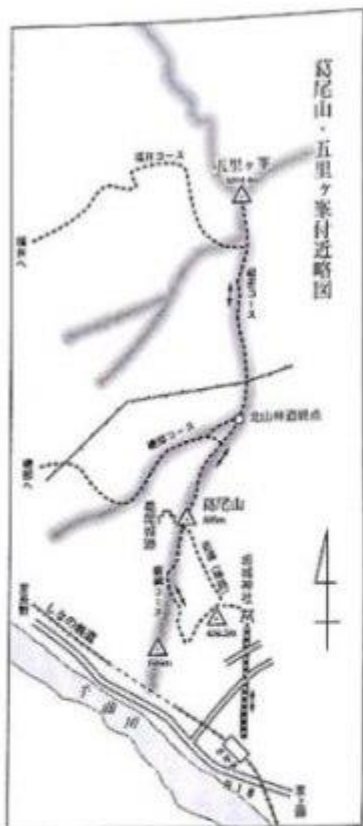
からの北山林道(終点・未舗装)が合流し、傍らに案内板が立っている。五里ヶ峯山頂まで65分の標識板があるがそんなにかからない。鞍部からはすぐ高圧鉄塔の下を通り、そのまま一本道の尾根を登る。

このあたりから、朝夜に草木に降り積もった雪が解け、朝日に照らされた水滴が雨のように降り注ぎ、やむなくスパッツを着ける。登るに従い落葉松の黄葉が映え、緑の植林が現われ勾配がゆるくなる。左側から戸倉福井地区からの登山道を合せると、ほとんどなく草地状の五里ヶ峯山頂(1094.4m)だ。

五里ヶ峯からは西方の戸倉方面の見晴

らしがよく、千曲川の対岸(左岸)には戸倉上山田温泉のホテル・旅館街がひしめきあっている。遠景は雲が立ち込め、見晴らしははかばかしくない。下山は元来た山道をそのまま坂城へくだる。山頂部はだだっ広いので、ガスがかかったときなどルートを外さないように注意したい。下山後、時間にゆとりがあれば、戦国武将村上義清の供養塔に寄ってみるのもよいだろう。坂城駅から5分程だ。

村上義清は戦国末期の北信濃の武将で、甲斐路から信濃に侵攻してきた武田晴信(信玄)に最後まで抵抗したが、天文二十二年(1553)4月ついに葛尾城は落



城した。義清は越後春日山に逃れ、越後守護代長尾景虎(後の上杉謙信)に助けを求めた。義に厚い景虎は義清を哀れんで救援を約束し、その後謙信は信玄と北信濃の川中島で五度にわたって干戈を交えることになった。世に名高い川中島の戦いである。もっともこの戦は謙信、信玄いずれにも利なく、あたら双方とも国力を消耗したのみであった。

(平成14年11月10日歩く)

AコースタイムV

しなの鉄道坂城駅(10分) 坂城神社(20分) 尾根取付(10分) 姫城跡・葛尾山尾根(30分) 葛尾山(10分) 北山林道鞍部(50分) 五里ヶ峯(30分) 北山林道鞍部(10分) 葛尾山(40分) 坂城神社(10分) 坂城駅

△地形図V2万5千1:坂城

●登山適季:4月~11月

●サブコース(千曲市役所への問い合わせただけで、小生は歩いていない)

機部コース:登り2時間15分、下り1時間30分

福井コース:登り2時間10分、下り1時間30分

石田川ダムから角川へ
湖北武奈ヶ嶽

中級コース(★★★)
金谷 昭

晩春、琵琶湖の北西に厚くまで雪を被った頂が二つ見られる。右の大きいピークは湖北(野原)山地の製主、三重ヶ嶽。その南に連なる左のピークが湖北武奈ヶ嶽である。

同名の比良武奈ヶ岳の名声に隠れて一般に知られていない。他の湖北の山々と同じく豪雪地帯で、冬季は山スキーヤーには歩かれていたが、無雪期は雪による根曲がりの激やぶのため、愛好家を除けば寄りつき難い山だった。最近、地元関係者による登山コース整備に伴い歩きやすくなり、身近な山となりつつある。なお湖北武奈ヶ嶽も、自生するフナ林が山名の由来となっている。

国道303号線の保坂トンネル手前、角川口より角川集落を過ぎて石田川ダムに行く。ダム上部の広場には駐車場・ベンチ・トイレがあり、よい登山基地となっている。広場から奥に林道を300m程行くと、左山側にブッシュに隠れて少しわかりにくいのが、遊覧製森林公社の古い看板があり、杉林のなかを古い作業道の踏み跡が発っている。ここが湖北武奈ヶ嶽への登山口である。

少し登ると踏み跡がはっきりしてくる。山腹をジグザグに折り返して行くと、赤岩岳(740.3m)から東北にのびる尾根に取り付き、西南方向に赤岩岳目指して登るようになる。この尾根を登っていくと、やがて尾根の西北側の山腹を歩きながら徐々に下っていくが、小さな谷の手前まで登りに転じ、再び尾根稜線の上のてくる。尾根は伐採後の植林地で見通しがきき、湖北武奈ヶ嶽の頂上が見える。赤岩岳近くになると踏み跡ははっきりしなくなるが、上部を日指して登ればよく、やがて赤岩岳に達する。杉疎林の台地で頂上らしくなく、展望もきかないが、湖北武奈ヶ嶽にはない三角点(3等)が設置されている。

赤岩岳からは西北方向に、比良湖北武奈ヶ嶽の東南尾根を歩く。以前は激やぶであったが、平成12年にルート整備され、歩きやすくなっている。



湖北武奈ヶ嶽山頂前の小広場より琵琶湖・比良

いったんくだったて登り返すとゆるやかな雑木の二次林となる。残念ながら山名由来のフナは見かけはするが、まだ若木しか見当たらない。20年程前に原生林が伐採されたのである。

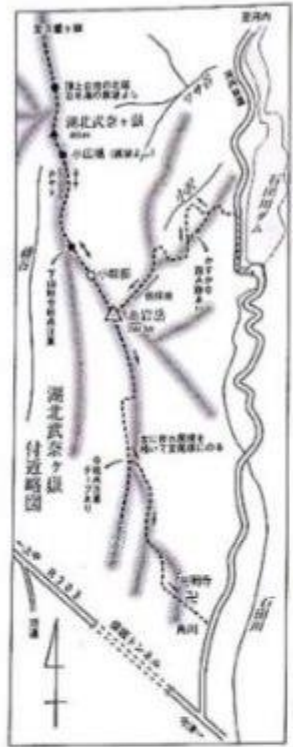
又タ場があったりするが、やがて雑木林を抜けると尾根右側にカヤトが出てくる。展望が広がり、前方すぐに山頂が望めるようになる。ここを登り切ると小広場が出てくる。三角点が設置されていないので、どこが山頂なのか明確でない。地形図では、小広場より切り開き直後の道を200m程行った、西尾根が分岐する所が頂上となっている。

る所が頂上となっている。

山頂を示す物はなく、周囲は背の高い木に囲まれて展望はきかないので、もう少し先に行き、頂上台地の北端に達すると、北側に三重ヶ嶽や日本海方面の展望が広がる。なお、道は粗削りであるが三重ヶ嶽に向かって刈り込まれている。今津町役場によれば、失業対策事業の一端として、三重ヶ嶽へのルートも順次整備するとのこと。将来が楽しみである。

小広場に戻ってのカヤトの原での休憩は、東北から南西にかけて琵琶湖を中心とする大展望を前に、至福のひとつが得られるであろう。

下山は赤岩岳に戻り、角川集落の光明寺へおびている南尾根をくだるのである



が、下り始めはやぶでルートがわかりにくい。尾根稜線を外さないように行くと小さな鞍部が出てきて古い山道となり、歩きやすくなる。このあたりからはブナを混じえた好ましい雑木林となっている。標高点457m付近を過ぎると尾根分岐である。ここで左に折れ、谷に降りていくようになる。直進路のほうが明確なのでついそのまま行きそうになるが、テープに注意したい。谷に向かっていた道はすぐ山腹を抱いて、小さな尾根の上のていく。やがて奥谷近くになって谷に降りると、光明寺の裏に飛び出す。

なお、この逆コースは赤岩岳まではわかりやすいが、赤岩岳からダムへの下り

がわかりにくい。(平成13年11月23日例会山行で)

- ▲コースタイムV
- 石田ダム(1時間30分) 赤岩岳(1時間)
- 湖北武奈ヶ嶽(45分) 赤岩岳(1時間)
- 尾根分岐(30分) 角川光明寺
- ▲地形図V 2万5千:熊川
- ▲交通V
- JRバス・近江今津駅発小浜行きにて角川口下車
- (問い合わせ先)
- 今津町役場産業振興課
- ☎0740(22) 2551
- JRバス近江今津営業所
- ☎0740(22) 2136
- ★新コース「武神嶽(湖北武奈ヶ嶽)南麓」
- 本会々員でもある京都趣味登山会・長宗清司氏を中心とする関係者の長年の御努力により、南麓(南西尾根)に送電線遮断路・植道・懸道を一部利用して昨年の秋に開設された。この新コースは樹林・草原・池そして展望く、変化のあるよいコースである(本誌74号ページに掲載)。

小野小町ゆかりの里の峰

湯谷ヶ岳

一般コース(★)

柴田 昭彦



うにしまし。草のよく生えた道は下で右に折れて、土橋を渡ると舗装道に出る。左をとり、右にビニールハウスを見て、すぐに右折する。80m先で左折して、コンクリート舗装の道をたどる。小川を越えると草の茂る道となるが、すぐ舗装道に出られる。左へ50m進むと、左側に「大田下所」の似たり石の上」の表示があり、踏み跡をよじのぼると隠石が見つかると「似たり」とは「よく似た」という意味である。

似たり石の入口から舗装道を少しくだと、右手に「切畑大田下所多尊勝座仏」がある。ここはもと長安寺の跡といわれている。自然石(右奥段)の西面に三段に刻まれた座像が半肉彫りされている。天正二年(1574)の銘文があり、桃山時代のものでわかる。当時の領主にはキリシタン信仰が広まっていたが、阿弥陀信仰に熱心な人々も多かったことを示している。

多尊勝座仏から舗装道を100mほど戻ると、左側に「切畑大田下所地蔵分仏」がある。この地蔵は南北朝時代のものである。付近から掘り出されたものだという(清水俊明「天板の石仏」創元社、昭和53年)。

多尊勝座仏の西方240mに「切畑大田下所阿弥陀勝座仏」がある。多尊勝座仏から舗装道を50mほど戻った所(工場の入口)に遺構があるが、工場の奥は立入禁止なので、舗装道を北に向かい、バス道に出て左折して200m西へくぐり、左手の「この先行止り」の看板のあるコンクリート道を上がる。さらには上がると砂利道から平坦な地道に変わる。左から

湯谷ヶ岳は地味な里山であるが、山頂には岩が点在し、静かな歩きが楽しめる。また、豊能町には史跡・文化財が多く、七つの史跡めぐりコースが整備されている。『豊能町観光イラストマップ』(豊能町観光協会)に紹介されている。

今回、湯谷ヶ岳に登る途中で、余野・切畑コースの石仏めぐりを組み込んで案内することにした。

湯谷ヶ岳に登る場合、バス利用で三つのアプローチがとれる。阪急池田駅から牧行き阪急バス利用で余野下車の方法、阪急・JR茨木駅から忍頂寺行き阪急バスで終点で乗り継ぎ、余野行きで湯谷口または大田下車の方法、JR花園駅から

本旅行き京都交通バスで甘露寺前下車の方法(便は少ない)である。大阪方面からは1時間に1便ずつある牧行きおよび忍頂寺行き利用が便利であろう。

阪急池田駅で下車し、阪急バス西のりばの案内に従ってのりばに向かう。午前10時10分発の牧行きに乗れば、10時46分に余野バス停に着く。平日ならば、余野バス停から忍頂寺行きのバスが出る時刻(11時11分)まで、すぐそばの町役場で、施設案内地図や「豊能町の石の文化財」(教育委員会発行、平成8年)などを入手しておくとう便利だろう。

忍頂寺行きのバスに乗り、藤ノ宮バス停で降り、大田藤ノ森神社跡に向かう。南西に向かう舗装道に入ると、トタン屋根が見えたら、右手の地道に入り、次の分岐で右をとる。小さな峠(右手に洗石石標がある)を抜けて、次の辻から上がると神社跡地に着く。

ここは、9世紀末に藤原氏が創建したと伝わる式内志落神社の旧社地で、江戸時代には「藤の宮」と称し、明治時代に村社「藤森神社」と呼ぶようになった。明治40年に村内十社を合併して一社とすることにになり、木代の志落神社に合祀さ

湯谷ヶ岳山頂



れた(豊能町土史研究会「豊能のくらし」と「神社と寺院」平成5年)。

元藤森神社跡地の正面には、鳥居と石段が残り、跡地には祠と石碑が立っている。荘厳な雰囲気があったよう。鳥居の下の道をそのまま奥へ進むと右手に小屋が見れる。ここで右折して、小屋を左に見ながらゆるやかにくだる(右折してすぐ右側にもまっすぐな下り道があるが入らないよ

の道と合流する所で、右手の草むらに「阿弥陀磨崖仏」の矢印表示がある。

表示からさらに進むと50分先で地道は右に曲がるが、磨崖仏があるのは、この道が曲がる地点の先端の崖下であるために、非常に見つけにくい。左には猪小屋があって、ガサゴソと音がする。その5分先の崖下2分に磨崖仏がある。道端に草におおわれた降り口があるが、利用できそうにない。右に折れる道をくんだり、焼き場のそばから巨岩の多い竹林のなかへ入り、上の道の崖下をよく見ると、坐高25%の磨崖仏が発見できよう。南北朝頃のものと見られている。案内板が右横にある。

「この先行止り」の地点へ引き返し、バス道を200分東へ戻ると、南側に道標があり、北側にはコンクリート舗装の坂道が見える。入口の目川三位の墓を示す案内板がある。坂を上がると、道はやぶに消えるが、右側に赤土むきだし急坂があり、それをよじのぼる。木のオプジェがあり、尾根を上がると、道はやぶのなかに向かうが、左の草むらのなかをよく見ると、石塔が立っている。これが「切畑大円目川三位の墓」である。

12世紀の初め、藤原長業、通称目川三位長業という人物が一族郎党36人を率いて木代に来住し、大円を拠点として木代・切畑を開いたという。長業は鎌足の子孫で、検非違使や佐渡守に任せられ、この地で葬られたという。目川三位の墓と伝えられるこの一石笠塔婆は高さ40寸で、室町時代の造立という。

墓から下の斜面をくだると案内板があり、左へやが道をたどり、薄暗い所をくぐって行くと、入口のコンクリート舗装の急坂の上部に出ることが出来る。やぶの鎌な人は墓から元の道を引き返すといだらう。

車道に戻り、東へ200分ほどで、左に、「大円釈迦堂」への道標があるが、この道には入らないでそのまま東進し、次の左側の舗装道に入るとよい。北へ200分歩くと、左手に釈迦堂が見える。お堂の右側に、「阿弥陀三尊笠塔婆」と、室町中期の「笠印石塔」が並んで立っている。笠塔婆は豊能町最古の石造文化財で貴重なものである。

元の道を南へ戻り、車道を左折する。大円バス停のそばには、よく手入れされ

た大円観音堂がある。お堂前から広い車道を南へ30分ほど行くと、東側(左)のブロック壁の手前に、「切畑大円小松阿弥陀三尊石仏」という道標があるが、草に隠れて見えにくいかもしれない。草むらのなかの小道を上がり、ブロック壁の真上のあたりを、鎖で体を支えながら注意深く登ると、自然石に彫り込まれた南北朝の三尊石仏が現れる。近所の人は座像の特徴から「小松の横向き地蔵」と呼んでいる。重顔の面相が印象的でかわいらしい。民家の裏山にあたり、昔は、石仏に沿って道があったが、バス道が出来て遊道となり、石仏だけが取り残されたのだという(大坂の石仏)。

車道を200分ほど戻り、「磨崖仏・赤子石」という道標に従って右折、300分先で左折、100分先で右折してすぐ左折する。ほどなく左に溜池があるので、南側の堤をたどる。ササのなかの道を上がると道標があり、東へ15分進むと左手に表面が黄緑色で平らな「赤子石」が見つかる。また、道標から西へ30分先で南に10分ほどくぐると、自然石に刻んだ小さな「大円屋上の磨崖仏」が見つかる。元の道に戻り、北へ向かう。途中、車

止めのある舗装道は中継所への道なので見送り、峠を越えてすぐの分岐では左をとる。次の辻が切畑と湯谷を結ぶ道の峠である。そのまま舗装道を上がり、分岐をすべて左にとって北摂ロースタウンの最高所に着く。北東端の角に赤土の踏み跡があって、尾根道をたどる。最初の小さなピークは、大堂キャンプ場からの道が北から合流する所が目印すらない。



切畑大円小松阿弥陀三尊石仏

次のピークは大岩があり、さらに次のピークには鶴野権現の祠と明治二年の石灯籠がある。次の大岩の故在する地点に分岐がある。左をとれば反射板が出る。南側の樹林のなかが三角点のある湯谷ヶ岳(622.4m)頂上である。湯谷は麓の地名で小野小町が湯治した言い伝えが残る(京都山友会編「京都ふるさと登山90選」京楽新聞社、1993年)。

先の分岐に戻ってもよいが、そのまま三角点から南にくれば、分岐からの道と合流する。急坂をくだる。途中で道は東に折れて福泉寺に出る。途中、右に玉依神社に出る目印テープがあるが、急坂なので見送って福泉寺に出るとよい。東に折れる地点で、そのまま南へくぐるともできる。途中で大岩の間をくぐる。下で右折すると、舗装道に出られる。

福泉寺の横からくぐり、右折し、下で右の道を上がる。付近には岩が点在していておもしろい光景を見せている。北摂ロースタウンを横断して、先に通過した峠を横切って、樹林のなかをくだる。道なりにたどると、地道からコンクリート道になり、切畑集落に出ると、そこは湯谷口バス停である。時刻が合えば、ここ

からバスに乗り、余野または忍頂寺経由で帰る。便がない時は余野バス停まで歩く。

「豊能町観光イラストマップ」には、湯谷口バス停の東に「切畑中の西谷船の天狗岩」が掲載されているが、現地には案内がないので、不思議に思い、地元の人に尋ねてみた。バス停のすぐ東、北側の最初の家は豆腐屋さんだが、その裏手にある大きな岩を指すということであった。豊能町教委の小嶋さんによると、豆腐屋さんの西側の道路石垣の上にあるものを天狗岩といい、高さ2分ほどの自然石で、以前、道から天狗の鼻のように見えていたが、道路拡張工事で石垣が積まれた際に、伏魔が変わったらしく、樹木の繁茂でその実態はつかめなくなっているとのことだった。

(平成15年5月3日・6月2日歩く)

- △コースタイム▽
- 藤ノ宮バス停(50分)・大円(40分)・北摂ロースタウンの峠(30分)・湯谷ヶ岳(30分)・福泉寺(30分)・峠(45分)・湯谷口バス停
- △地形図▽
- 3万5千1:高槻・法良・妙見山・広根

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽駅長お薦めフリーハイキング
 「日本の道100選・暗峠をこえて」
 5月5日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 枚岡駅前9時30分
 (コース) 枚岡駅→枚岡神社→芭蕉句碑→豊浦橋→笠塔婆(笠塔婆の水)→暗峠→石仏寺→応願寺→市生野駅(約7.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 飛鳥山駅0729(81)2144
 ▽てくてくてまっふフリーハイキング
 「富原の里(二上山・万葉の巻コース)」
 5月6日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 二上山駅前10時
 (コース) 二上山駅→専修寺→兼光寺→富原寺→当麻寺(約6.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 近鉄大板イベント係06(6775)35666
 ▽てくてくてまっふフリーハイキング
 「元山・元山」
 5月7日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 元山山口駅前10時
 (コース) 元山山口駅→千光寺→鳴川峠→枚岡神社→枚岡駅(約10.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 近鉄大板イベント係06(6775)35666

大板イベント係06(6775)35666

▽駅長お薦めフリーハイキング
 「日本の道100選・大和三山」
 5月8日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 大和八木駅前9時30分
 (コース) 大和八木駅→耳成山→耳成山→香具山→本願寺跡→歌勢山→熊野神社前駅(約15.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 大和八木駅0744(22)2305
 ▽近鉄万歩ハイキング「飛鳥・万葉のロマンをめぐる歌碑コース」
 5月15日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 飛鳥駅前9時30分
 (コース) 飛鳥駅→飛鳥寺→大宮万葉記念館→奈良国立万葉文化館→明日香民俗資料館→飛鳥寺→飛鳥坐神社→甘藷丘→國府神宮前駅(約8.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 近鉄大板イベント係06(6775)35666
 ▽奈良交通フリーハイキング「清浄坊の滝と屏風岩コース」
 5月15日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 室生口大野駅前9時
 (コース) 室生口大野駅(バス)→室生川橋バス停→清浄坊の滝→屏風岩→曾爾長野バス停(バス)→橋原駅(約8.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 近鉄大板イベント係06(6775)35666

京阪

▽駅長お薦めフリーハイキング
 「初夏の養生湯野をゆく」
 6月27日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 室生口大野駅前9時30分
 (コース) 室生口大野駅→海神社→大野寺→鹿原(有馬邸)→高尾橋→土俵の森公園→弘法の清浄水→佛殿神社→橋原駅(約10.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 橋原駅0744(82)0021
 ▽近鉄万歩ハイキング「四寸若山」
 5月19日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 西青山駅前8時50分
 (コース) 西青山駅→東海自然歩道→三ノ角点→丸山草原→西青山駅(約14.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(伊賀神戸駅0595(38)1304
 ▽近鉄万歩ハイキング「四寸若山」

京阪

▽奈良交通フリーハイキング「電王山展望コース」
 5月22日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 吉野駅前9時30分
 (コース) 吉野駅(バス)→九十一→四寸岩山→吉野峠→金峯神社→水分子神社→竹林院→金峯山寺蔵王堂→吉野駅(約14.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(バス代) 拝観料は別途) 近鉄大板イベント係06(6775)35666
 ▽奈良交通フリーハイキング「電王山展望コース」
 5月22日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 近鉄大板駅前9時30分
 (コース) 近鉄大板駅(バス)→天理ダムバス停→電王山→電王山古墳群→長尾寺→石上神宮→近鉄大板駅(約16.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(奈良交通奈良営業所0743(58)30300
 ▽駅長お薦めフリーハイキング
 「新薬師の史跡を巡る」
 5月29日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 近鉄京都駅前8時45分
 (コース) 近鉄京都駅→本光寺前→西本願寺→東本願寺→浄土堂→文天演習場→長持院→本願寺→浄土堂の地蔵→石上蓮華院跡→水の堰止めの石→泉山先生遺蹟碑→桂小五郎・豊後守屋跡→舟入→桂小五郎像(京都ホテル

京阪

▽奈良交通フリーハイキング
 「初夏の高安山ハイキング」
 6月6日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 信貴線・服部川駅前9時30分
 (コース) 服部川駅→歴史民俗資料館→心合寺→山古墳→磯家古墳→都夫久美神社→玉祖神社→本寺地蔵→高安山レジャー→高安山駅(約10.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 近鉄八尾駅0729(22)37533
 ▽てくてくてまっふフリーハイキング
 「山の辺の道コース」
 6月11日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 桜井駅前10時
 (コース) 桜井駅→大徳寺→長尾寺→夜部夜神社→石上神宮→天理駅(約16.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 近鉄大板イベント係06(6775)35666
 ▽てくてくてまっふフリーハイキ

京阪

▽奈良交通フリーハイキング
 「初夏の高安山ハイキング」
 6月6日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 信貴線・服部川駅前9時30分
 (コース) 服部川駅→歴史民俗資料館→心合寺→山古墳→磯家古墳→都夫久美神社→玉祖神社→本寺地蔵→高安山レジャー→高安山駅(約10.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 近鉄大板イベント係06(6775)35666
 ▽近鉄万歩ハイキング「吉野福天大神から吉野山へ」
 6月28日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 吉野駅→六田駅前10時
 (コース) 六田駅→藤の成し跡→吉野福天大神→吉野朝宮跡→金峯山寺蔵王堂→竹林院→如意輪寺→吉野駅(約14.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 近鉄大板イベント係06(6775)35666
 ▽奈良交通フリーハイキング
 「初夏の養生湯野をゆく」
 6月27日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 室生口大野駅前9時30分
 (コース) 室生口大野駅→海神社→大野寺→鹿原(有馬邸)→高尾橋→土俵の森公園→弘法の清浄水→佛殿神社→橋原駅(約10.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 橋原駅0744(82)0021

京阪

▽奈良交通フリーハイキング
 「初夏の高安山ハイキング」
 6月6日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 信貴線・服部川駅前9時30分
 (コース) 服部川駅→歴史民俗資料館→心合寺→山古墳→磯家古墳→都夫久美神社→玉祖神社→本寺地蔵→高安山レジャー→高安山駅(約10.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 近鉄大板イベント係06(6775)35666
 ▽近鉄万歩ハイキング「吉野福天大神から吉野山へ」
 6月28日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 吉野駅→六田駅前10時
 (コース) 六田駅→藤の成し跡→吉野福天大神→吉野朝宮跡→金峯山寺蔵王堂→竹林院→如意輪寺→吉野駅(約14.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 近鉄大板イベント係06(6775)35666
 ▽奈良交通フリーハイキング
 「初夏の養生湯野をゆく」
 6月27日(雨)雨天決行(荒天中止)
 (集合) 室生口大野駅前9時30分
 (コース) 室生口大野駅→海神社→大野寺→鹿原(有馬邸)→高尾橋→土俵の森公園→弘法の清浄水→佛殿神社→橋原駅(約10.5km) 係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途) 橋原駅0744(82)0021

合宿・牛コバー・松本地蔵・村井
(ハ) 出町船(約9・健脚向)
参加定員200名(申込額1ヶ月
前より) 無料(バス代は別途)
京都バス運輸部電話075(8
71)7521・7522
▽三角点トレック「鎌倉山」 6
月5日(日)・12日(日)雨天中止(集
合) 出町船駅コンコース8時5
時30分(コース) 出町船(バス
高川学校前・伊賀谷林道終点・中
村乗越・オグロ坂峠・鎌倉山・切
村(バス) 出町船(約9・健脚
向) 参加定員200名(申込額1
ヶ月前より) 無料(バス代は別途)
京都バス運輸部電話075(8
71)7521・7522

【観山電車】

▽観山ハイイク「静原・観音山」
5月19日(日)・22日(日)雨天中止(集
合) 鞍馬駅9時30分・10時(コ
ース) 鞍馬駅・薬子坂・静原神社・
江文峠・寒谷峠・観音山・八幡
前(約11・健脚向) 参加自由・
無料 観山電鉄交通部075(7
81)5121

【江若交通】

▽「ニコ」ジャックMハイキング「新

緑の再生フナ原生林散策コース」
5月13日(日)・5月27日(日)・6月10
日(日)雨天中止(集合) JR安曇川
駅9時05分(コース) 安曇川駅
(バス) 朽木市場経由・生杉・三
国峠・杉尾峠・生杉(バス) JR
安曇川駅(約13・健脚向) 電話申
込(1ヶ月前から) 参加費40
00円(バス代含む)(申込先)
江若交通本社077(573)2
701

▽「ニコ」ジャックMハイキング「雲
洞谷山コース」 6月24日(日)雨天
中止(集合) JR安曇川駅9時05
分(コース) 安曇川駅(バス) 桑
ノ橋・鷹ヶ峰・大窪峠・雲洞谷山
一明渡坂・朽木学校前(バス) 安
曇川駅(約11・中級向) 参加費3
000円(バス代含む) 電話申込
制(1ヶ月前から)(申込先) 江
若交通本社077(573)27
01

▽山陽電車
▽山陽ハイキング「明石海浜公園・
イベントを楽しむハイイク」 5月
9日(日)雨天中止(集合) 江井ヶ島
駅下車(江井ヶ島海岸)10時(コ
ース) 江井ヶ島海岸・豆蔵港・東一
見橋・明石海浜公園・アサヒ飲料

78(521)0321
▽火曜ハイイク「六甲麓走部分ハイ
イク」 6月1日(日)雨天中止(集
合) 谷上駅9時30分(コース) 谷
上駅・山田道・森林植物園・ス
ヶ谷・トエテック・市ヶ原
・鍋釜山・菊水山・丸山(約16
・健脚向) 参加自由・無料 神鉄
グループ総合案内所078(59
2)4611
▽木曜ハイイク「ホテル見ウァーク」
6月3日(日)雨天中止(集合) 田尾
寺駅16時(コース) 田尾寺駅・有
馬川(解散) 一岡野駅・懐中電灯
必携(約8・家族向) 参加自由・
無料 神鉄グループ総合案内所
078(592)4611
▽観山ハイイク「旗ヶ谷・西度公園
ハイイク」 6月6日(日)雨天中止
(集合) 谷上駅10時(コース) 谷
上駅・旗ヶ谷・石種花山・西度公
園・牛の背・鈴鹿台駅(約12・一
般向) 参加自由・無料 神鉄グル
ープ総合案内所078(592)4
611
▽企画ハイイク「地獄谷・地獄谷西
屋敷ハイイク」 6月12日(日)雨天中
止(集合) 大窪駅下車・地獄谷入
口10時(コース) 地獄谷入口・地
獄谷・ダイヤモンドポイント・地

イベント会場・東町駅(約10・
家族向) 参加自由・無料 須磨浦
遊園ハイキング係078(73
1)2520
▽山陽ハイキング「淡路島公園ハ
イク」 5月23日(日)雨天中止(中
止の場合5月30日(日)) (集合) 明
石駅下車(須磨0・5・明淡高速
船明石港) 岩屋港・ポートビ
ル(約10時) (コース) 岩屋港・ポ
ルトビル・茶川・淡路島公園
コース・開成寺・淡路島展望
台・岩屋港(約10・家族向) 参加
自由・無料 須磨浦遊園ハイキ
ング係078(731)2520
▽山陽ハイキング「観音山・梅林・
梅さざりを楽しむハイイク」 6月
13日(日)雨天中止(集合) 朝十駅下
車(接尾山) 観音寺10時(コ
ース) 接尾山・観音寺・内蔵
寺・世界の梅公園・観音山・梅林・
関門寺・朝十駅(約14・一般向)
参加自由・無料 須磨浦遊園ハイ
キング係078(731)25
20

▽山陽ハイキング「鳥飼貯水池か
ら山陽リボンの道ハイイク」 6月
27日(日)雨天中止(集合) 西代駅下
車(山陽電車西代本社前) 10時
(コース) 本社前・高取山・長

若野・丸山・鶴起・鳥飼貯水池・
山陽リボンの道・高速神戸駅(約
12・一般向) 参加自由・無料 須
磨浦遊園ハイキング係078
(731)2520

【神戸電鉄】

▽火曜ハイイク「地獄谷・徳川道ハ
イク」 5月4日(日)雨天中止(集
合) 大窪駅下車・地獄谷入口9時
30分(コース) 地獄谷入口・地獄
谷・徳川道・徳川道・トエテック
・クロス・市ヶ原・大窪道・諏訪山
神社・地下鉄桑原駅(約17・健
脚向) 参加自由・無料 神鉄グル
ープ総合案内所078(592)4
611
▽企画ハイイク「旗ヶ谷・六甲山牧
場ハイイク」 5月8日(日)雨天中止
(集合) 谷上駅10時(コース) 谷
上駅・旗ヶ谷・シェールロード・六甲
山牧場・シェラインロード・有馬
山(約15・健脚向) 参加自由・
無料 神鉄グループ総合案内所
078(592)4611
▽木曜ハイイク「つくはら湖サイク
リングロードウォーク」 5月13
日(日)雨天中止(集合) 栄駅10時
(コース) 栄駅・つくはら湖(サ
イクリングロード) 一畑木千年家

1
▽花の多所めぐりハイイク「森林植
物園あじさいハイイク」 6月26日
(日)雨天中止(集合) 谷上駅10時
(コース) 谷上駅・山田道・森林
植物園・再度公園・北鈴鹿台駅
(約10・一般向) 参加自由・無料
神鉄グループ総合案内所078
(592)4611
▽神鉄ハイキング「再度公園と森

一六甲八幡宮一みのたにグリーン
スポーツホテル(其合) (約14・
一般向) 参加自由・無料 神鉄グ
ループ総合案内所078(592)
4611
▽観山ハイイク「東西虎見山ハイイク」
5月15日(日)雨天中止(集合) 大池
駅10時(コース) 大池駅・天下止
・東麓見山・西麓見山・神戸青年
会公園・志久峠・愛宕神社・其合
駅(約14・健脚向) 参加自由・無
料 神鉄グループ総合案内所07
8(592)4611
▽火曜ハイイク「東お多福山・甲山
森林公園ハイイク」 5月18日(日)雨
天中止(集合) 有馬温泉駅下車・
魚飼道登山口9時30分(コース)
登山口・魚飼道・一軒茶屋・七曲
り・東お多福山・築地・甲山森林
公園・飯島山(約18・健脚向)
参加自由・無料 神鉄グル
ープ総合案内所078(592)4
611
▽神鉄ハイキング「旗ヶ谷と摩耶
山ハイイク」 5月23日(日)雨天中止
(集合) 谷上駅9時20分(コ
ース) 谷上駅・旗ヶ谷・まむし谷・
シェール道・徳川道・摩耶ロープ
ウェイ山頂(約8・一般向) 参
加自由・無料 神鉄観光事業部0

78(521)0321
▽火曜ハイイク「六甲麓走部分ハイ
イク」 6月1日(日)雨天中止(集
合) 谷上駅9時30分(コース) 谷
上駅・山田道・森林植物園・ス
ヶ谷・トエテック・市ヶ原
・鍋釜山・菊水山・丸山(約16
・健脚向) 参加自由・無料 神鉄
グループ総合案内所078(59
2)4611
▽木曜ハイイク「ホテル見ウァーク」
6月3日(日)雨天中止(集合) 田尾
寺駅16時(コース) 田尾寺駅・有
馬川(解散) 一岡野駅・懐中電灯
必携(約8・家族向) 参加自由・
無料 神鉄グループ総合案内所
078(592)4611
▽観山ハイイク「旗ヶ谷・西度公園
ハイイク」 6月6日(日)雨天中止
(集合) 谷上駅10時(コース) 谷
上駅・旗ヶ谷・石種花山・西度公
園・牛の背・鈴鹿台駅(約12・一
般向) 参加自由・無料 神鉄グル
ープ総合案内所078(592)4
611
▽企画ハイイク「地獄谷・地獄谷西
屋敷ハイイク」 6月12日(日)雨天中
止(集合) 大窪駅下車・地獄谷入
口10時(コース) 地獄谷入口・地
獄谷・ダイヤモンドポイント・地

78(521)0321
▽火曜ハイイク「六甲麓走部分ハイ
イク」 6月1日(日)雨天中止(集
合) 谷上駅9時30分(コース) 谷
上駅・山田道・森林植物園・ス
ヶ谷・トエテック・市ヶ原
・鍋釜山・菊水山・丸山(約16
・健脚向) 参加自由・無料 神鉄
グループ総合案内所078(59
2)4611
▽木曜ハイイク「ホテル見ウァーク」
6月3日(日)雨天中止(集合) 田尾
寺駅16時(コース) 田尾寺駅・有
馬川(解散) 一岡野駅・懐中電灯
必携(約8・家族向) 参加自由・
無料 神鉄グループ総合案内所
078(592)4611
▽観山ハイイク「旗ヶ谷・西度公園
ハイイク」 6月6日(日)雨天中止
(集合) 谷上駅10時(コース) 谷
上駅・旗ヶ谷・石種花山・西度公
園・牛の背・鈴鹿台駅(約12・一
般向) 参加自由・無料 神鉄グル
ープ総合案内所078(592)4
611
▽企画ハイイク「地獄谷・地獄谷西
屋敷ハイイク」 6月12日(日)雨天中
止(集合) 大窪駅下車・地獄谷入
口10時(コース) 地獄谷入口・地
獄谷・ダイヤモンドポイント・地

林植物園ハイイク」 6月27日(日)雨
天中止(集合) 鈴鹿台駅10時20分
(コース) 鈴鹿台駅・菊水山・鍋
釜山・再度公園・森林植物園・北
鈴鹿台駅(約8・一般向) 参加自
由・無料 神鉄観光事業部078
(521)0321
【朝日五私鉄リレーウォーク】
▽西鉄の山上動物園・野山遊楽ク
ア 5月30日(日)雨天決行(荒天の
場合は6月6日(日)に延期) (集
合) 南海高野山駅前9時20分・11
時30分(コース) 高野山駅前・大
門・赤天保・女人堂・徳川家墓台
・壇上伽藍(金堂・根本大塔・不
動堂・御影堂) 一陀羅尼・金剛峯
寺・迦葉堂 一の橋・奥の院参道
一御願一中の橋案内所(ゴール)
一バス一高野山駅(約11) 参加
自由・無料(拝観料・バス代別途)
南海テレホンセンター106(66
43)1005

□これ以外にも多数の催しがあり
ます。各社の広報も見て下さい。

やせらぶ

題字・小林玻璃三

昨年の10月末、JR加太駅から東海自然歩道へ出て、三重県関町の筆捨山(2800)に登り関ロジまで歩いたが、累積登高差は2600に達した。資料によれば、加太駅と筆捨山の標高差は1300なので二倍の登りを経験したことになる。実は、その1週間程前に京都北山の十三石山(496)へ登っているのであるが、その時歩き始めたバス停「鷹峯源光庵前」から山頂までの単純標高差は3500なのに、実際の累積登高差は5000以上だった。以後は高度計を持参して確認してみようと考え、筆捨山では、その測定を試みたのであった。

子山へ登った。これはその名が示す通り、南峰(540)・中峰(550)の三峰で構成されており、これら三峰への登り下りを繰り返さねばならない。ピークまでと各鞍部から三峰への登りに関する累積登高差は、持参した高度計により5500と測定された。標高2000の坂下宿から標高7500の山へ登ったことになる。

立木山は、瀬田川右岸立木観音の駐車場から七百段の石段を登る。奥の院への道の途中を左に入ると、参詣の人も途絶え、静寂に包まれた。3等三角点「立木」を越えて北東にくると、鉄塔の上で突如展望が開けた後、北参道に合流した。いつ開かれた道かわからないが、広くて歩きやすく、舌が笑しかつた。

1月31日、飛騨の位山・自然観察会に参加したときスノーシューを初めて履いた。スノーシューを降りてからいきなりの樹木林をカラフルなウェアがめうように進む。始めはうまく歩けない。自分のスノーシューや前の人のを踏んだりと思戦苦

闘しながらも、トレースをしばらく歩くうちに次第に足運びも慣れてきた。要領は二本の平均台の上を跨いで「松の廊下」を持参で歩く、それに似ている。登っていたせいか針葉樹に色がある以外、薄青色の世界。それにしても豊かな雪の量だ。針葉樹には綿のように、樺木には餅花のように、枝には穂のように付いているのもある。個性豊かな表情がとても美しい。

建設をやっていた時なので、この成り行きが気になっていた。ところが、行き場を失ったこの石柱を千種町がもらい受けた。製作費以上の寄付費を出費し、二つの山の頂に建ててしまったのだ。山頂に建つ平成の大馬鹿門とはどの様な姿なのだろうか、一度見てみたいと思ひ、この山に登った。おごしき山とは後山の登山道を登った稜線上の一角にあり、石柱の周りは刈り払われて天に向かってキリッとした姿で立ち、校門に採用されなかつたがみなどみじんも感じられなかつた。立派なものだ。

大里村 山形 明
道標標道の大長山に登ったのは昨年11月のことだ。以前赤鬼山とセットで日帰り計画したが、雨で赤鬼山を踏んだけて大長山は宿題となっていた。小泉峠から北に向かうと今も雨で、ぬかるんだ登山道は、あたかも起田でレンコンを収穫しているようだ。名にし負う豪雪地帯はブナの傍樹が真横に這う。ガスの中、小ピークが次から次へと出てきては消えていく。ようやく山頂(1671.4)で達成感も一入だ。展望なく後戻りは無用と下山し、東山いこいの森で泊。

登山道を進むと雨中コシアブラの薄葉がきれい。大崩山列嶺。ここでも三角点を得る。下山中ソフトクリームのせいかわの活動が活発になり喧嘩ちに行

(生駒市 井上久子)

(枚方市 東谷 宏)

(大里村 山形 明)

○新ハイ關西サービスセンター

<p>名所・二重山 小石山 大白山 甲子・原野への朝霧 1名でも能く 朝霧の朝(朝霧) 西天宮と内宮</p> <p>福島・二岐温泉</p> <p>日鏡連 大和館</p> <p>〒596-0000 福島市 日鏡連 大和館 F 0248-81-1200 0248-81-1201 0248-81-1202</p>	<p>富士登山・富士五湖 東海自然歩道 (石川山・ハロモミ・純林) 三岐山の麓</p> <p>ペンション コットンテール</p> <p>〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 F 0555-18515</p>	<p>大宮駅西口から徒歩10分 大宮駅西口から徒歩10分 大宮駅西口から徒歩10分 大宮駅西口から徒歩10分</p> <p>山小屋 樺ちゃん荘</p> <p>〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 F 0555-18515</p>	<p>原野 平ヶ岳と約りの山小屋 清四郎小屋</p> <p>ほんもの手作りそばと温泉は 樹海</p> <p>〒949-12100 新潟県中 野市 清四郎小屋 F 0255-862261</p>	<p>ハイカーの密・池の平温泉 ナガサキロマジ</p> <p>百名山を二つ登れる山小屋 黒沢池 ヒュッテ</p> <p>〒949-12100 新潟県中 野市 黒沢池 ヒュッテ F 0255-862261</p>	<p>休閑温泉 入浴も歓迎 10名以上マイクバスで送迎</p> <p>箱根仙石原温泉 福 島 館</p> <p>〒250-0631 神奈川県足 柄下郡仙石原町 福島館 F 0460-49041</p>	<p>尾瀬登山ハイキング入山口 天然温泉で山の疲れを 水無葉の湯</p> <p>グァーの花 (KAZAHANA)</p> <p>〒308-0411 茨城県 F 0298-5817051</p>	<p>四季を味わう温泉のハイク トキの湯・温泉館へ 冬はスキー けやき山荘</p> <p>温泉旅館 けやき山荘</p> <p>〒308-0411 茨城県 F 0298-5817051</p>
--	--	---	--	---	--	--	---

地図 2万5千・三万・熊川
係 ①田中 明
申込み HPPからメールのみ受付
http://kana.04.jp.
infoseek.co.jp
*定員10名

トクワカンが満開で遊んでく
れるでしょう。雨天中止

自然観察山行 46
美濃・舟伏山(一般向き)

期日 5月5日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)あいの森
駐車場(バス)あいの森
わんわん伏山(舟伏山)
あいの森駐車場(バス)
大垣駅(解散)

費用 約3500円(大垣駅か
らバス代等)

地図 2万5千・谷合
係 ①鷺見守康
申込み 〒504-0828

各務原市藤原村町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員30名
春の花満開の舟伏山フラワート
レッキングです。小雨決行

大阪・寺山(一般向き)

期日 5月5日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時
25分/②近鉄大板教育大
前駅9時50分
コース 教育大前・関分病院一
分池一寺山一農道一上ノ
太子道(解散13時30分)

費用 約4300円(名古屋か
ら)

地図 2万5千・大和高田
係 ①小出良春
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
分限登山ガイド大阪②に紹介の
山。コースはやぶとありますがさ
ほどでもない山です。雨天中止

三重の山73
鈴鹿・入道ヶ岳(一般向き)

期日 5月8日(日) 日帰り
集合 鈴鹿市大津社駐車場8時
30分
コース 椿大神社(車)小坂須賀
谷山の家・池ヶ谷道一入
道ヶ岳一二本杉樹根一滝
ヶ谷一小坂須賀谷山の家
(解散)

費用 1500円
地図 2万5千・伊勢

係 ①尾崎美五 ②橋本浩夫
申込み 〒513-0843
鈴鹿市平田東町4の5
尾崎美五まで
*マイカー山行

近畿百名山に登る(第69回)
鈴鹿・電ヶ岳(中級向き)

期日 5月9日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば7時40分

コース 京都駅(バス)宇賀渡一
ホタガ谷道一電ヶ岳一石
樽峠一小峠一長尾滝一砂
山一宇賀渡(バス)京都
駅(解散19時頃)

費用 約3000円(バス代
別)

地図 羽文社「観音新・電ヶ岳・
伊吹山」
係 ①村田智俊 ②安倉正勝
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員24名
ホタガ谷道を登り、ササ原の山頂
へつき上げます。雨天中止

金剛・学文峰(一般向き)
期日 5月9日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時
25分/②南海高野線千早
口駅10時30分

コース 千早口駅一学文峰一学文峰一上ノ
峠一上ノ峠一学文峰一学文峰
(解散14時45分頃)

費用 約5300円(名古屋か
ら)

地図 2万5千・岩瀬山
係 ①小出良春
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
訪れる人が少ない山ですが、コー
スはしっかりしています。
雨天中止

比良を歩く31
カラ松北西尾根からシャクナゲ
尾根
期日 5月9日(日) 日帰り
集合 JR比良駅バスのりば8
時45分

コース 比良駅(バス)比良リフ
ト前(リフト)シャカ岳
駅一カラ岳一北北尾根一
八瀬ノ滝上流一オガサカ

道・北比良峠一シャクナ
ゲ尾根・金峯峠一青ガレ

一大山口一イン谷口(バ
ス)比良駅(解散16時30
分頃) *飛行5時間

費用 約2600円(京都か
ら)

地図 2万5千・北小松・比良
山
係 昭文社「比良山系」
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
シャクナゲ群生地の三つの尾根
を歩きます。元リフト前へのバス
も運行中止になった場合は山行を
中止します。雨天中止

紀泉・穂子城山から種屋山
(一般向き)

期日 5月13日(日) 日帰り
集合 南海和泉中央駅バス停
9時00分

コース 和泉中央駅(バス)公園
口一種屋寺一オテ峠一
子城山一十五ノ石地蔵一
坊野ヶ岳一扇屋山一蔵岩
公園口(解散16時頃)

費用 約2300円(種屋駅
迄)

地図 昭文社「金剛・高城・
紀泉高原」
係 ①西上利和 ②井上由紀
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
今年の千文の名が付く山に登り
ます。急登あり岩場ありの変化あ
るコースで、蔵岩からの展望は技
群です。雨天中止

フツエリハイイク38
奥越・取立山(初級向き)

期日 5月13日(日) 日帰り
集合 JR新大板駅一停止面口
構内7時00分

コース 新大板駅(バス)東山い
こいの森登山口一大滝一
こつぶり山一取立山一登
山口(バス)扇山温泉セ
ンター一水芭蕉(バス)新
大板駅(解散21時頃)

費用 約4000円(バス代
別)

地図 2万5千・北谷
係 ①木村太郎 ②中村友昭
申込み 〒560-0825

吹田市榎山1-2のB
12の20 木村太郎まで
*定員20名(会費1000円)
ミスバシショウ群生地を訪ね、白

山の展望台へ登る。雨天中止

自然観察山行 47
佐渡・ドンデン山と金北山

期日 5月14日(日) 日帰り
集合 ①14日 JR岐阜駅12時
00分

コース ①14日 岐阜駅(バス)
(15日) (バス)佐渡汽
船船高ターミナル(船)
関津港(バス)ドンデン
山荘一ドンデン山一マト
キ一金北山一白雲荘(バ
ス)留(船)

②16日 留(バス)アオ
ネバ渡谷(船・バス)米
田駅(バス)岐阜駅(解
散)

*留路に溶着します。
*米田駅には20時頃まで

費用 約3600円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)

地図 2万5千・金北山・両岸
北谷
係 ①鷺見守康
申込み 〒504-0828

*定員20名
*4月20日まで

佐渡島は花の季節。大佐渡山系
のドンデン山から佐渡島最高峰の
金北山を歩きます。*案内の返答
書到着後の参加取り消しはキャ
ンセル料を要す。雨天決行

北摂・阿武山(一般向き)

期日 5月16日(日) 日帰り
集合 ①JR名高駅6番ホー
ム6時15分/②阪急茨木
駅西口阪急バスのりば9
時35分

コース 茨木駅(バス)安威一阿
武山古墳一阿武山一北大
阪急駅所一桜公園一摂津
城一上の口(バス)JR
高槻駅(解散15時頃)

費用 約6000円(阪急フリー
パス使用名古屋から)

地図 2万5千・高槻
係 ①小出良春
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
茨木市と高槻市にまたがる山が
阿武山。古くから古蹟のある山と
して知られています。雨天中止

鈴鹿百山55
 綾子岳・静ヶ岳(龍泉向き)
 期日 5月16日(日) 日帰り
 集合 三岐鉄道伊勢田原駅8時
 コース 伊勢田原駅(車) 休みコ
 パー青川→治田峠→鏡子
 岳→セネオのコバ→静ヶ
 岳→セネオのコバ→電々
 分岐→クラートガ谷
 分岐→池の平→尾根下降
 →林道→休みコバ(車)
 伊勢田原駅(解散)
 費用 車代500円
 地図 2万5千→龍ヶ岳
 係 ①山田明男 ○高原芳彦
 申込み 〒503-0535
 海津郡南濃町松山634の19
 山田明男まで
 ・定員20名
 ・マイカーの方はその旨
 記載ください
 鏡子岳へは初めて行きます。シ
 ロヤシオが咲いているとよいです
 ね。雨天中止

コース 8時30分
 広場(車) 谷山谷広場→
 うるしが池→谷山三蔵池
 →洞穴三ヶ所→谷山→経
 塚山→ひょうたん池→井
 戸→池→横道→谷山谷広
 場(解散)
 費用 交通費各自
 地図 昭文社「龍在所・露宿・
 伊吹」
 係 ①岩野 明 ○山田嘉二
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 ・マイカー山行
 去在露宿山の北東の谷山の山中
 に池や洞窟が発見されました。谷
 山谷と谷山周辺の新緑と春花を楽
 しまます。雨天中止

地図 2万5千→近江川合・虎
 御前山
 係 ①寺井恒夫 ○川上久堅
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 ・定員22名
 ・会費22名(会費に限り)
 但し、第一の徳高(13,17)は
 ですが、林道の駐車場から往復4
 時間30分ほどで行けます。展望は
 良好。雨天中止
 週末ハイイク50
 大峰尾根・玉置山から熊野本宮
 (中級向き)
 期日 5月21日(金) 日帰り
 前夜寝泊り2日
 集合 ①21日 近鉄大和八木駅
 改札出口23時10分
 コース ①21日 大和八木駅(バ
 ス)→車中泊
 ②22日 玉置神社駐車場
 →玉置神社→玉置山→大
 森山→五大尊岳→大黒天
 神社→熊野本宮
 (バス)→上茂川→民前
 (泊)
 ③23日 上茂川(バス)
 →玉置神社駐車場→玉置山
 →宝冠の森→花折塚→岩

ノ口→玉置山登山口(バ
 ス)→温泉地温泉(入浴後
 バス)→大和八木駅(解散)
 費用 26000円(バス・宿
 泊代等)
 地図 昭文社「大峰山脈」
 係 昭文社「〇瓜敷利明
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 ・定員20名(会費に限り)
 1日目は玉置神社から大峰尾根
 の終点、熊野本宮まで暗視し、2
 日目は尾根最後の行場、宝冠の森
 から玉置山登山口へくだります。
 雨天決行
 花遊り山行4
 湖北・伊吹北尾根(一般向き)
 期日 5月22日(日) 日帰り
 集合 J.R.関ヶ原駅8時50分
 コース 関ヶ原駅(バス)伊吹山
 頂駐車場→燕壁→静馬ヶ
 原→御蔵峠→大荒山→国
 見岳→金岩の清水→寺本
 (バス)近鉄根上駅(解散)
 係 J.R.大垣駅(解散)
 費用 約6000円(京都を)
 地図 2万5千→美東
 係 ①田中 明

申込み HPからメールのみ受付
 http://hana.04.jp.
 infoseek.co.jp
 ・定員10名
 今年は何枚の写真を4回にわたっ
 て花遊りの予定。今回はどれだけ
 の花に出会えるか楽しみです(70
 号22ページ参照)。雨天中止

出口7時25分
 コース ①22日 西明石駅(バス)
 三坂山登山口→三坂山→
 紅葉(バス)大山寺(泊)
 ②23日 大山寺(バス)
 →向平→大休所→中ヶ山
 →船上山登山口(バス)
 加古川駅(解散19時頃)
 費用 約20000円(バス・
 宿泊代等)
 地図 2万5千→徳島・美作宮
 原・船上山・伯耆大山
 係 ①土島隆一 ○岡田 昇
 申込み 〒610-0121
 加古川市平岡町山の上66
 の33・17A3
 古賀屋一まで
 ・定員22名(会費に限り)
 昔の任務がしのばれる大山みち
 そして前回の残りコースをたどり
 ます。雨天決行(コース変更あり)

京阪・J.R.宇治駅(解散
 14時50分)
 費用 約5000円(会費フリー
 バス使用を古賀から)
 地図 2万5千→宇治
 係 ①小出良春
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 分岐登山ガイド京阪(2)に紹介さ
 れている山で、だれでも歩ける山
 です。雨天中止
 鈴鹿・園見岳(中級向き)
 期日 5月23日(日) 日帰り
 集合 J.R.京都駅八条口団体バ
 スのりば7時40分
 コース 京鹿駅(バス)→武平峠→
 園見峠→園見岳→根ノ平
 峠→朝明ヒュッテ(バス)
 京鹿駅(解散19時頃)
 費用 約3000円(バス代)
 地図 昭文社「龍在所・露宿・
 伊吹」
 係 ①中西信行 ○磯野重治
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 ・定員22名

武蔵峠から北へ展望のよい鈴鹿
 中部の尾根を歩きます。雨天中止
 北山ちよと歩き①
 寅生三山
 ブナノ木峠・森峠・八重山
 (中級向き)
 期日 5月26日(日) 日帰り
 集合 J.R.京都駅八条口団体バ
 スのりば7時40分
 コース 京鹿駅(バス)生杉ゲ
 ート→地蔵峠→岡谷→上谷
 →ヶアキ坂→ブナノ木峠
 →森峠→八重山→中山→
 長谷谷小原峠→地蔵峠→
 生杉ゲート(バス)京都
 駅(解散18時30分頃)
 費用 約3000円(バス代)
 地図 昭文社「京都北山」
 係 ①高山 三
 申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 巨木の原生林や自然林の再生の
 山はわれわれを思いやり楽しませ
 てくれます。雨天中止
 自然観察山行148
 熊前・姥ヶ岳(一般向き)
 期日 5月28日(金) 日帰り

前後発日帰り

集合 (28日) JR岐阜駅23時00分
コース (28日) 岐阜駅(バス) (29日) (バス) 大野市街(朝倉休憩・バス) 平家平(登山口) 姥ヶ岳(登山口) 平家平(バス) 岐阜駅(解散)
費用 約11000円(岐阜駅からバス)
地図 2万5千:能郷白山・冠山
申込者 504-0828
各務原市藤原村雨町1の19の5 警自守康まで
*定員20名
セリバオウレンやサンカヨウの大群落を見に行きます。花の時期には遅いかもしれませんが、見応えのある自然景観です。雨天決行
高野・高野山不動観 (初級向き)
期日 5月30日(日) 日帰り
集合 (1)近鉄名古屋駅地下5時25分 (2)近鉄高野線橋本駅乗換11時35分

コース 極楽橋駅→清久橋→女人道→元太郎→根本太郎→金剛峯寺(バス) 高野山駅(ケーブル) 極楽橋駅(解散)
費用 約6800円(完全自備)
地図 2万5千:高野山
申込者 610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
高野山平野の展望高野山 女人堂・増上御堂・金剛峯寺・大阿彌陀仏の多いコースです。雨天中止
期日 5月30日(日) 日帰り
集合 JR西岐阜駅8時15分
コース 西岐阜駅(車) あいの森駐車場(徒歩) あいの森→舟伏山→小舟伏山→阿波比知(徒歩) 阿波比知の森(徒歩) 西岐阜駅(解散)
費用 現代1000円
地図 奥村さんの絵地図を用意
申込者 山田明男

申込者 503-0535
高津郡南濃町松山24の19 山田明男まで
*定員20名
マイカーの方はその旨記載ください
5月火は何が咲くでしょうか? 小雨決行
鈴鹿を歩く194
御志保(健脚向き)
期日 5月30日(日) 日帰り
集合 国道306号線岐阜トンネル西口広場8時30分
コース 広場→鈴北→元准→日本庭園の池→夕日のテラス→風池→ポタンブチ→幸助の池→南峰→丸山→鈴北→西口広場(解散)
費用 交通費各自
地図 関文社「御在所・雲仙・伊吹」
申込者 岩野 明 ○山田景二
610-0121
城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
マイカー山行
新緑を楽しみながら御志保のテラスランをのんびり歩きます。雨天中止

地図読み山行83
北沢・難波山からホウケントウ (一般向き)
期日 5月30日(日) 日帰り
集合 JR福知山駅武田尻駅10時00分
コース 武田尻駅→難波山→24→ホウケントウ→五瀬→武田尻駅(解散)
費用 約1400円(大塚を2)
2万5千:武田尻
関文社「北沢・難波山」
申込者 塚元一彦 ○中村 登
536-0008
大阪府城東区鶴岡4の14の9の901 塚元一彦まで
*定員30名
新ハイキング「関西を歩」合開駅から直に登れる難波山コースが21300歩の低山ながら眺望がよく静かな山歩きが楽しめます。地形図の読み方とコンパスの使い方をお勉強しますので初心者歓迎。シルバー型コンパスと地図必須。雨天中止
北沢・黒檜橋から明神ヶ岳 (一般向き)
期日 6月5日(日) 日帰り

集合 (1)JR名古屋駅中央改札口6時55分 (2)JR高槻駅北口9時20分
コース 高槻駅(バス) 田能一宮塚→尾崎→林道出合→黒川→尾崎→明神ヶ岳→万寿寺→中相町(解散)
費用 約6100円(完全フリー)
2万5千:法良
申込者 610-0121
城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
北沢の中でもバスの便が悪くてマイナーな山なので、歩いてみる人は少ないですが、そのぶん静かな山が楽しめます。雨天中止
但馬西部・行番岳(中級向き)
期日 6月6日(日) 日帰り
集合 JR西羽衣駅西出口7時40分
コース 西羽衣駅(バス) 多々良木→行番岳→岩屋嶽→岩津(バス) 加古川駅(解散)
費用 約3000円(バス代等)
2万5千:但馬新井
申込者 676-0112
加古川市車道町山の上63の33-17A 古野 一まで
*定員22名
自然林と岩場に富んだコースに再挑戦です。雨天中止
近畿百名山に登る(第70回)
期日 6月6日(日) 日帰り
集合 近鉄上本町駅地上改札口9時00分
コース 上本町駅(バス) 牛滝山→上石道→牛滝林道→和泉山→和泉山→谷→春日橋(バス) はの字の里→ゆの館(入道・バス) 上本町駅(解散)
費用 約3000円(バス代)
600
申込者 関文社「金剛・高野・但馬」
関文社 関文社
○安倉正勝
○高比根 実

申込者 610-0121
城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*定員22名
理髪館上に竹生高がモッコリと浮かんでいます。ササニリが咲いているといいますが、2等点の東山からは一気到大崎寺へくだります。小雨決行
期日 6月6日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バス乗り場7時40分
コース 京都駅(バス) 小丸路→万寿寺→5322-3計→566計→東山→大崎寺(バス) 京都駅(解散)
費用 約3000円(バス代)
2万5千:海津
申込者 関文社「○中西信行」
関文社
610-0121
城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*定員22名

期日 6月10日(日) 日帰り
集合 JR粉河駅9時40分
コース 粉河駅→龍門橋→一本松分岐→田代峠→龍門橋→粉河駅(解散)
費用 約2200円(難波駅)
2万5千:粉河・龍門山
申込者 西上利和 ○井上由緒
610-0121
城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
龍門山は、眺望が富士山に似ていることから紀州富士とも呼ばれ、天然記念物キイチモツケの野生地として知られています。今回は開花に合わせて山行します(本誌8ページ参照)。雨天中止
自然観察山行149
期日 6月11日(日) 日帰り
集合 前夜発日帰り
コース (1)日 岐阜駅(バス) (2)日 白川村

期日 6月10日(日) 日帰り
集合 JR粉河駅9時40分
コース 粉河駅→龍門橋→一本松分岐→田代峠→龍門橋→粉河駅(解散)
費用 約2200円(難波駅)
2万5千:粉河・龍門山
申込者 西上利和 ○井上由緒
610-0121
城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
龍門山は、眺望が富士山に似ていることから紀州富士とも呼ばれ、天然記念物キイチモツケの野生地として知られています。今回は開花に合わせて山行します(本誌8ページ参照)。雨天中止
自然観察山行149
期日 6月11日(日) 日帰り
集合 前夜発日帰り
コース (1)日 岐阜駅(バス) (2)日 白川村

平瀬(朝倉休館・バス)
登山口ー林道終点ー4等
三角点ー白ガレー三万前
山ー白ガレー4等三角点
ー林道終点ー登山口(バ
ス) 岐阜駅(解散)
* 帰路に入浴します。
費用 約1,000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)
地図 2万5千:新岩間温泉・
平瀬
申込み ◎登山守庫
〒50410828
各務原市蘇原村雨野1の
19の5 警備守庫まで
* 定員20名

週末ハイク60
比良・権現山から南比良峠
期日 6月12日(日) 日帰り
集合 JR湖西線相瀬駅9時10
分
コース 相瀬駅(バス) 権現山登
山口ー権現山ー小女館峠
世界遺産の合掌集落で有名な白
川村から落葉樹林の長大な尾根道
を歩き、高度感満点のピークに達
します。雨大決行(コース変更あ
り)

一蓬萊山ー打見山 本戸
峠ー比良峠ー鳥谷山ー南
比良峠ー比良駅(解散)
費用 約1,000円(バス代)
地図 昭文社「比良山系」
◎谷野東彦 ◎瓜野利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
チャレンジ比良の上級コースを
スタート地点から半分強ほど歩
きます。雨大中止

三河・観音山(一般向き)
期日 6月13日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口8時25分/②名鉄国府
駅9時25分
コース 国府駅(バス) 財寶口ー
平野カントリークラブー
観音山ー国府駅(財寶口
(バス) 国府駅(解散14
時55分)
費用 約2,300円(名鉄新名
古屋駅から)
地図 2万5千:御油
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
豊川自然歩道を歩きます。登山
道からは三河湾・渚美半島が見え
ます。観音山をおりてくと東三
河の名刹財寶寺があります。
雨大中止
鈴鹿を歩く195
向山・イハイガ岳・綾向山
(難関向き)
期日 6月13日(日) 日帰り
集合 甲津雄の奥・登り谷出合
広場8時30分
コース 広場(車) 尾根取付ー向
山ー登り谷新頭ガレ場ー
イハイガ岳ー綾向山ー端
王尾根ー高尾路ー登り谷
出合広場(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲雀・
伊吹」
申込み ◎谷野利明 ◎山田健三
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
* マイカー山行

伊吹(伊吹)
◎谷野利明 ◎山田健三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
* マイカー山行
秘境の向山からイハイガ岳へ。
そして綾向山の草原を登り、竜王
尾根から登り谷にくります。めっ
たに歩かない特別ルートです。

雨大中止
花返り出行
大観・金剛山(一般向き)
期日 6月13日(日) 日帰り
集合 千早ロープウェイバス停
前9時00分
コース 千早ロープウェイ前全
仏殿ー寺谷ー国賀城址ー
千早庄のミニシアター
園地ー伏見峠ーロープウェ
イ前バス停(解散)
費用 約2,300円(園地野橋
から)
地図 昭文社「金剛・真城・
紀伊高野」
申込み 明
HPからメールのみ受付
http://hana04.jp.
info@h04.jp
* 定員10名

この山の植生の豊かさはあまり
知られていない。雨大中止
比良を歩く32
白滝谷から蓬萊山(一般向き)
期日 6月13日(日) 日帰り
集合 JR柴田駅バスのりば8
時40分
コース 柴田駅(バス) 坊村ー牛

コバール夫婦ー辻谷ー笹
平ー蓬萊山 金比羅峠ー
ゴンドラ山頂駅(バス)
* 志賀駅(解散18時30分)
* 歩行5時間30分
費用 約2,200円(京都駅か
ら)
地図 2万5千:花背・比良山
昭文社「比良山系」
申込み ◎桑 夏夫
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
辻谷のクリンソウが見られるか
も知れません。雨大中止
ファミリーハイキング30
信楽・笹ヶ岳(一般向き)
期日 6月17日(日) 日帰り
集合 JR新大塚駅ー藤止山口
構内8時00分
コース 新大塚駅(バス) 新新田
登山口ー西登山道ー笹ヶ
岳ー南ヶ岳時ー東登山道
ー登山口(バス) 信楽温
泉多摩川の湯(バス) 新
大塚駅(解散19時)

申込み 〒565-0864
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
* 定員20名(会費1,500円)
ササユリを求めササの美しい信
楽高原の山へ登る。雨大中止
若狭・青葉山(一般向き)
期日 6月19日(日) 日帰り
集合 JR小浜駅若狭駅高松駅前
9時00分
コース 若狭高松駅(車) 中山寺
登山口ー青葉山東峰ー青
葉山西峰(往復)ー中
山寺登山口(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千:青葉山
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
* マイカー山行
若狭三名山の一つ、双耳峰の若
狭第七、東峰西峰間のお役がおも
しらい。雨大決行
美濃・貝月山と小津権現山
(一般向き)
期日 6月19日(日) 20日(日)
1泊2日

集合 (19日) JR京都駅八条
口徒歩バスのりば7時40
分
コース (19日) 京都駅(バス)
ふれあいの森公園ー貝月山
小貝月山ー東尾根長
若狭小峠ー長草草キャン
プ場(泊)
(20日) 長草草(バス)
小津権現山(往復)ー
小津権現山(往復)ー
小津(バス) 池田温
泉(入浴後・バス) 京都
駅(解散19時)

鈴鹿山57
鬼ヶ牙・長坂の頭・臼杵岳
(難関向き)
期日 6月20日(日) 日帰り
集合 JR車山駅8時20分
コース 車山駅(車) 石木決キヤ
ンプ場(車) 林道分岐駐
車場ー三洲ー鬼ヶ牙ー長
坂の頭ー泉場尾根ー舟石
ー臼杵峠 臼杵岩ー林道
分岐駐車場(解散)
費用 車代1,000円
地図 2万5千:車山
申込み ◎山田明男 ◎高野嘉彦
〒603-0535
海津郡南桑町松山69の19
山田明男まで
* 定員20名
* マイカーの方はその旨
記載ください
鬼ヶ牙から泉場尾根へ出て、臼
杵岩からくだります。雨大中止
奈良・大倉山から高尾山
(一般向き)
期日 6月20日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古原駅7時25分
/②近鉄橋原駅10時10分
コース 橋原駅(バス) 高井一峠
堀乙の十子路ー山の神ー

山行報告
(1・2月号)
新ハイキングクラブ開誌

京都東山・福寿山から清水山
1月2日(日) 晴れ

(集合) JR福喜駅9・00 伏見
福喜大社9・10 大谷神社9・55
一期山三所台10・07 福寿山10・
25 泉源寺10・57 豊国山11・57
(昼食) 12・40 清水山13・15 1
清水寺13・40 高宮寺14・12 東
山14・46 増尾山14・57 智恵院・
円山公園・八坂神社・平安神宮15・
16 42 地下鉄阪上駅16・24 (解
散)

伏見福喜は発祥時間に早くしてス
ムーズに歩けた。地元京都の参加
者4人がオアションコースとして
東山トレイルを外れて神社・仏閣
を案内してくれ、また東山トレ
イルへ戻るというすばらしいコース
になった。清水寺から高台寺への
崖坂(二坪坂)付近は人また人
で前に進まなかつた。中島日出男
(参加者) 岩城孝子 井上由紀晴
橋本桂吉 藤田謙彦

今井淑雄 小林 稔 前田喜久子
山岸勝雄 森 昌好 宮村千代子
井上智子 森 理代 水越美重子
○和田直樹 ◎小出昌春(計16名)

初歩きと卒業会
1月4日(日) 晴れ

(集合) JR有生駅10・00 10
三重山(つきやま) 10・45
修行寺11・00 川向山11・35 高
雄山キャンプ場12・30 (昼食・午
夜会) 14・00 退社後時14・30
有年祝15・00 (解散)

初歩きにふさわしい晴天で、気
ままに紙山を歩く。キャンプ場で
は先登隊が羊衣を準備して待つて
いた。参加の仲間が、健康と勇気
を新年に贈る言葉をしよう。

(参加者) 藤野鶴子 砂原恵美子
松浦鶴子 岩城孝子 松田天智子
石川智子 橋本桂吉 橋本洋子
島田洋子 馬場宗男 田中二重子
中村善春 美村三枝 栗松幸吉
栗崎裕子 藤村勝彦 岩田野子
福井美菜 今村 真 今村トシ子
三輪幸子 宮下洋一 中島 昭
小林 桂 小谷初子 余 昭
角田 江 君塚信子 村井善和
小田初子 加藤天彦 多賀野一
多賀久子 東山慶夫 船本裕巳子

志保清美 原 文子 小林鶴子
櫻井幸男 兼田孝子 岡田恵美子
西島 正 フリップ知恵子
○岡田 昇 ○住田淑隆
◎須藤剛 頼 (計16名)

鈴鹿百山51
福杖ヶ岳・小雀の頭
1月4日(日) 晴れ時々くもり

(集合) JR加太駅8・45 (車)
現地登山口9・00 10 柳子ノ木
峠9・30 錦杖ヶ岳10・25 53
小雀の頭11・40 (昼食) 12・30
福徳集落の下・名取道脇13・40
(車) 関道の駅14・10 (解散)

天候に恵まれ全員が通して歩い
た。福杖ヶ岳は雨降隊が一望でき
る山で、年始めに歩くのにふさわ
しい山だった。

(参加者) 山科桂彦 山野志保江
原 光一 原 幸子 伊藤恵美子
伊藤鶴子 森見重美 森本幹雄
伊田朝子 島根信吾 山田妙子
谷 久雄 山口敏明 池田隆一
栗本敏夫 白木良弘 白木やす子
吉村 昭 藤谷国男 石井千恵子
佐治江江 佐治 登 猪狩美穂子
坂口久子 西村文男 佐古田文字
竹田善英 小林 隆 宮地ちへ子
◎高橋芳彦 ◎山田明男(計16名)

福州・小富士山
1月4日(日) 晴れ

(集合) 山崎白浜の宮駅10・50
麻生八幡宮11・26 岩山11・50
華厳寺12・07 小富士山12・08
(昼食) 12・40 1 寿山13・05 1
御茶山14・16 八幡神社14・23 1
山崎聖徳院14・55 (解散)

簡単な山と思っただけでいくと
岩場に着いた。岩場の上って下を
見ると、頭がクラクラするような
高さだった。小富士山から下山と
考えていたが、草野さんが御茶山
まで行けるコースがあるらしい。保
険はきかないがみんな行くという
うので、地図を見ての「登山から
御茶山まで三山縦走」となって来し
かが倍加した一日になった。

(参加者) 橋本桂吉 土井あつ子
土井明夫 上田久子 岡本美千子
宮野哲郎 宮野鶴子 野野野鶴子
川田洋子 長沢佑美 中尾美智子
松本勝子 東中次夫 森澤昭子
坂田明美 伊藤明男 ○林 信男
◎小出良春 (計16名)

上原 豊平高源
(自然観察山行135)
1月10日(日) 12日(日)
雨降れ 1泊2日

10日(日) 晴れ (集合) JR岐阜
駅23・00 (バス)

(1日) 晴れ (バス) 豊平高源
ブチホテル4・45 (朝食休憩) 7・
30 (バス) 豊平牧場8・05 1 樹子
橋10・40 50 7 ケカンバ林11・
15 (昼食) 12・05 1 豊平牧場13・
20 1 豊平高源ブチホテル13・40
(解散)

(12日) 晴れ 豊平高源ブチホテ
ル7・40 (バス) 豊平牧場8・00
1 11・00 (バス) 豊平高源ブチホ
テル11・10 1 20 (バス) 関谷温泉
11・45 (入浴・昼食) 13・30 (バ
ス) 岐阜駅17・55 (解散)

スノーシューで登山道へのトレッ
キング。雪山の厳しさを体験しな
がら無事登頂。2日目は初体験の
ネイチャースキーで遊んだ。

(参加者) 伊藤 直 金藤節子
栗原忠告 栗原信子 砂原恵美子
川田洋子 島根信吾 岸 すす子
仲谷計司 長尾一介 林 えい子
原 幸子 森本洋子 橋本裕巳子
宮本良幸 宮本悦子 宮田恵美子
横井 徹 横井裕子 森 美重子
若松初子 ○森崎昌義
◎豊田守康 (計16名)

七種重経走

1月11日(日) 晴れ

(集合) JR黒川駅8・25 (バ
ス) 奥池・野外活動センター9・
20 40 小滝林道終点10・15 1 鹿
嶋11・00 笠笠11・10 1 七種山11・
15 1 25 1 七種分岐11・30 1 途中
12・10 (昼食) 12・45 1 30 1 13
30 1 表町山13・55 1 14・05 1 13
14・20 1 明志寺前への下り道15・
15 1 三枝草バス停横高15・40 (バ
ス) 夢やかた16・00 (入浴) 17・
10 (バス) 加古川駅18・20 (解散)

ハイビッチの先頭を追いかけ林
道終点でアヘアへ、加えて七種山
への急登。しかし笠笠あたりの景
観にアヘアへは山の彼方の空遠く
そして、展望のとほしい縦走を精
てグッドな薬師山へ。下山は西雨
降尾根(地獄尾根)。岩場ありや
ぶりのルートファンディングを
こなし、下山後、夢やかたで今
年の安全山行を祝って乾杯。

(参加者) 中島 隆 前田喜久子
小谷初子 角田 江 塩原重雄
大畑 敏 岩田野子 石田賢一
梅川常雄 東山慶夫 口田哲二
松村雅子 森 理代 光川 三男
若松初子 森本 勝 石倉美穂子
若比良美 馬場宗男 福岡 章

1月11日(日) 晴れ

多賀野一 多賀久子 岡田恵美子
前川 一 竹久昭久 田原真樹子
木村方子 須藤裕子 市井ユリエ
村方 豊 山科桂彦 首藤智子
松本勝子 上田直代 坪田美千代
押本吉生 ○野野東彦
◎岡田 昇 ◎古賀隆一(計16名)

東南・土丸城址から陣山
1月11日(日) 晴れ
(集合) JR大寺駅9・53 (電
車) 日輪野駅10・29 1 51 (バス)
土丸11・06 1 土丸城址11・46 1 南
山12・10 (昼食) 12・40 1 古原谷
頂上13・18 1 大塚池東コース13・
44 1 展望台14・30 1 水築ダム14・
55 1 成合口15・34 (バス) 熊取駅
15・50 (解散)

水築ダムを挟んで東と西のハイ
キングコースがあり、整備されて
いて歩きやすかつた。城址や展望
台からの眺望もすばしらかつた。

(参加者) 黒河内康洋明
岩城孝子 若林文夫 小塚きぬ子
白田孝子 山崎弘美 中村英雄
熊本秀雄 原 文子 ○林 信男
◎小出良春 (計11名)

高野山・明神山・東光寺山
(鈴鹿を歩く184)

1月11日(日) くもり時々晴れ

(集合) 水産町駅(車) 紅葉
橋公園8・30 1 紅葉谷林道登山口
8・50 1 高野山10・20 1 明神山10・
50 1 7 0 7 紅葉山11・10 (昼食)
12・25 1 東光寺山13・10 1 開閉所
14・00 1 陣山15・00 (解散)

明神山には「八雲城大神」「八
大龍王御明神社」の石碑と祠が
あり、磨乏いの聖山。雪山歩きに
なったが、焚火を囲んでの昼食と
風呂で開ける大パノラマに満足し
た。

(参加者) 山田明男 山田妙子
余谷 昭 馬場桂子 石田眞由美
吉村 昭 永戸敏治 北村つねみ
栗本敏夫 白木良弘 白木やす子
高橋芳彦 小松幸信 黒野太一郎
谷 守 河津勝夫 櫻田哲郎
西 悦子 杉山久久 武村千鶴
今井武司 坂田明美 加納由美子
西 洋基 小林 夫 小山妙子
○山田基二 ◎野野 明(計16名)

京都・比叡山
(京都市内山に登る第3回)
1月12日(日) 晴れ
(集合) 龍崎山駅8・30 1 37
(電車) 龍崎山駅8・45 1 北白川
溪文差点8・50 1 9・00 1 きらら

山口啓弘 武部 剛 武部美美子
佐野信江 栗岡孝子 岩本孝子
新垣 繁 井上恭子 青木一雄
牧 和夫 山根英美 長比保美
茨木良雄 ○森脇貞義
○磯野直樹 ○中西信行(計27名)

尾張・東谷山

1月25日(日) 晴れ
(集合) J.R名古屋駅8・18(電
車)愛知稲佐鉄道中水野駅9・07
一十軒町登山口9・35(東谷山9・
53)10・15(東谷山フルンパー
ク10・45)J.R高蔵寺駅11・24
(電車)名古屋駅11・42(解散)
名古屋市の最南端で古墳の山で
もあつた。家族連れも多くフル
ンパークから走って8分で登つて
来たと言ふ人もいた。
(参加者) 前川久枝 小原きぬ子
小林繁子 ○小山辰春(計4名)

広沢池から葛湯谷山

(北山ちよと歩き53)
1月28日(日) 晴れ
(集合) J.R京都駅8・00(バス
山越9・15)嵯峨野駅長刀坂分岐
10・30(高須谷山10・45)高須谷
池11・10(嵯峨大屋山11・40)鳥
居大文字12・30(記念)13・50

美濃・月見山

(自然観察山行137)
2月7日(日) くもりのち雪
(集合) J.R大垣駅9・00(バス
揖斐高原スキー場11・00)ふれあ
いの森公園12・30(記念)13・40
一揖斐高原スキー場14・30(バス
バス)池田温泉16・05(入浴)
16・50(バス)大垣駅17・20(解
散)
★レポートはせせつと準備中。
(参加者) 石田高教 森野美由志
緒方由子 金森勲子 砂原重美子
栗栖孝子 栗栖裕子 花房真由子
竹田博美 原 幸子 三下須美恵
平田雅英 藤崎沈石 宮崎幸恵子
水谷陽子 森本洋子 武藤由美子
宮本真幸 宮本悦子 横井恭子
○長尾 令 ○篠田守康(計27名)

播磨南東部・三草山

2月6日(日) 晴れ
(集合) J.R古川山駅8・50(バス
バス)山田山山駅9・46(バス)
10・27(バス)10・50(三草山11・
25(記念)12・15(高須山13・05
朝光寺14・05)41(バス)西明石
駅16・00(解散)
山頂までは岩場といつても岩盤
の上を歩くと、きょうは月岡登山の

梅津山不動尊14・50(嵯峨道遊寺
15・30(解散)
大家とは思えない快晴。山越か
ら広沢の池を眼下に望み、長刀坂
分岐から葛湯谷山の三角点へ。嵯
峨大屋山に寄り、急坂をくだると
今話題の映画「ラスト・サムライ」
に出てきた二時代者の家と小川の
ロケーションに出会う。昼食は送
り火の鳥居の火床。眼下に嵐山・
嵯峨野と見下ろし、はるか比叡山
までを一望した。

(参加者) 山根邦枝 中嶋日出男
木下朝子 緒方由子 野々山明美
市野博文 森 和久 原 みとよ
加藤啓二 松尾孝子 中上紀代子
本間孝子 山岸勝雄 野々山明美
藤野功助 宮崎紀正 小野しげ子
吉野孝子 中村 保 野木あや子
西 悦子 宮野裕子 宮村次太郎
石原裕子 岡田里子 横川ゆり子
小川朝美 神野孝子 砂原重美子
角江朝子 妹尾一正 石田真由美
長岡保江 渡部和美 高須重美子
岩本彩子 上田久子 加納由紀子
和田直樹 仲谷礼司 辻 富子
尾野正弘 小谷和子 白田忠子
岩村孝子 林 弘毅 栗田明美
市田政子 栗栖裕子 赤松 繁
フリラン知恵子 長谷川美枝子

日で、くだって来るハイカーによ
く出会った。山頂からは360度
の展望、やや霞んでいて最高とま
ではいかないが、方位盤を見て山
名の同定に余念がない。山頂から
は、ツツジの多いゆるやかな尾根
を下り、朝光寺ではゆっくりと園
宝の本堂を始め、めずらしいつく
ばの木を見た。
(参加者) 竹田重美 前田登久子
小谷和子 角田一江 宮村次太郎
坂原真由 秋田勝郎 輪崎みよ子
岩田賢士 柳川富雄 口石おる
東山敬夫 松村裕子 岡田里美子
森 康代 岩崎健司 田所真由子
森本洋子 森脇貞義 猪狩美枝子
馬原中男 松井明恵 石倉眞子
栗栖孝吉 栗栖裕子 野里マフ代
藤野暢子 原 文子 砂原重美子
木村 豊 立川郁夫 草野智恵子
中島 隆 兼貴 力
フリラン知恵子 ○福岡 章
○岡田 昇 ○古坂一(計27名)

京都・甘南備山と男山
2月6日(日) 晴れ
(集合) 近鉄新田辺駅9・25(タ
クシー)登山口9・46(三角点10・
16)甘南備山10・29(展望台10・
35)登山口10・55(一休寺11・18

○本間 隆 ○井上由紀晴
○谷 守 ○中川光郎
○奥山三三 (計57名)
スノーハイキング
飛騨・位山

(自然観察山行136)
1月30(日)31日(日) 前後発日帰り
(30日)くもり(集合) J.R岐
阜駅23・00(バス)
(31日) 晴れ 久々野町旅館5・
15(朝食・休憩)6・30(バス)
モンテアウス飛騨位山スノーパーク
駐車場7・00(8・00(リフト)
リフト終点8・15(位山10・35
(登山)11・40(リフト終点13・
15)位山温泉15・35(入浴)16・30
(バス)岐阜駅18・35(解散)
数冬の位山。朝はガスが巻い
ていたが次第に青空が広がって、
級と美称岳がきれいに映えていた。
別年より雪は少なめだが、針葉樹
の森のなか、スノーシューで爽快
なハイキングを楽しんだ。
(参加者) 伊藤 直 森野美紀恵
井上友子 近江秀子 北村つねみ
緒方由子 金森勲子 砂原重美子
栗栖孝吉 栗栖裕子 行 すみ子
小原宏信 竹代朋久 花房真由子

(タクシー)石清水八幡宮下12・
15(登山)13・00(旭ヶ峰13・22
一揖斐高原スキー場14・30(解散)
59(高須谷山)14・30(解散)
駅からタクシーで行ったが、料
金が安くて気が引けた。里山なの
で散歩気分です歩いてる人もいた。
一休寺は30分程度で一回りできる
こじんまりとしたお寺だった。男
山の石清水八幡宮は歴史を感じさ
せる神様だ。
(参加者) 森田 晃 小原きぬ子
下村啓三 下村啓子 岩本孝子
小田博子 栗田幸子 栗栖貞義
尾崎光子 本家洋子 井林寿孝子
真田久子 山岸勝雄 西ノ宮陽子
林 信男 本間 隆 中上紀代子
青木一雄 黒河内東洋明
妹尾一正 中村英雄 岩本いすゞ
小林博子 森 晴代 波多野重美子
橋原次子 入江武史 ○市野博文
○和田直樹 ○小出真春(計27名)

樹氷の綺山
2月6日(日) 晴れ
(集合) 藤士丹広場8・20(バス)
熊野バス停8・30(林道終点)文二
ハゲ9・40(水無地)10・05(福
向山10・40)北峰10・50(菅原南

多田朝子 島居信吾 船本裕子
宮本真幸 宮本悦子 武藤由美子
仲谷礼司 村井善和 森 美香子
森本洋子 山崎勝美 ○森脇貞義
○豊田守康 (計27名)

奈良・城山
2月1日(日) 晴れ
(集合) 近鉄・J.R天理駅9・50
(バス)10・00(タクシー)園道五ヶ谷
(バス)10・15(タクシー)園道五ヶ谷
(記念)12・00(深え庄南13・
27(記念)13・35(解散)
42(バス)天理駅13・55(解散)
米谷までは昨年来たので今年は
ここからスタート。入口さえわか
ればあとは城山まで一本道。山頂
は赤の巨岩と三角点があつたが、
この山が昔城山だったとは思えな
いほどのやぶ山だった。
(参加者) 岩城孝子 小原きぬ子
岩崎健司 中村英雄 水本加津栄
井本孝子 水原達子 東久保博彦
山崎勝子 玉井朝子 前川和佳子
松田和道 森田久子 岡本美千子
押本吉生 大園加代子
片山美枝子 岩本いすゞ
中尾美智子 ○林 信男
○市野博文 ○小山辰春(計27名)
スノーハイキング

快晴で最高の冬山登山。越前山
から大ノラマが展開し、雪庇の
上を北峰から広大な雪原へ。明神
谷頭は雪崩で大きく崩れ落ちて
いた。南麓の日照りて暖気。食
後はヒップススキー大会。引き返し
てフナの木立に一気に滑りくだる。
(参加者) 山田明男 山田妙子
馬場祥子 服部 久 三下侘夫
堀 春江 谷 久雄 栗本敬夫
会谷 昭 友田 敏 友田美枝子
後藤康幸 今井武司 石田真由美
中森昭夫 高須芳彦 佐白田文子
原 光一 原 幸子 光岡 三子
水谷秋治 藤田啓利 伊藤重美子
武村子鶴 緒方由子 小林 桂
丹下由子 水谷俊之 杉山彰久
○山田三三 ○市野 明(計27名)

生駒・大原山から生駒山
2月11日(日) 晴れ
(集合) 近鉄枚岡駅8・30(バス)
枚岡林8・50(バス)10・10(展望台
9・30)40(神津林)9・50(坂
らの広場)10・30(記念)11・30(

大原山11・35―暗峠11・45―生駒山12・30―13・00―興法寺13・30―爪切地蔵14・20(解散)―石切沢14・30
咲き初めの梅林を見て、なるかわぬ地・神津嶺コースを「はくらの広場」に登り、見晴らしのよい芝生の大広場で早白の長巻、大原山に立ち寄り、生駒山上の一等三角点を目指した。風のない暖かい日で大勢のハイカーに出会ったが、なかでも近畿百名山を遠征された阪上英次さんに会えたのはうれしかった。

- (参加者) 宮下淳一 三井猛一 宮西初子 川田洋子 柴田チヨコ 小林 隆 吉後孝次 野田マコ代 田中善雄 中島 隆 武部美恵子 宮野信郎 宮野裕子 藤下なるみ 柳原信彦 関田芳良 高岡富美子 柳村由美 加藤元彦 山崎佐知子 上坂知子 白藤忠子 辻本チヨ子 余谷 昭 前田一代 小谷初子 夏山春子 中谷孝子 桐井清之 和田高樹 朝倉信雄 安倉正勝
- 奥比良美 ◎村田賢俊(計32名)
- 養生・日張山から一谷峠
2月12日(日) 晴れ時々曇り
(集合) 近鉄橋原駅9・00―15

- (ハル) 宇野登9・40―無道橋10・25―ひびり山参道 吉連寺10・45―11・05―日張山11・20―40―無名ヒーク12・00(休息)12・30―一谷峠13・25―芳野水分神社・松井天神社15・00(ハル) 橋原駅16・00(解散)
曹達寺の静寂な境内でひと息いれ、日張山でもゆっくり休憩をとる。冬枯れの庭園道をのんびりと歩いた。
- (参加者) 東山澄夫 山根邦枝 森本幹雄 木下朝子 宮路ちへ子 増田 正 竹田勝英 水本加津栄 木村 豊 奥田則夫 前川和博子 若林文夫 長塚恵子 松田 久 渡部和実 君塚徳子 伊藤正延 市野博文 水谷律子 原 みとえ 飯島 啓 西 悦子 成川みさお 中谷孝孝 古川裕子 小栗美恵子 鈴木忠恵子 ◎中村英雄
◎井上由紀晴 ◎西上莉和 (計30名)
- 若狭・梅文巻
2月14日(日) くもり
(集合) 三ツ町駅9・00(車)
水戸湖畔「水花」9・45―休屋10・15―休屋11・00―御土岳11・25(休息)12・50―水花14・

- 15・30(解散)
春一番が吹いた強風の一日。しかし山行中は日差しもあり、春を思わず暖かさ。山を歩きながら三方五湖や日本海が眼下に絶景で、いつもの三倍楽しめた。
- (参加者) 木下朝子 井上由紀晴 谷 守 光川信史 光川一孝子 岩本彩子 石原裕子 池上小夜子 藤部 純 金谷 昭 木戸雪江 吉澤明美 中山 勇 ◎高島伸浩 (計14名)
- 京都北山・天ヶ岳 (週末ハイキング)
2月14日(日) 晴れのちくもり
(集合) JR京橋駅7・50―8・05(ハル) 大原9・00―17―夜光院9・32―東山10・25―35―夜光院道分岐10・35―シャクナゲ尾根分岐11・30―天ヶ岳展望台12・05(休息)13・00―天ヶ岳13・10―15―三ツ文岳13・50―14・00―5250・2414・22―壱土坂14・55―15・05―壱土岳15・20―25―壱土坂15・40―直電鞍馬駅15・55(解散)
- 静思も消えていたので東山山へ登り、春一番の強い南風が吹く百井ニリ道をゆっくり歩いた。シャ

- クナゲ尾根分岐を過ぎると年末に30―50軒あった宿舎の名残が薄結していた。麓下展望台の口前で昼食をとり、風除けの木立の中を東北へ向かった。約半数の有志は壱土岳を往復し、雨雲が落ち始めた遠峰山脈に到着した。
- (参加者) 吉原 清 進井洋子 下村信三 下村信子 堀江房雄 山本恵子 田中善雄 岩越健司 仲代信利 西 寛子 竹内登久子 木家敏子 本間彰子 竹林秀泰子 小林 隆 加藤淳一 宮下淳一 長尾初子 三浦 勝 三浦真友子 夏山春子 川崎敏雄 小川明美 武田初巳 入江武史 関田孝子 松原 栄 権田和子 中谷孝子 田中博子 ◎村野美恵(計31名)
- スノーハイキング
兼備・釜ヶ谷山 (自然観察山行138)
2月14日(日) 朝霧
(集合) JR大垣駅9・00(ハル) 伊自良岡駐車場10・30―40―奥の院コース休憩所11・05―休憩点12・05―釜ヶ谷山12・15(休息)13・10―岩倉谷13・25―龍潭コース―伊自良岡駐車場15・00(ハル) 大垣駅16・15(解散)

今冬は例年比べて雪が少ないので用具は使用せず、つば足で歩いた。参加者は15人と自然観察には手頃な人数だから、樹木の観察をしながらゆっくり歩いた。

(参加者) 近江孝子 袴野美枝子 川原信也 栗橋君子 萩野美紀恵 小崎由利子 砂原恵子 宮路忠孝子 宮路ちへ子 武部山美子 山崎勝美

○奥比良美 ◎鷺見守康(計15名)

- 谷 久雄 栗本敏夫 佐古田文字 山村精男 池田隆一 北村つねみ 島田信吾 丹下由子 山野志保江 佐藤文枝 白木良弘 白木やす子 鈴木 浩 鈴木友子 栗谷ひろ子 多田節子 阿部田忠 宮路ちへ子 原田浩夫 宮田伸子 石井みよ子 葛原安子 南智恵子 石井千恵子 ◎高坂秀彦 ◎山田明男(計15名)
- 三重・横山
2月15日(日) 晴れ
(集合) 近鉄宇治山田駅9・40(車) 横山駅10・35―第三展望台11・40(休息)12・15―横山12・34―浅間山12・45―道田13・32(タクシー) 鶴方駅13・50(解散)
風が強かったが、太陽がサンサンと降り注ぐ日で、リラス式海岸の英樹が青く見え、すばらしいコースを歩いた。
- (参加者) 竹田勝英 小坂きぬ子 藤田博子 村松裕子 橋原信彦 井上久子 栗橋君子 森 美香子 村田紀生 長沢佑美 岡本美千子 多賀久子 小林豊子 ◎藤本桂吉 ◎小出泉春 (計15名)
- 大峰・観音峰
2月15日(日) くもり

御池岳(金輪白山52)
2月15日(日) 雪
(集合) JR関ヶ原駅8・35―三岐西野原駅8・40(車) 山口ゲート前9・10―15―コダムミ谷入口10・30―長命水11・20―奥地後線11・55―幻池12・15(休息)12・45―コダムミ谷入口13・45―山口ゲート前15・00(車) 関ヶ原15・40(解散)
麓は雨、山は吹き雪いた。あまりに寒く、食事を済ませたら後帰ると雪の降りはヒヤヒヤとてきた。登山口まで50程の国道を往復したのでそのぶん暖れた。

(参加者) 山田妙子 伊藤恵美子 今井武司 春見直美 関田三三子 多田博子 西村文男 古戸喜久江

- (集合) 近鉄大和八木駅8・00(ハル) 観音峰登山口9・30―40―観音峰休憩所10・40―観音峰展望台11・00―10―観音峰11・45(休息)12・30―三ツ塚12・55―法刀峠13・45―14・00―柳村ヶ岳登山口15・00―湖川温泉15・20(入浴)16・15(ハル) 八木駅17・50(解散)
楽しみにしていた柳村ヶ岳はあいにく雲がかかって眺望がよくなかった。山頂からの尾根は500m以上の積雪があり、トレースをたどって法刀峠まで歩いて歩いた。
- (参加者) 坂原善雄 小谷初子 西田一江 佐野信江 武部美恵子 山高義治 沖 伸 松島麗子 山根邦枝 井上高子 川田洋子 山根邦枝 井上高子 中崎日出男 宮野信郎 宮野裕子 久保田裕子 木村 豊 竹田勝英 平田輝美 ◎村田賢俊 ◎奥比良美 (計24名)
- 紀北・高妻山 (ファミリーハイキング)
2月19日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(ハル) 山野会館9・15―30―林道終点10・25―30―高妻山11・05(往

- 急11・50―フセ谷分岐12・05―大滝川車合12・35―大滝川森林公園12・50―13・00―山野会館13・40―50(ハル) 方尾峠分岐13・50の湯14・30(入浴)15・40(ハル) 新大阪駅16・30(解散)
美しい日、高妻山を登りながら林道をつむ、クワパメガシ・コナラの自然林を登る。さすがに一等三角点峠の眺めで白鳥山や矢野岳は間近に、和歌山から田辺までパノラマの海に風情を美しめた。
- (参加者) 古川正子 砂原恵美子 吉後孝次 本間昭彦 岩越健子 藤田幸子 柏木孝子 中澤ちよ子 松尾麗子 飯田久子 田中三恵子 村上高子 宮野裕子 伊藤高子 青木一雄 長沢佑美 森本幹雄 竹田勝英 ◎秋野上人 (計30名)
- 奈良・鳥見山から外嶺山
2月22日(日) ◎小出泉春
・雨天のため中止しました。

- 熊鷹山西南風見
2月22日(日) (鈴鹿を歩く187)
(集合) 河内橋本町入口出口8・30(車) 今知山8・40―汗ふら

峠9・30―白崎台10・20―おさる
岩11・00―雲仙山11・50(昼食)
12・40―葛城峠12・50―近江原望
台14・05―雲仙14・50―今相15・
40―今相展望15・50(解散)
雪解けで泥んこの道を走り切ると
大パノラマが展開。そしてカン
ジキ隊を前に雪崩歩き、雲仙山の
ラジヒルでのヒップスキーは最
高。強風と深い霧で幻想的な西南
尾根はスゴゾロとくった。特選
の福寿草と節分草の花も愛でた。

(参加者) 服部 泰 奥野太一郎
三上伸夫 大石将美 栗本敏夫
後藤康幸 今井武司 櫻田勝利
水戸鉄治 谷 守 武村千鶴
加藤園計 岩本彰子 堀木美恵子
○山田登三 ◎宮野 明(計10名)

美濃・2月の舟伏山
2月22日(日)くもり一時小雨
(集合) JR西條駅9・10(集合)
夏坂林道10・30―あいの森駐車場
10・55―11・00―権時11・40―み
のお平12・10(昼食)12・35―舟
伏山13・35―40―みのわ平14・20
―権時14・40―あいの森駐車場15・
10―夏坂林道15・30―40(解散)
雨の手帳70%で参加者は10名と
少なくなりスムーズに行動できた。

雨もほとんど関係なく、雪は思っ
たよりも少なかつた。夏坂林道が
通行止め歩いて山頂まで行った
が、尻セードは雪が少なくてほと
んどできなかった。

(参加者) 金森昭子 伊藤恵子
下村裕子 杉井悦子 今井もと子
谷口文雄 杉山勉久 南 智恵子
山田妙子 ◎山田明男(計10名)
比較・無動車道から曇霧院へ
(北山ちよと歩き5)

2月25日(日)晴れ
(集合) JR比叡山坂本駅8・40
9・00―日吉原駅9・30―紀貫
之墓10・45―坂本ケール11・00
―松茶屋12・10―一本杉12・25
(昼食) 13・30―石鳥居14・00―
天子山三角点14・30―夏坂林道15・
45―一乗寺下り松16・20―30(解
散)
2月26日(月)の1月の陽気。坂本か
ら巨杉に包まれた無動院は貴 観
賢や若僧たちが修行したのだしよ
うか。小鳥の声を聞きながら紀貫
之の墓から天子山三角点を経て夏
坂院へくだった。
(参加者) 木下朝子 宮路ちへ子
フリック知恵子 堀山所蔵
松尾順子 岡田芳良 加藤元彦

高木忠夫 市野博文 原 みとえ
山田勝雄 木間 隆 本間孝子
栗原妙子 西 悦子 砂原恵子
中村 保 小川晴美 山岸勝雄
宮崎紀正 渡部和美 中上紀代子
吉野孝子 桂尾正一 山根弘美
木本慈子 角江朝子 武村千鶴
川上友室 石原孝子 鈴木恵子
中谷嘉孝 扇野正弘 宮口千次郎
小谷和子 岩本彰子 高岡富美子
竹田恵美 和田直樹 中嶋日出男
中川光輝 光川一善子
○玉原 一 ○井上由紀晴
○谷 守 ○橋部 純
◎長山繁三 (計17名)

クロスカントリースキー
中信・美ヶ原
2月27日(日)29日(日)
前後発1泊2日
2月27日(日)29日(日)
前後発1泊2日
(27日)晴れ(集合) JR岐阜
駅23・00(バス)
(28日)晴れ(バス) 松本市松
本温泉3・15(朝食・休憩) 7・
40(バス・市内観光) 入山辺11・
00(送迎バス) 美ヶ原王ヶ頭ホテ
ル12・00―40―美ヶ原温泉スノー
ハイカー王ヶ頭ホテル16・15(送
迎) 29日(くもり) 美ヶ原高原雪上

車体練習王ヶ頭ホテル11・00(送
迎バス) 入山辺12・00(バス) 松
本温泉12・45(入浴・昼食) 14・
30(バス) 岐阜駅18・35(解散)
松本市内入山辺から王ヶ頭まで
バスで登る。見晴らし極めて良好
で、深田名山が47階も見えると
いう高層型に驚く。しかし雪の少
なさに愕然。翌日は一転して猛烈
な地吹雪。ハイクはとりやめ、雪
上車体練習で遊んだ。
(参加者) 伊藤 直 猪村美枝子
内田康夫 小川晴美 井林秀孝子
清川英三 清川陽子 荻野美紀恵
金森昭子 多賀久子 砂原恵美子
栗原孝吉 栗原裕子 岸 すみ子
竹田恵美 多田陽子 中上紀代子
谷 久雄 中尾和子 杉本裕子
仲谷孔司 藤崎茂石 宮本悦子
○志本真幸 ◎賢貞寺守(計16名)

**新ハイキングクラブ開会
入会の案内**

当会は雑誌「新ハイキング関西
の山」(隔月刊・年6号発行)の
定期購読者を中心としたハイキン
グの集いです。
この雑誌は紀行文やコースガイ
ドなどで、関西のハイキングコー
スや山の情報を発信しています。
山の知識を深め、健康な身体をつ
くり、自然のなかを歩く喜びをと
もに広げましょう。
「新ハイキングクラブ」は昭和
25年発足以来、東京を中心に50年
間、好評のうちに活動していま
す。関西は平成5年発足で13年目
に入りますが、すでにたくさんの方
が会員で活動しています。
会員は当会の山行例会に優先し
て参加できます。この山行例会を
通じて正しい山歩きを、美しい山
仲間たちと味わいませんか。
リーダー(係)はすべて無償の
奉仕で、各自で切符を買い茶代を
払い、宿泊料もすべてワリカンで
す。
会員には「新ハイキング関西の
山」を毎月お送りします。
四季の自然に触れながら歩き、

若々しい心と健康をいつまでも持
続するのはすばらしいことです。
これから始めてみたい人も、すで
にベテランの人もみなさんご入会
いただけます。

入会金 500円(パジャマ代
年会費 3000円(送料共)
入会の申し込み(随時)はこの
雑誌に挿入の振替印紙をご利用く
ださい。氏名(ふりがな)及び第
一号からの送本かを忘れずに記
入ください。
なお、定期購読をご希望される
方も会員になっていただけますと、
毎号随時にお手元に届きますので
便利です。
切手530円分をお送りになれ
ば、「新ハイキング関西の山」見
本誌1冊送ります。

○山行リーダー募集
リーダーは2ヶ月に1回程度
度の山行例会を計画・実施してい
ただきます。
無償の奉仕ですが、やりがいも
あり、楽しいものです。経験のある
方や、やってみたいと思われる
方は、新ハイキング関西までご通
信ください。マニュアル「リーダー
必読」もご郵送に送ります。

○新入会員(定期購読者)紹介
新しいお仲間のみなさんです。
会員番号4951番から4971
番まで

- 【京都】 宮城勝江 福屋三千代
山岸勝雄 藤井ひつみ
- 【大阪】 嶋田 誠 大谷 晃
久保謙造 大西一伸
西村明美 大土加代子
岡田幸一
- 【奈良】 上野千津比古
- 【兵庫】 古瀬 一 高山 雄
日野幸衛 加藤元男 (21名)

訂正とお詫び
75号(編集) 11ページ二段16行
「雲仙山」は「雲尾山」が正しい。
75号(編集) 102ページ二段21行
「三重・雲仙山」は「三重・雲仙
山」が正しい。同報告中の「雲仙
山」は全て「雲尾山」です。
75号(編集) 山行計画の岩野さ
んの例会「雑談を歩く」シリーズ
の通し番号「8・6・11・8・(4)回
分」は「8・6・11・9・(4)回
分」が正しい。(編集部)

新ハイキング社(東京) 移転のご案内
(新住所) 〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル301
Tel 事務部門 03-3915-8110
編集室 03-3915-8852
Fax 03-3915-8110

「新ハイキング」のホームページ
インターネットで「新ハイキング」(月刊誌)のハイ
ライトと新刊情報などがご覧いただけます。
<http://shinHai.net/>

毎月お求めになりたい方へ
前もって書店に毎号ほしい
と「購読予約」をされまして、
とこの書店でもお買い求めい
ただけます。偶数月の20日ごろ
(隔月刊)の発売です。